

令和元年度

柏市学力・学習状況調査  
結果報告及び改善案

**『学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む』**

令和元年8月

柏市教育委員会



## 令和元年度 柏市学力・学習状況調査結果報告書 目次

◆教育長巻頭言 浮き足立つことなく	4
■柏市学力・学習状況調査の概要及び結果について	5
□柏市学力・学習状況調査内容について	
□柏市学力状況結果一覧	
□過去5年間の学力状況の推移一覧	
■学ぶ意欲と学ぶ習慣を可視化するための「4つのC」について	11
■【国語】学力状況調査結果（小2～中3） 及び指導改善案（小2・小4・小6・中2）	17
■【社会】学力状況調査結果（小6～中3） 及び指導改善案（小・中）	29
■【算数・数学】学力状況調査結果（小2～中3） 及び指導改善案（小2・小4・小6・中2）	36
■【理科】学力状況調査結果（小6～中3） 及び指導改善案（小・中）	48
■【英語】学力状況調査結果（中2・中3） 及び指導改善案（中2・中3）	54
■生活・学習意識調査結果及び学力との関連について	58
□ICT活用	
□学校図書館	
■分析用エクセルシートの使用法	62

## 浮き足立つことなく

柏市教育委員会

教育長 河 嶋 貞

柏市が独自に実施している「柏市学力・学習状況調査」は、本年度で8年目となりました。市全体としては、小中学校共にすべての教科・学年において、全国とほぼ同程度の結果であり、概ね良好な状況といえます。

しかし、各校、そして子ども一人一人の学びの状況に目を向けると、それぞれ課題となるものが見えてきます。これまでの蓄積されたデータを活用しながら、より細やかな分析を行うことが必要です。そこで、一昨年度より、算数・数学科において、各校の解答状況を分析し、学年や学級ごとに『課題となる問題』を配付しています。これらを参考にして、子ども達個々のつまずきを明らかにし、つまずき解消を目指した授業改善や個別の支援に取り組んでほしいと思います。

このように、本調査結果を自校の状況把握に止めるのではなく、改善に向けた具体的な手立てを講じ、子どもの変化を見届けることが、本調査を継続して実施している趣旨なのです。この報告書に記されている授業改善の方向や効果的指導例を一助に、学びの質を一層高める授業アイデアを考案し、実践されることを願っています。

いよいよ来年度から、小学校において、新学習指導要領の全面实施となります。授業改善の取組を活性化していく視点として「主体的・対話的で深い学び」が位置付けられました。その実現には、これまでの教育実践の蓄積をしっかりと引き継ぎ、学びの基礎を固めることが求められています。決して浮き足立つ必要はなく、目の前にいる子ども達の実態を的確に捉え、個に応じた学びを充実させることが大切です。全ての学級において、そのような授業が展開されることで、子ども達のより良い変化が表れることを切に望むところです。

## 柏市学力・学習状況調査の概要及び結果について

実施日 平成31年4月5日（金）～19日（金）の期間中で、各学校が設定した日

実施校 柏市内小中学校（小学校 42校 中学校 21校）

実施学年及び実施教科等

学校種	学年	人数	実施教科等
小学校	2年	3,458人	2～5年は、国語及び算数（2教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート） 6年は、国語，社会，算数，理科（4教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）
	3年	3,624人	
	4年	3,663人	
	5年	3,643人	
	6年	3,619人	
中学校	1年	3,196人	国語，社会，数学，理科（4教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）
	2年	3,086人	国語，社会，数学，理科，英語（5教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）
	3年	3,152人	生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）

### 柏市学力・学習状況調査内容について

#### 【学力調査事項】

- ・児童生徒の前年度の履修内容を調査
- ・出題内容は、学習指導要領の評価の観点に基づいて出題
- ・基礎問題と活用問題で構成されており、活用問題は「思考力・判断力」「表現力」を問う問題で出題
- ・国語と英語は全学年で聞き取り問題と作文を出題
- ・記述論述問題を一定量（35～50%）出題し、作図や作文の問題、論理的思考力や考えるプロセスを考慮した問題を出題

#### 【生活・学習意識調査事項】

- ・学習意欲，学習習慣，生活習慣，学校図書館やICTの活用等に関するアンケート調査  
小2（一部小4）から中3まで，同一設問で調査  
調査項目のうち40項目は，学ぶ意欲と習慣を図る指標として数値化する。

#### 【学力調査分析内容について】

学年・教科別に正答状況を数値で示す。

まず、当該学年教科について、全国の平均正答率と本市の平均正答率を比較し、レーダーチャート図に整理したもので全体傾向を把握できるようにした。

次に、経年変化として、本年度の当該学年教科の平均正答率と、同一児童生徒の1年前のものとの比較、前年度同学年の児童生徒のものとの比較を、レーダーチャート図にまとめた。子供たち自身の成長を把握すると同時に、前年度の子供たちとの比較をし、経年変化を2側面から分析した。

調査結果から把握できる、子供たちの良さ（強み）と課題を示し、良さを伸ばしつつ、課題を克服していくための授業改善について、改善の方向性や具体的指導例を示した。

【生活・学習意識調査について】

学ぶ意欲，学校図書館活用，ICT活用の度合いと，学習状況との比較を行い，よりよい授業改善に資する内容を記載した。

柏市学力状況結果一覧

令和元年度 柏市学力状況調査 結果一覧表																										
学年		国語					社会					算数/数学					理科				英語					
		基礎		活用			基礎		活用			基礎		活用			基礎		活用		基礎		活用			
					思考・判断力	表現力			思考・判断力	表現力			思考・判断力	表現力			思考・判断力	表現力			思考・判断力	表現力				
小2年	目標値	78.0	82.6	56.3	55.0	57.5																				
	市町村 平均正答率	79.4	84.2	56.5	56.0	57.1																				
	前年度 市町村 平均正答率	79.5	84.7	55.2	53.0	57.4																				
	全国 平均正答率	79.9	84.9	56.2	55.4	56.9																				
	評価	≒	≒	≒	≒	≒																				
小3年	目標値	74.6	77.8	62.0	65.0	57.5																				
	市町村 平均正答率	77.5	80.4	65.7	70.7	58.1																				
	前年度 市町村 平均正答率	78.2	81.2	66.1	70.7	59.2																				
	全国 平均正答率	78.9	81.9	66.8	72.1	58.9																				
	評価	≒	≒	≒	△	≒																				
小4年	目標値	68.0	72.6	47.0	48.3	45.0																				
	市町村 平均正答率	70.9	75.5	49.6	51.7	46.3																				
	前年度 市町村 平均正答率	70.1	74.9	48.1	49.6	45.8																				
	全国 平均正答率	70.2	74.6	49.7	51.6	46.9																				
	評価	≒	≒	≒	≒	≒																				
小5年	目標値	68.4	71.3	55.0	60.0	47.5																				
	市町村 平均正答率	74.3	78.2	55.8	59.9	49.7																				
	前年度 市町村 平均正答率	74.4	78.1	56.7	61.3	49.7																				
	全国 平均正答率	73.6	77.4	55.5	60.1	48.5																				
	評価	△	△	≒	≒	≒																				
小6年	目標値	68.1	72.1	49.0	53.3	42.5	66.4	69.6	49.0	50.0	47.5	63.3	68.1	42.1	48.0	27.5	69.5	72.8	59.4	55.8	70.0					
	市町村 平均正答率	72.3	77.1	49.1	53.0	43.2	66.8	70.1	49.1	50.7	46.6	66.9	72.0	44.3	52.5	23.7	71.1	75.1	58.6	55.2	68.6					
	前年度 市町村 平均正答率	72.7	77.4	49.9	54.8	42.6	67.2	70.4	49.9	52.2	46.5	67.8	73.0	44.5	52.4	24.6	72.1	76.1	59.4	56.0	69.8					
	全国 平均正答率	74.6	79.3	52.1	57.3	44.5	69.4	72.5	52.3	54.3	49.4	69.9	74.8	48.3	55.8	29.8	72.6	76.5	60.5	56.8	71.5					
	評価	≒	△	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒					
中1年	目標値	66.2	69.8	54.3	60.0	40.0	61.2	63.4	50.8	55.0	30.0	67.5	68.6	61.7	70.0	45.0	62.6	64.2	57.5	58.0	56.7					
	市町村 平均正答率	69.9	73.6	57.7	64.6	40.4	63.0	66.2	48.0	53.4	21.4	70.3	71.0	66.7	76.9	46.4	66.1	66.8	64.1	68.7	56.4					
	前年度 市町村 平均正答率	69.7	73.6	57.0	63.9	39.8	61.9	65.5	45.4	50.3	21.4	69.4	70.0	65.8	75.8	45.8	65.7	66.5	63.3	68.0	55.5					
	全国 平均正答率	68.8	72.7	56.0	62.1	40.8	62.1	65.6	45.8	50.3	23.2	69.7	70.5	65.4	76.0	44.4	64.0	64.6	62.0	64.9	57.2					
	評価	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	▼	≒	≒	△	△	≒	≒	≒	△	△	≒					
中2年	目標値	69.4	71.8	60.7	63.0	55.0	52.3	54.2	42.0	38.3	47.5	58.2	61.8	44.4	48.3	32.5	56.0	60.4	41.9	41.7	42.5	57.1	62.0	45.0	58.8	35.8
	市町村 平均正答率	72.2	74.7	63.5	66.7	55.6	54.9	55.3	52.7	49.2	57.9	62.4	66.3	47.8	52.5	33.7	55.6	59.2	43.8	44.2	42.6	63.4	67.8	52.5	64.3	44.6
	前年度 市町村 平均正答率	72.7	75.2	63.8	67.2	55.4	55.4	55.9	53.0	48.7	59.4	61.4	65.1	47.5	52.1	33.8	55.8	59.4	44.0	44.5	42.5	62.7	66.7	52.6	64.8	44.4
	全国 平均正答率	72.9	75.1	64.9	68.1	56.9	56.1	56.4	54.7	50.1	61.5	62.1	66.1	47.3	51.6	34.3	56.8	60.4	45.0	45.1	44.9	62.3	66.6	51.5	64.3	43.0
	評価	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	△	△	△	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	△	△	△	△	△
中3年	目標値	65.8	69.4	52.1	46.0	67.5	56.8	60.2	40.0	40.0	40.0	56.4	59.4	40.8	42.5	37.5	54.3	58.1	41.3	40.0	43.3	57.3	63.4	42.0	52.5	35.0
	市町村 平均正答率	69.2	72.6	56.6	49.2	75.3	59.1	62.1	44.1	36.2	55.9	58.5	61.9	41.1	41.5	40.5	56.6	60.4	43.9	42.5	46.1	63.1	68.0	50.7	61.0	43.9
	前年度 市町村 平均正答率	69.7	73.4	56.1	48.4	75.4	58.1	61.1	43.3	35.9	54.4	59.1	62.7	40.5	40.5	40.4	56.3	60.5	41.8	41.0	43.3	62.6	67.5	50.3	59.9	43.9
	全国 平均正答率	71.3	75.0	57.6	49.4	78.1	59.3	62.0	45.6	37.5	57.8	60.4	63.8	43.0	42.5	44.2	56.4	60.4	43.2	41.9	45.4	63.7	68.8	51.0	61.2	44.2
	評価	≒	≒	≒	≒	△	≒	≒	≒	≒	△	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	△	≒	△	△	△

評価欄説明 ≒ 目標値同等の学力 △ 目標値以上の学力 ▼ 目標値に達せず課題あり

【目標値とは，問題作成時に十分に学力が備わっている状況として設定され，統計的に処理されている期待値】

### 【小学校の結果】

学年別、教科別それぞれを見ると、全学年とも全国とほぼ同程度で、概ね良好な状況といえる。しかし、小学6年は、全教科とも前年度の平均正答率を下回った。特に、国語、社会、算数においては、全国平均正答率より2ポイント以上下回っている。また、小学5年の算数についても、同様の結果が見られ、改善を図っていく必要がある。

各教科の基礎・活用の結果を見ると、国語における、小学2年の活用と小学4年の基礎、小学5年の基礎・活用について、全国平均正答率を上回った。一方で、全学年を通じて、算数の活用（思考・判断力及び表現力）については課題が見られるので、今後の授業改善の視点と捉えたい。

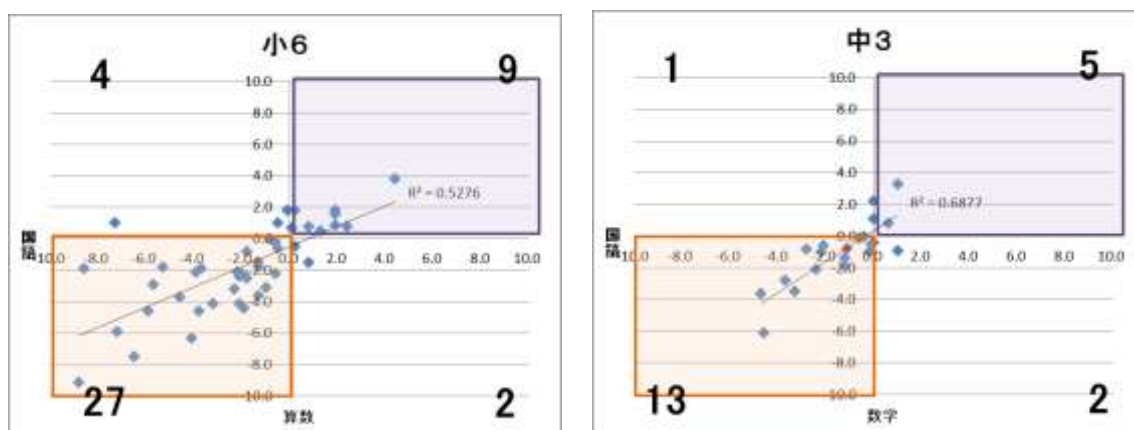
### 【中学校の結果】

学年別、教科別それぞれを見ると、全学年とも全国とほぼ同程度で、概ね良好な状況といえる。中でも中学1年の理科に指導の成果が表れている。一方で、中学2年と3年の社会が全国平均正答率より2ポイント以上下回っており、改善を図っていく必要がある。

各教科の基礎・活用の結果を見ると、中学1年は、全教科において全国平均正答率を上回った。また、英語については、昨年度までと同様に良い結果が得られた。一方で、社会の活用（表現力）が、全学年で若干の課題が見られ、今後の授業改善の視点と捉えたい。

下図は、小学6年と中学3年の結果について、縦軸を算数・数学、横軸を国語として、標準スコアとの差を表したものである。中心が全国標準となり、右上に位置する学校は、どちらの教科でも標準スコアを上回っている良好な結果となる。反対に、左下に位置する学校は、どちらの教科でも標準スコアを下回っている課題がある結果となる。小学6年は、多くの学校が中心から左下に位置している。教科における顕著な偏りは見られないが、国語のみに課題のある学校が数校存在する。中学3年は、多少のばらつきは見られるものの、概ね全国標準付近に位置している。

標準スコアとの差による学校の分布（国語-算数/数学）

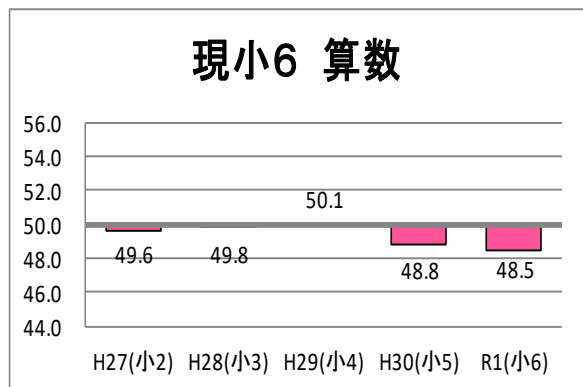
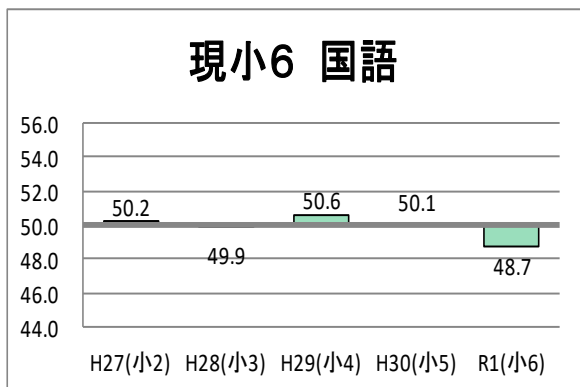
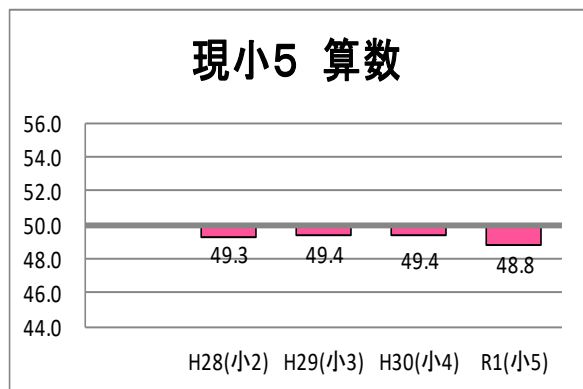
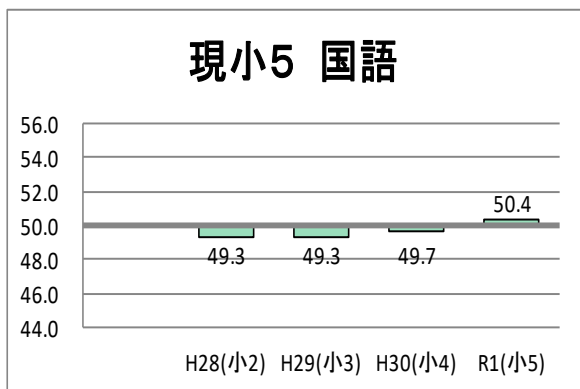
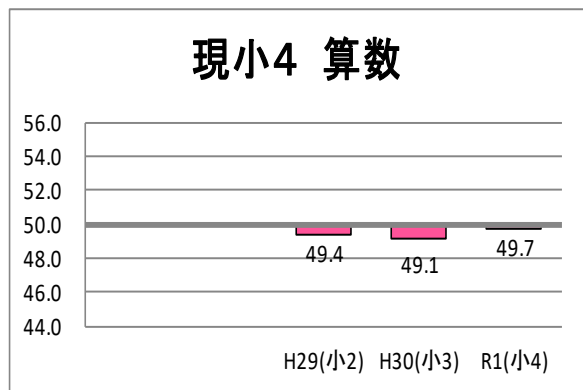
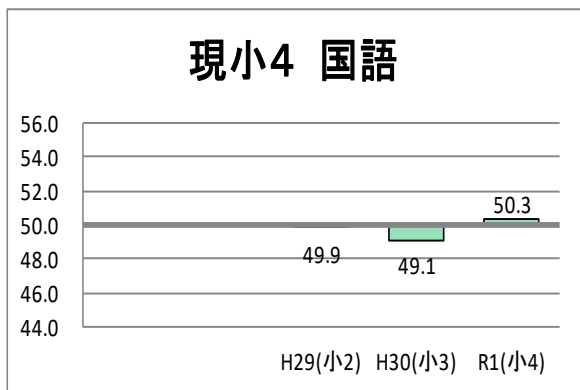
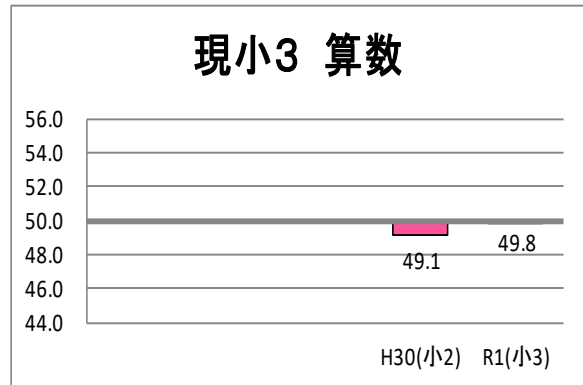
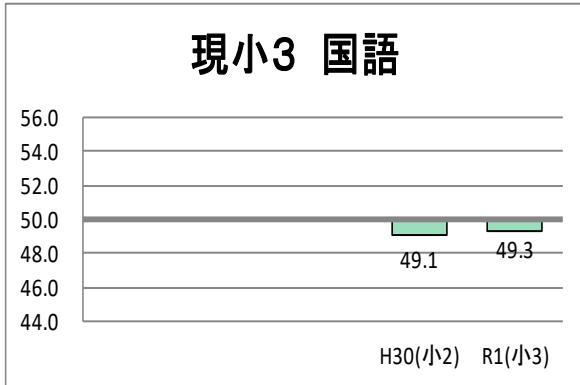


以上が、柏市全体の結果概要になるが、各学校においては、この結果がすべて当てはまるわけではない。従って、各学校に送付されている結果について、校内で詳細に分析することが重要となる。また、分析結果について、中学校区の学校と共有することも大切な視点である。各中学校区で「子供をどう育てるか」など協議し、授業改善につなげていくことを期待する。

## 過去5年間の学力状況の推移一覧

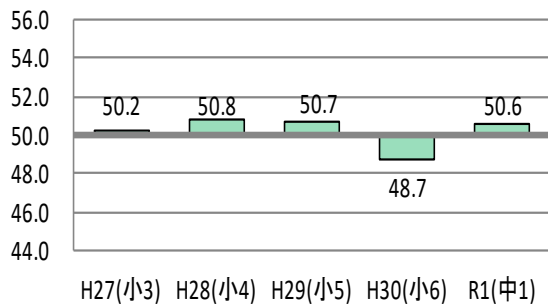
過去5年間の児童生徒の変化を標準化得点によりグラフ化したものを示す。

【中央の線が標準スコアとなり、良い場合は上向き、劣る場合は下向きに表示】

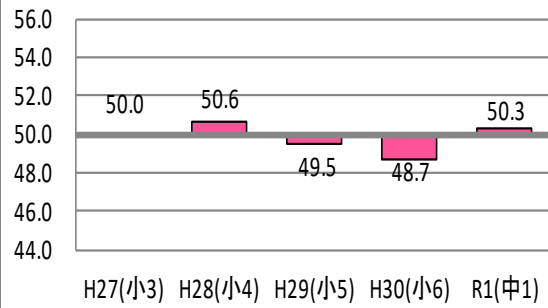




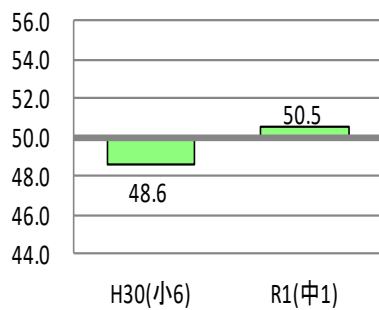
### 現中1 国語



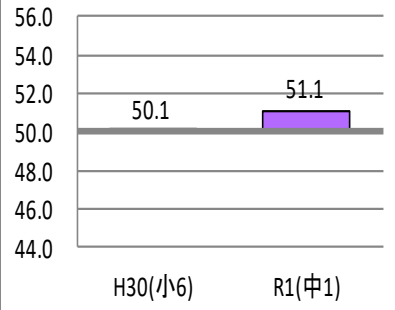
### 現中1 算数/数学



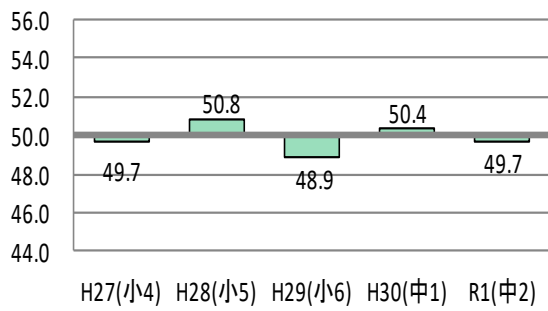
### 現中1 社会



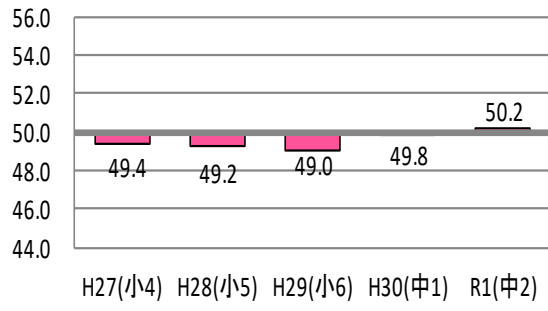
### 現中1 理科



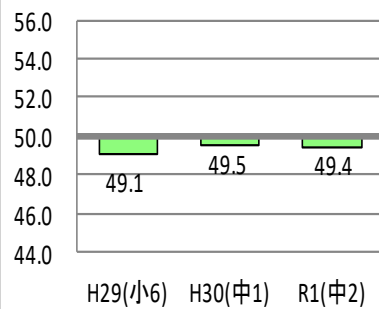
### 現中2 国語



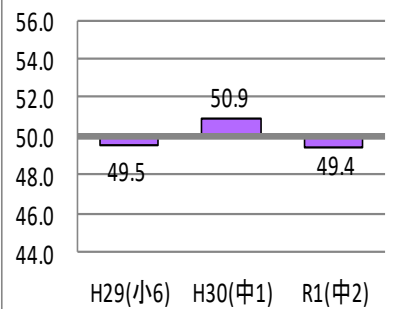
### 現中2 算数/数学

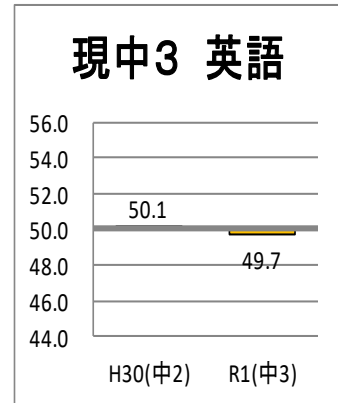
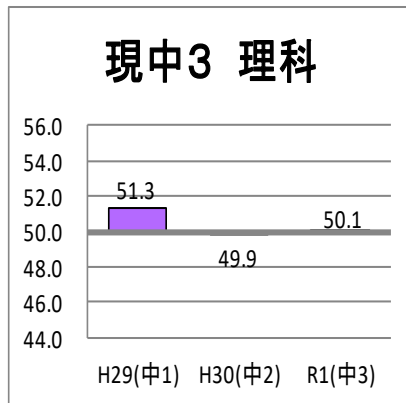
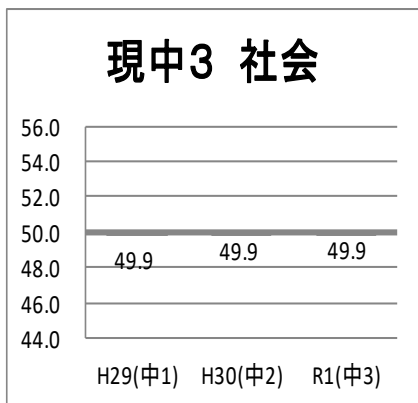
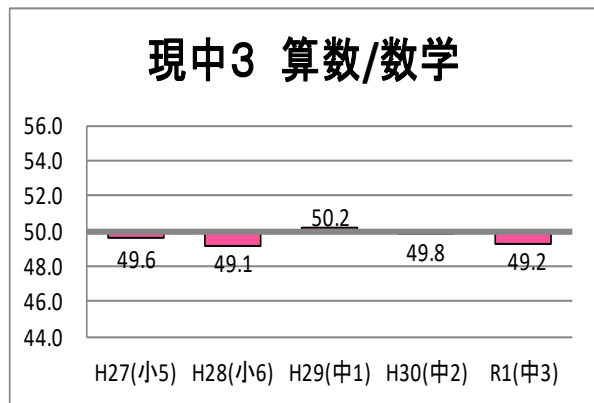
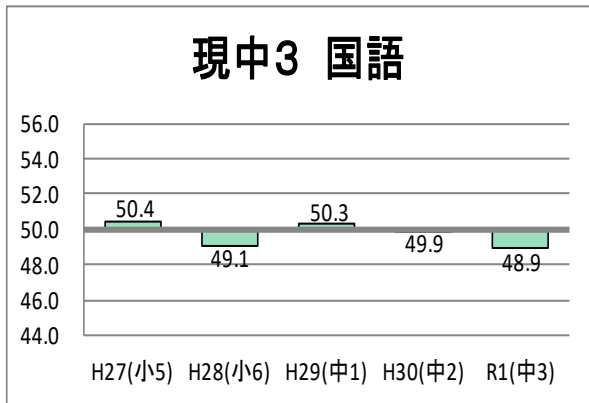


### 現中2 社会



### 現中2 理科





今年度も、算数・数学において各校で正答率が低かった問題を分析し、学年や学級ごとに『課題のある問題』として全校に配付した。子供がつまづきやすい単元や内容を明確にすることで、日々の授業を改善し、個別の支援に役立てることをねらいとしているので、ぜひ役立ててほしい。

また、柏市の同一集団の児童生徒の状況を全国（標準スコア）と比較すると、経年により力が落ちていく集団が見られる。この危機感を柏市全教職員で共有し、児童生徒が意欲を持って学べるよう、授業改善を強く押し進める必要がある。

## 学ぶ意欲と学ぶ習慣を可視化するための「4つのC」について

柏市教育委員会では、児童生徒の学力向上において、学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけることが最重要課題であるとしている。

なぜ、意欲と習慣に焦点を当てているのか。

児童生徒が大人として活躍する21世紀中盤から後半の社会は、知識基盤社会と言われ、“正解と言われる解”の無い課題に対して、他者と協力し合いながら最善を尽くし、新たなものを創造する力が求められている。知識を利用しながら定型的な処理をする仕事は、第四の産業革命と言われるロボットの台頭により無くなるだろうと言われ、数多くの仕事が消えて無くなる仕事リストに掲げられ、今の小学生の65%は、現在存在しない職業に就くだろうとも言われている。

このような近未来社会へ向けて「学力」を育む時、「学力」を「学んだ結果」として捉えるのではなく、「学ぶ力」として捉えることが、21世紀を生き抜く為の「学力」の実態に即していると考えられる。そして、この学ぶ力の根底となるものが学ぶ意欲と学ぶ習慣である。

ここに示す4つの力「見通す力（Concept）」「挑戦する力（Challenge）」「関わり合う力（Communication）」「自律する力（Control）」は、変化の激しい時代を生き抜く柏市の児童生徒に身に付けて欲しい力である。即ち「4つのC」＝学ぶ力であり、それは困難に直面したとき乗り越える為に学ぼうとする力であり、生涯学び続ける力である。我々は、日々の学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む教育活動の中で児童生徒の学ぶ力が培われていくものと考えている。

学習状況調査では、児童生徒一人一人の「4つのC」の定着状況を数値化できるように、全学年共通で40の質問項目を設定した。この数値が63校共通の指標となり、児童生徒の学ぶ力が全校で共有化され、授業改善を図る為の指標となることを目指すものである。

### 学ぶ意欲と学ぶ習慣を支える4つの力（4つのC）はこう決まった

平成25年度第2回調査結果から、学校が好き、国語や算数が好きと回答する児童生徒の割合が正答率も高く、学ぶ意欲と正答率の相関関係が認められた。さらに、好きと回答する割合は、小学校高学年から急激に低下し、その低下と正答率の低下にも相関が認められ、学ぶ意欲を持続することが課題であると認識された。

さらに、学ぶ習慣の指標とされる家庭学習時間30分以内と回答する児童生徒が、小学校4年生で50%存在するが、中学校3年でも40.6%存在するという事実を把握し、学ぶ習慣を身につけることの重要性も認識された。

平成26年度第3回調査結果を元に、児童生徒の学ぶ意欲と学ぶ習慣の状況について分析を行った。分析の結果から、中学校区単位で取り組んだり、学校全体の授業改善を通して取り組んだり、組織的に授業における指導改善を行った学校で、一定の効果が見られることがわかった。

このことから、意欲と習慣に関する指標を明確に設定し、校内や中学校区において共通目標を持って取り組めるようにすることが重要であることがわかった。そこで、これからの子供たちに必要な力を、学校管理職・学校教職員・市役所事務系職員・指導主事・管理主事等総勢50名近くにより、複数回のブレインストーミングを通して抽出されたキーワードが、「見通す力」「挑戦する力」「関わり合う力」「自律する力」の4つの力である。

当初、「挑戦する力」と「関わり合う力」の2つを意欲、「見通す力」と「自律する力」の2つを習慣とする考えもあったが、4つの力それぞれに、意欲的に取り組むことと、習慣化することの両面があるとの結論に至り、4つの力ごとに「意欲」に関する質問項目と「習慣」に関する質問項目を5項目ずつ設定して、計40項目を評価指標とした。

4つの力（4つのC）質問項目一覧

4つのC	見出し	番号	小学校2～4年生用	小学5年生～中学校1年生用	中学校2・3年生用		
コンセプト	意欲	夢・目標	1	しょうらいのゆめはありますか。	将来の夢や目標を持っていますか。	将来の夢や目標を持っていますか。	
		計画	4	きまった時間にしゅくだいをして していますか。	ものごとに取り組む時、計画を立て て取り組んでいますか。	物事に取り組む時、計画を立てて取 り組んでいますか。	
		計画の見 直し	5	やろうとしたことがうまくいかなかったと き、へつのやりかたをかんがえますか。	ものごとが計画的に進まない時、計 画の見直しをしていますか。	物事が計画的に進まない時、計画の 見直しをしていますか。	
		地域社会 への関心	28	テレビのニュースを見ていま すか。	地域・社会で起こっているできごとやニ ュースに関心がありますか。	地域・社会で起こっているできごと やニュースに関心がありますか。	
		地域社会 への貢献	27	学校でべんきょうしたことを、だれかのため にやくだてたいとおもいますか。	学校で学んだことを、地域や社会のため に役立てたいと思いますか。	学校で学んだことを、地域や社会の ために役立てたいと思いますか。	
	見通す力	習慣	学習のめ あて	6	めあてをかんがえながらべんき ょうをしていますか。	めあてや学習課題を意識して授業 に参加していますか。	めあてや学習課題を意識して授業 に参加していますか。
			予想	7	もんだいをとくときに、よそを たてていますか。	課題に対して予想を立てて勉強し ていますか。	課題に対して予想を立てて勉強し ていますか。
			本・ICT 活用	8	本でしらべることがすきですか。	課題を解決するために、本やコンピ ュータなどを活用していますか。	課題を解決するために、本やコンピ ュータなどを活用していますか。
			学習方法 （関わり）	15	わからないことがあったとき、人に聞いたり じぶんですらべたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり 自分で調べたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり 自分で調べたりしていますか。
			学習の振 り返り	20	じゅぎょうのおわりに、まとめや ふりかえりをしていますか。	ものごとに取り組んだ時、まとめや 振り返りをしていますか。	物事に取り組んだ時、まとめや振り 返しをしていますか。
チャレンジ	意欲	学習の目 標	3	ことしのもくひょうはありま すか。	ものごとに取り組む時、目標を立て て取り組んでいますか。	物事に取り組む時、目標を立てて取 り組んでいますか。	
		発見する 喜び	25	べんきょうをして、あたらしいこ とを知ることはうれしいですか。	学習して新しいことを知ったり、身につ けたりすることはうれしいですか。	学習して新しいことを知ったり、身につ けたりすることはうれしいですか。	
		困難さへ の挑戦	36	むずかしいことでもちようせん していますか。	難しいことでも、失敗をおそれない で挑戦していますか。	難しいことでも、失敗をおそれない で挑戦していますか。	
		粘り強さ	37	こまったときに、あきらめずにいろ んなやり方をかんがえていますか。	困難に直面しても、あきらめずにいろ んな方法を考えていますか。	困難に直面しても、あきらめずにいろ んな方法を考えていますか。	
		承認経験	41	友だちからほめられてうれし かったことはありますか。	友だちから認められてうれし かったことはありますか。	友だちから認められてうれし かったことはありますか。	
	挑戦する力	習慣	夢・目標 への努力	2	そのゆめにむかってがんばっ ていますか。	将来の夢や目標に近づくために努 力していますか。	将来の夢や目標に近づくために努 力していますか。
			ノートの 工夫	16	ていねいにノートを書いていま すか。	ノートの取り方について、自分なり の工夫をしていますか。	ノートの取り方について、自分なり の工夫をしていますか。
			間違いの 見直し	22	テストでまちがえた問題は、あ とでやりなおしていますか。	テストでまちがえた問題は、後でや り直していますか。	テストでまちがえた問題は、後でや り直していますか。
			学びの活 用	26	学校でべんきょうしたことを、い えでの生活に生かそうとしていますか。	学校で学んだことを、普通の生活に 生かそうと考えていますか。	学校で学んだことを、普通の生活に 生かそうと考えていますか。
			読書習慣	23	すすんで本を読んでいますか。	進んで本を読んでいますか。	進んで本を読んでいますか。

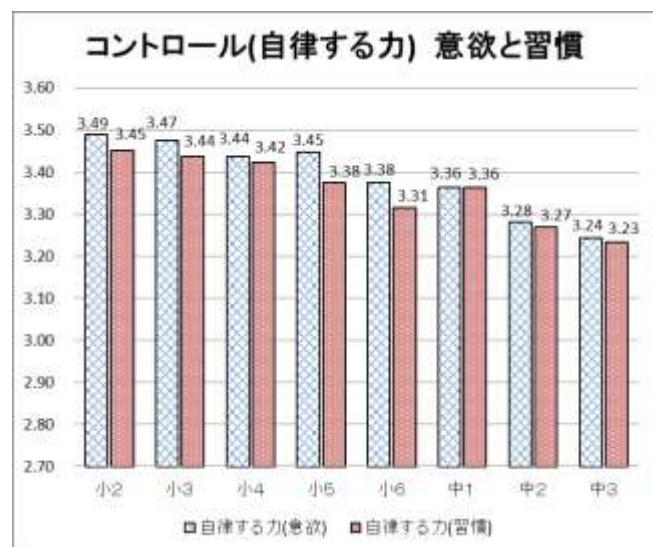
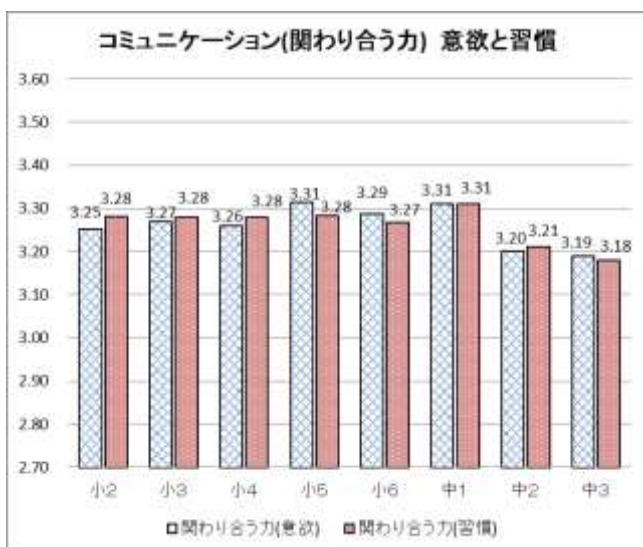
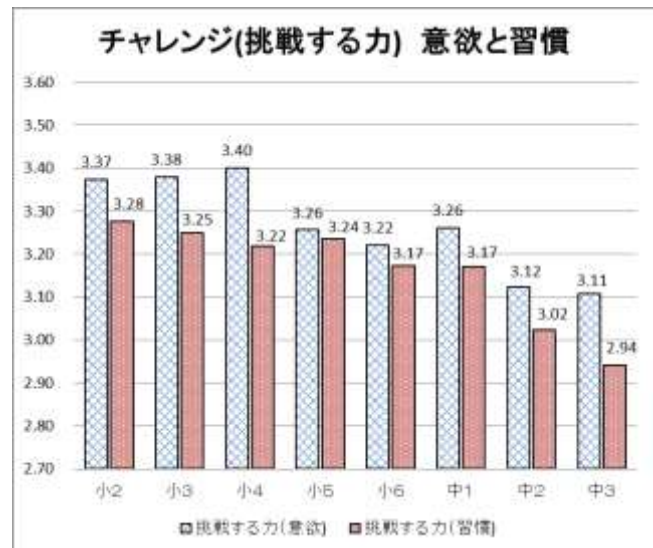
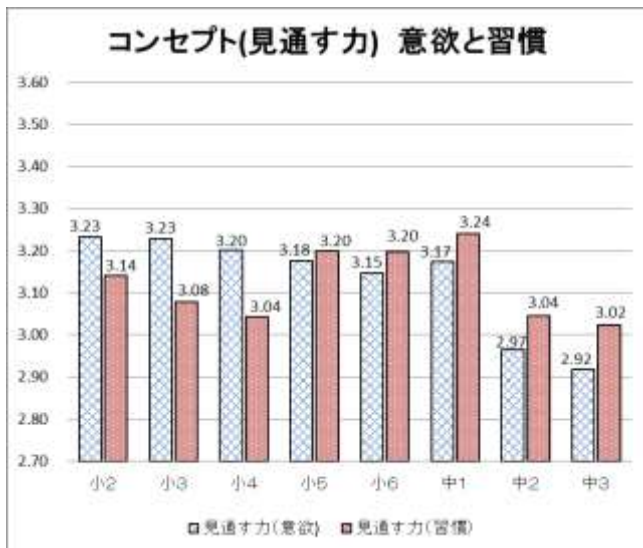
コミュニケーション	意欲	地域行事への参加	29	ちいきのぎょうじ（おまつりなど）やボランティアかつどうにさんかしていますか。	地域の行事やボランティア活動に参加しようと思いますか。	地域の行事やボランティア活動に参加しようと思いますか。
		思いやり（意欲）	38	人の気持ちがわかる人になりたいと思いますか。	人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか。	人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか。
		傾聴（意欲）	17	話し合いをする時、友だちの話をしっかりと聞いていますか。	話し合いをする時、相手の考えをしっかりと聞きたいと思いますか。	話し合いをする時、相手の考えをしっかりと聞きたいと思いますか。
		あいさつ	30	じぶんから先にあいさつしていますか。	自分から先にあいさつすることをころがけていますか。	自分から先にあいさつすることをころがけていますか。
		積極的な発言	18	話し合いをする時、じぶんの思ったことやかんがえたことをすすんで話していますか。	話し合いをする時、自分の意見を積極的に発言しようと思いますか。	話し合いをする時、自分の意見を積極的に発言しようと思いますか。
	習慣	家庭での会話	31	いえの人と学校のできごとについて話をしていますか。	家の人と学校のできごとについて話をしていますか。	家の人と学校のできごとについて話をしていますか。
		傾聴（習慣）	44	先生や友だちのはなしをよく聞いていますか。	先生や友だちの話をよく聞いていますか。	先生や友だちの話をよく聞いていますか。
		思いやり（習慣）	45	学校で、友だちの気持ちを考えてこうしていますか。	普通の生活の中で、相手の立場を考えて行動していますか。	普通の生活の中で、相手の立場を考えて行動していますか。
		仲間づくり	46	友だちになりたいとおもったとき、じぶんから声をかけていますか。	友だちになりたいと思った時、自分から声をかけていますか。	友達になりたいと思った時、自分から声をかけていますか。
		意思表示	49	先生や友だちにいいたいことをうまくはなすことはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく伝えることはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく伝えることはできますか。
コントロール	意欲	貢献意欲	39	しょうらい人のやくに立つ人になりたいと思いますか。	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
		自己肯定感	40	じぶんによいところがあるとおもいますか。	自分に良いところがあると思いますか。	自分に良いところがあると思いますか。
		授業への集中	19	じゅぎょうにしゅう中していますか。	集中して授業に取り組んでいますか。	集中して授業に取り組んでいますか。
		がんばっていること	51	学校生活でがんばっていることはありますか。	学校生活で打ち込めるもの、がんばっていることはありますか。	学校生活で打ち込めるもの、がんばっていることはありますか。
		運動への意欲	52	体をうごかすこと（うんどう・スポーツ・外あそびなど）は好きですか。	体を動かすこと（運動・スポーツ・外遊びなど）は好きですか。	体を動かすこと（運動・スポーツ・外遊びなど）は好きですか。
	習慣	規範意識	42	学校のきまりをまもっていますか。	学校の規則やクラスで決めたことを守っていますか。	学校の規則やクラスで決めたことを守っていますか。
		家庭学習	21	しゅくだいをきちんとやっていますか。	宿題や課題をきちんとやっていますか。	宿題や課題をきちんとやっていますか。
		素直さ	50	じぶんがわるかったとおもうときは、すなおにあやまっていますか。	自分が悪かったと思う時は、すなおにあやまっていますか。	自分が悪かったと思う時は、すなおにあやまっていますか。
		運動習慣	53	体いくのじゅぎょういがいに、すすんで体をうごかしていますか。	体育の授業以外に、積極的に体を動かしていますか。	体育の授業以外に、積極的に体を動かしていますか。
		規則正しい生活	54	まい日おなじくらのじかんにねて、あさはじぶんでおきていますか。	毎日同じくらの時刻に寝て、朝は自分で起きていますか。	毎日同じくらの時刻に寝て、朝は自分で起きていますか。

## 4つの力（4つのC）の状況について

柏市全体では、4つの力の総合平均が、平成28年度3.24、平成29、30年度3.26、今年度3.25となり概ね同程度で推移している。昨年度とほぼ同等の値となったことは、各学校がそれぞれの目標を持ち、継続して取り組んでいる成果であるといえる。ただし、学校間における差は見られるので、各学校で状況を詳しく分析する必要がある。

同一集団における変容を見ると、小学5年のコンセプト（見通す力）の習慣面が、4年時より大きく向上している。一方で、ほぼ全学年において、コントロール（自律する力）の意欲・習慣面が、共に前年度より低下する結果となった。

さらに、中学2年においては、40項目のうち、0.1ポイント以上減少した項目が31項目あった。いわゆる「中1ギャップ」への対応がより一層求められている。これらの対応を含め、学ぶ意欲を高めるための授業改善や教育課程の工夫を引き続き行っていただきたい。また、改善の手立てが有効に機能したものについては、共有化を図っていきたい。



令和元年度 生活・学習意識調査 結果一覧表(平成30年度と比較して)

		4 C 総 平均	意 欲	習 慣	見通す力		挑戦する力		関わり合う力		自律する力	
					意 欲	習 慣	意 欲	習 慣	意 欲	習 慣	意 欲	習 慣
H30	小2	3.34	3.37	3.31	3.25	3.16	3.40	3.28	3.30	3.32	3.52	3.47
	小3	3.30	3.34	3.26	3.22	3.06	3.38	3.25	3.27	3.27	3.48	3.45
	小4	3.29	3.34	3.25	3.23	3.04	3.39	3.23	3.28	3.28	3.45	3.45
	小5	3.29	3.30	3.28	3.18	3.20	3.25	3.27	3.33	3.27	3.44	3.37
	小6	3.26	3.27	3.25	3.16	3.21	3.24	3.20	3.28	3.26	3.38	3.33
	小学計	3.30	3.32	3.27	3.21	3.13	3.34	3.25	3.29	3.28	3.45	3.42
	中1	3.29	3.29	3.29	3.17	3.28	3.26	3.19	3.33	3.31	3.39	3.37
	中2	3.16	3.17	3.15	2.98	3.05	3.15	3.05	3.24	3.21	3.31	3.28
	中3	3.11	3.12	3.10	2.91	3.03	3.11	2.97	3.21	3.17	3.24	3.23
	中学計	3.18	3.19	3.18	3.02	3.12	3.17	3.07	3.26	3.23	3.31	3.29
	小中計	3.26	3.28	3.24	3.14	3.13	3.28	3.19	3.28	3.26	3.41	3.37
R1	小2	3.31	3.34	3.29	3.23	3.14	3.37	3.28	3.25	3.28	3.49	3.45
	小3	3.30	3.34	3.26	3.23	3.08	3.38	3.25	3.27	3.28	3.47	3.44
	小4	3.28	3.32	3.24	3.20	3.04	3.40	3.22	3.26	3.28	3.44	3.42
	小5	3.29	3.30	3.27	3.18	3.20	3.26	3.24	3.31	3.28	3.45	3.38
	小6	3.25	3.26	3.24	3.15	3.20	3.22	3.17	3.29	3.27	3.38	3.31
	小学計	3.29	3.31	3.26	3.20	3.13	3.33	3.23	3.28	3.28	3.44	3.40
	中1	3.27	3.28	3.27	3.17	3.24	3.26	3.17	3.31	3.31	3.36	3.36
	中2	3.14	3.14	3.14	2.97	3.04	3.12	3.02	3.20	3.21	3.28	3.27
	中3	3.10	3.11	3.09	2.92	3.02	3.11	2.94	3.19	3.18	3.24	3.23
	中学計	3.17	3.18	3.17	3.02	3.10	3.16	3.05	3.23	3.23	3.30	3.29
	小中計	3.25	3.27	3.23	3.14	3.12	3.27	3.17	3.26	3.26	3.39	3.36

### 4つの力(4つのC)を活用する授業改善について

#### (1) 効果的な実践を共有する

「学ぶ意欲と学ぶ習慣」を可視化する「4つのC」の改善に取り組むことは、結果として子供たちに学ぶ力を育成することとなり、柏市が目指す学力の育成に繋がると考えている。

4つのCに関する質問は、小学校2年生から中学校3年生まで共通内容で実施した。(文言は年齢相応に変更)これは、課題を共有化し、効果のある実践を共有化することにつながるように意図して行っていることである。各学校・各学級の課題解決に向けた取り組みが、オール柏の実践に反映していけることを理想に掲げ、お互いの実践交流が頻繁に行われることを期待している。

#### (2) 指標を生かした授業改善マネジメントを進める

課題とは、目指す姿と現状との差のことを指す。

自校の課題を明確にするために、4つのCの指標を活用し、目指す子供の姿と現状を把握した上で取り組めるよう、次のような手立てを講じるよう努めたい。

##### ① 子供たちの今の姿(現状)を共有する

学習状況調査の4つのCのデータから、課題は何か、自校の強みと弱み等を分析し全職員(事務やサポート・図書館・理科等の人材も含むと良い)で共有化を図る。

##### ② 目指す子供の姿の共有化

課題(現状と目指す姿との差)が明確になったら、全職員によるワークショップ型研修により、自校の子供たちに付けたい力を出し合い、共通理解を深めながら最も力を入れて取り組む内容(指標の質問項目)を1~3点程度に定め、全職員で共有する。

③ 課題解決に向けた実践の手立てを共有する

最も力を入れて取り組む内容（指標の質問項目）が定まったら、この力を育むために授業の中で何に留意し、どう取り組むか（教科・学年ごとに）の方針を立て実践する。また、学校生活や学校行事の中でどう取り組むかを共通理解する。これらの取組の中で効果的な手立てがあれば実践の共有化を図る。

④ 子供たちの姿を見取りながら実践を深める

柏市学力・学習状況調査は年1回であるが、学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む為の日々の実践が重要である。課題に偏ることなく、指標となる項目をもとに、子供たちの意識の変化や指導の効果を検証し、子供たちの現状を見取りながら実践を進めることが大事である。授業改善が子供たちの学ぶ力の育成に繋がった時、成就感や達成感とともに、組織としての一体感を得ることができる。

(3) 家庭や地域との連携に生かす

指標から自校の課題を明確にして、全職員で共通実践を行うと同時に、家庭や地域の協力が必要な項目について1～2点程度選び、家庭や地域に具体的に協力を依頼することも大事である。教育ミニ集会等のテーマとして、全職員で行ったようなワークショップを実施して、参加者みんな決めて、参加者みんなで活動することにより、マネジメントサイクルを生かした取組が実施できる。

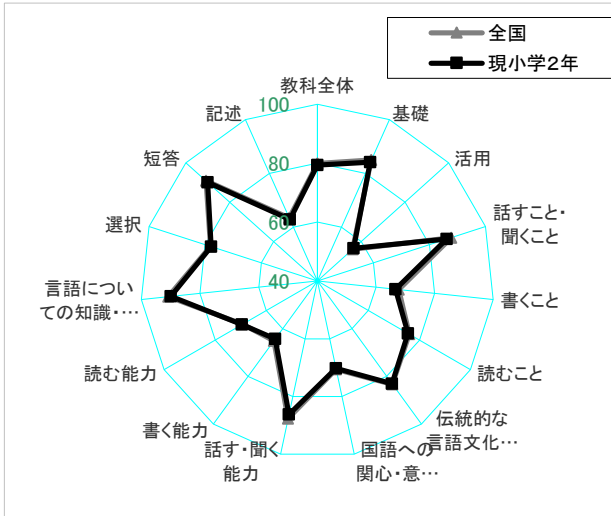
(4) 強みを生かし、重点的に取り組む

学校教育目標に照らし、4つのCに現れる子供たちの実態の中から、強み（得点が高いもの）を生かしながら、弱みを引き上げる工夫を図り、課題となっているもの全てに取り組むといった、総花的な取組みにならないよう留意したい。



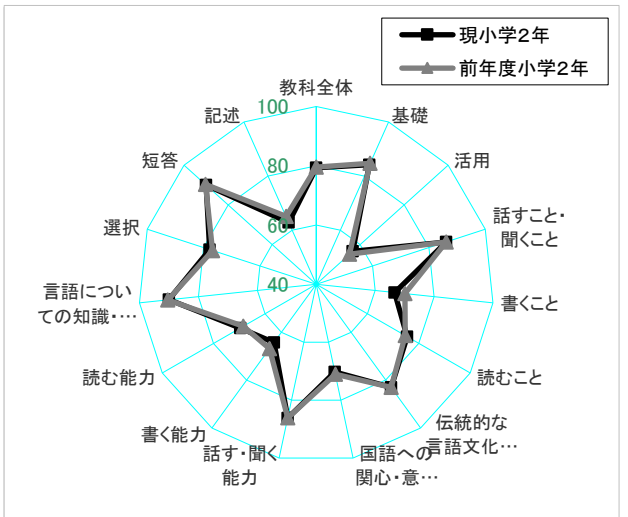
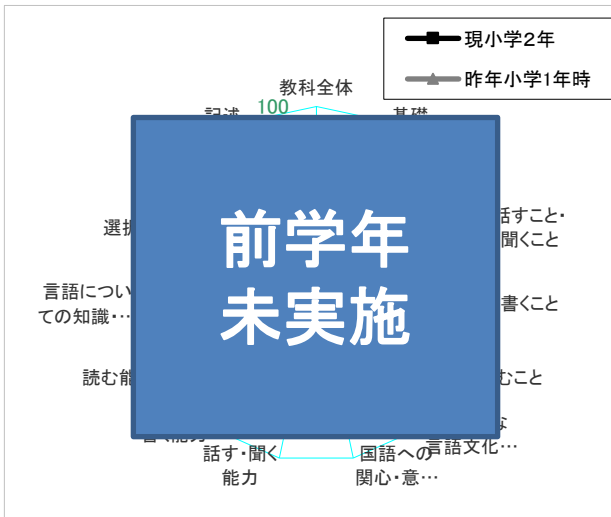
# 小学 2年 国語

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は全国と同程度でおおむね良好である。  
 <問題別>  
 ・「漢字を読む・書く」の平均正答率は、全ての問題が90%前後で高いが、全国と比較すると「漢字を書く」は下回っている。  
 ・「経験・想像したことの中から書くことを決め、文を書くことができる」の平均正答率は、全国と比較すると上回っている。  
 ・「話題に沿った質問をすることができる」の平均正答率は、全国と比較すると下回っている。  
 ・「自分の考えが明確になるように文を書くことができる」は全国的に平均正答率が低く、全国と比較するとさらに下回っている。約13%の児童が無解答で、課題である。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ※比較するデータが無いので、コメントはありません。

**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は、前年度の2年生と同程度である。  
 ・「読むこと」の領域の平均正答率は、前年度と比較すると上回っている。  
 ・「書くこと」の領域の平均正答率は、前年度と比較すると下回っている。

## 3. 強みと弱み

- 「漢字を読む・書く」「大事なことを落とさないで聞き取る」は、約90%以上の児童が正答しており、強みといえる。
- 「話すこと・聞くこと」では、話すことと聞くことを一体化した指導をしていく。話し手だけでなく、聞き手への指導にも重点をおき、話し手の発言を受けて聞き手も話をつなぐ(質問する、復唱して確かめる、共感を示す、感想を言う)活動を充実させる。
- 「書くこと」では、伝えたいことを明確にすることができるように、書くために必要な事柄を思い出したり想像したりする活動を十分に取り入れていく。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

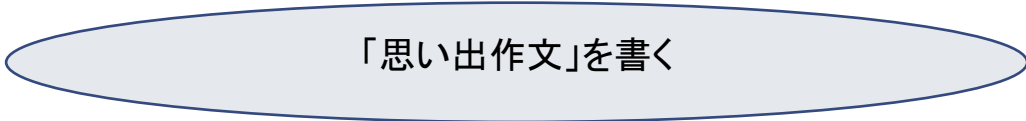
2年 思い出して書こう

—— 一年間のできごとをふりかえって ——

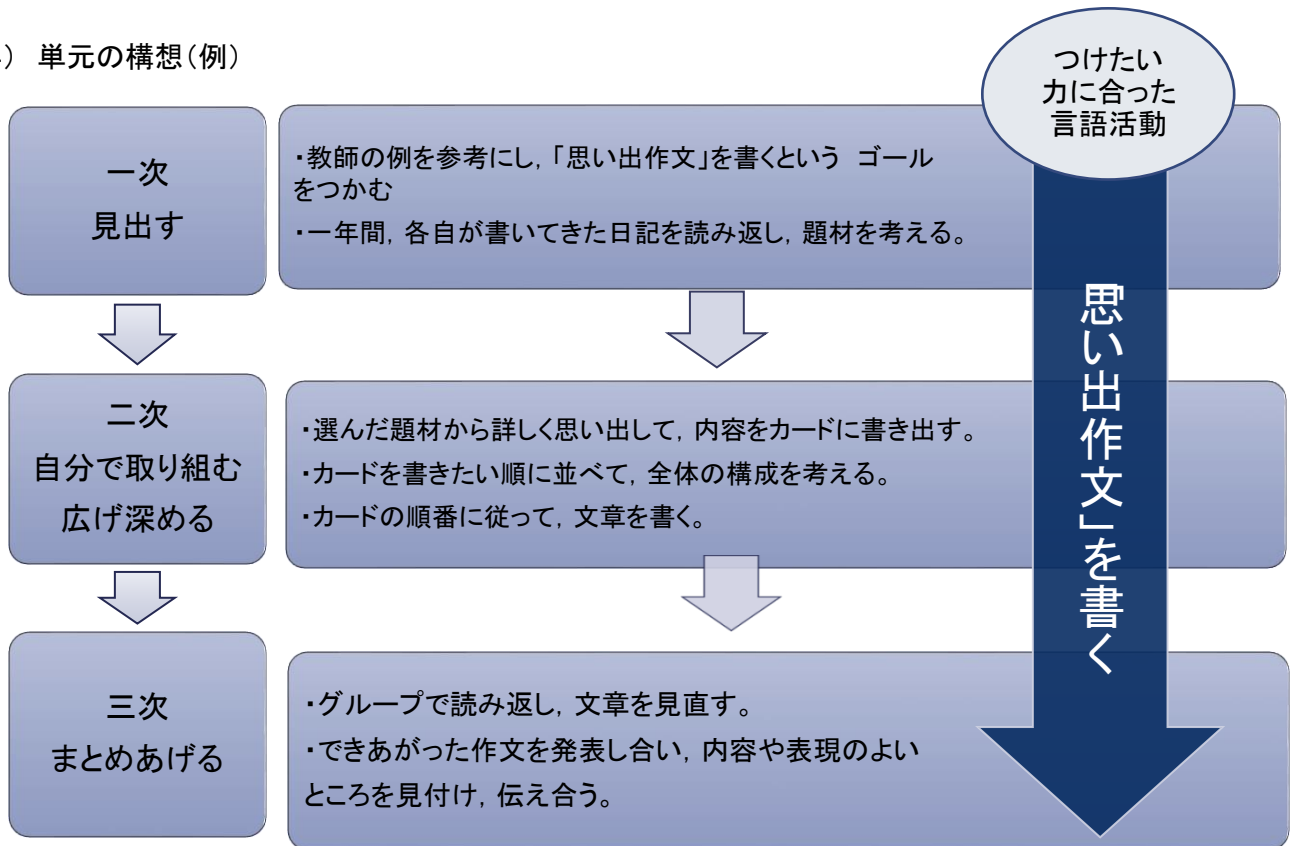
(2) つけたい力

文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること (B 書くこと(1)–エ)

(3) つけたい力に合った言語活動



(4) 単元の構想(例)



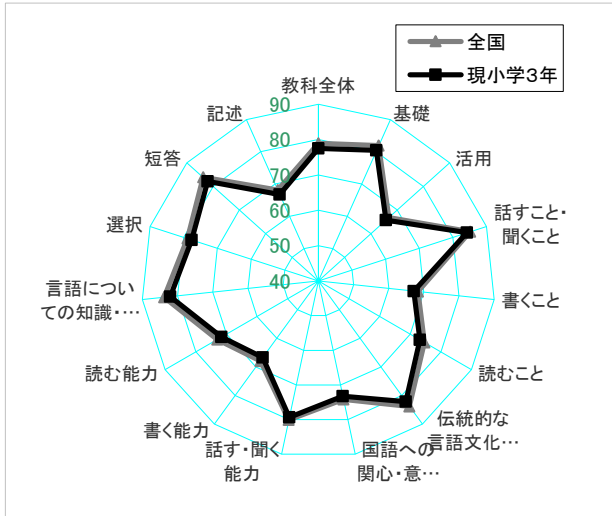
指導のポイント！

・読み返す習慣を付けるためには、互いに推敲し合うことでよく伝わる文章になったことを実感できるようにすることが大切です。

・上巻で学習した「つけてみよう—日記」と関連させて、各自が書いてきた日記から題材を探すことで、児童一人一人の経験や日常生活に合った題材を選ぶことができ、題材を選ぶ楽しさを味わうことにつながります。また、できあがった作文を学級ごとに文集として取りまとめ、図書館に置いて1年生に読んでもらえるようにするとよいでしょう。

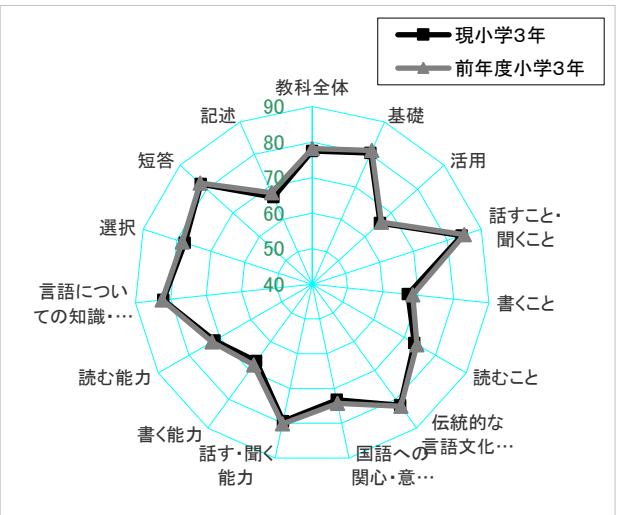
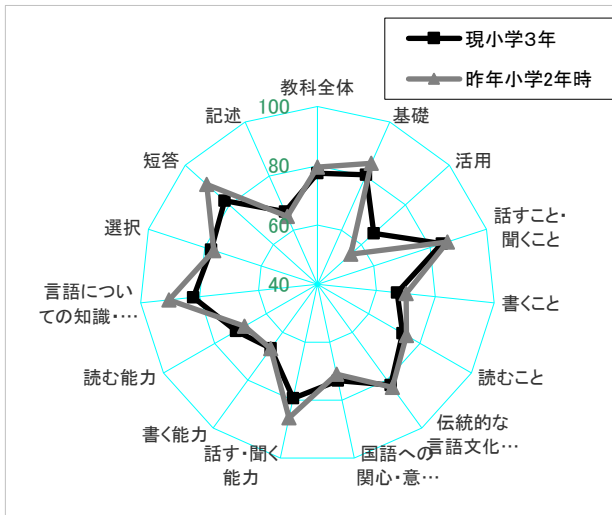
# 小学 3年 国語

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は全国と同程度である。  
 <問題別>  
 ・「大事な言葉を読み取って丁寧な言葉で書く」の平均正答率は、全国と比較すると同程度である。  
 ・「物語や説明文の内容を読み取る」の平均正答率は、全国と比較すると下回っている。  
 ・「作文」の問題は、平均正答率が約70～75%であるが、全国と比較すると下回っている。また、無解答の児童が誤答の児童より多い。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は2年生時とほぼ同等である。  
 ・活用問題は10.5ポイント上回っているが、基礎的な問題の正答率は低下している。

**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は、前年度の3年生と同程度である。  
 ・「書くこと」の平均正答率は、前年度と比較すると4問とも下回っている。

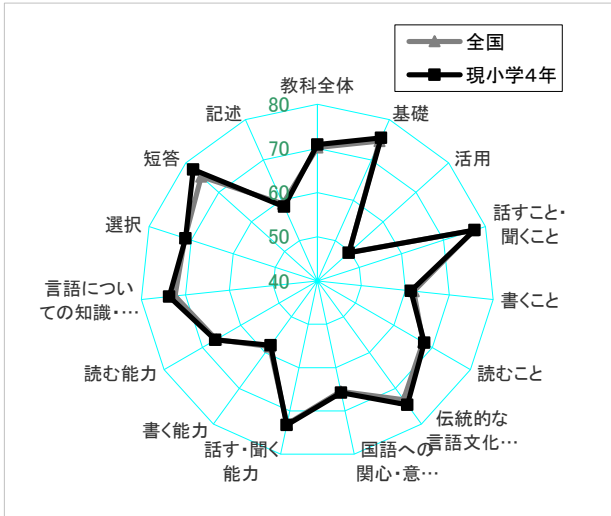
## 3. 強みと弱み

○「大事なことを落とさないように聞き取ることができる」は90%以上、「漢字を読む」は80%以上の児童が正答しており、強みといえる。

●「書くこと」では、無解答の児童が多いため、他教科と関連づけたり日常生活で目にする形式でまとめたりして、相手意識や書く目的意識を高めるゴールを工夫し、子供たちの書きたくなる気持ちを喚起する学習を仕組んでいく。

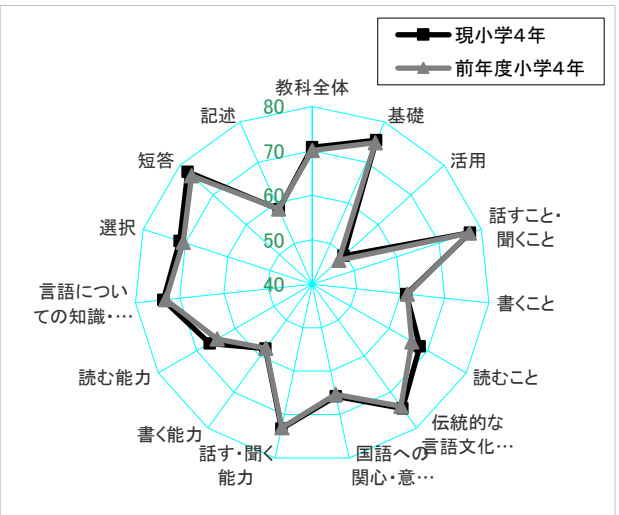
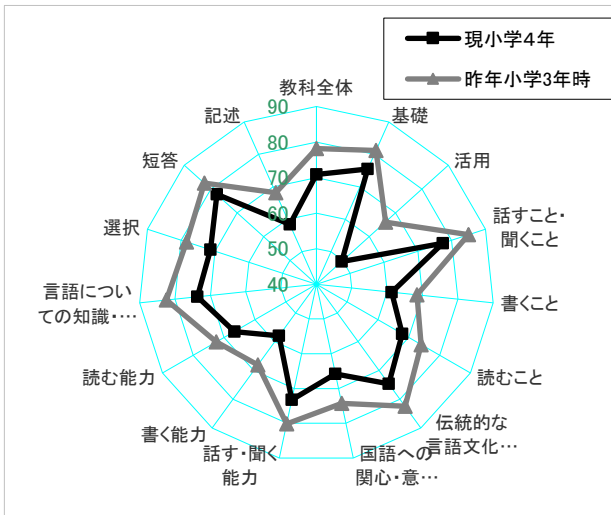
# 小学 4年 国語

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は全国と同程度である。  
 <問題別>  
 ・「読むこと」は説明文、物語文ともに、全国と同程度で、良好である。  
 ・「漢字を読む・書く」は、全国と比較すると概ね上回っているものの、「ローマ字を読む・書く」は無解答率が高く、理解ができていない。  
 ・「書く能力」の正答率が全体的に目標値を下回っており、無解答率も目立つ。無解答率がどの問題に対しても同じ数値であることから、書くことそのものに苦手意識をもっている児童は、どの問題にも取り組まないことがうかがえる。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は3年生時より下回っている。  
 ・基礎問題や短答問題に対する正答率の変化は少ない。

**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は、前年度と概ね同程度である。  
 ・「読むこと」「読む能力」は前年度と比較するとポイントが上回っている。

## 3. 強みと弱み

○「話の中心に気をつけて聞く」「登場人物の様子を読み取る」「文章の要点に注意して読み取る」の正答率が高く、強みといえる。

●「話すこと・聞くこと」では、聞くことはできるものの、話し合うことに対して苦手意識を持つ児童もいるため、少数でのグループ活動を他教科でも意識的に取り入れる。また、自分の意見の前に相手の意見を復唱するリレー形式を取り入れることで相違点と共通点を意識させる。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

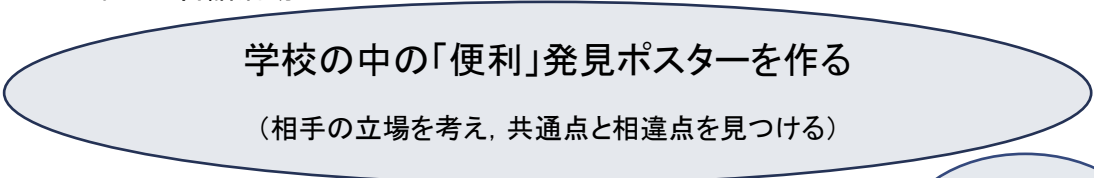
(1) 単元名

4年 「便利」について考えよう 「便利」ということ  
 ポスターを使って発表しよう 調べてわかったことを発表しよう  
 —— 学校の中の「便利」を見つけて伝えよう ——

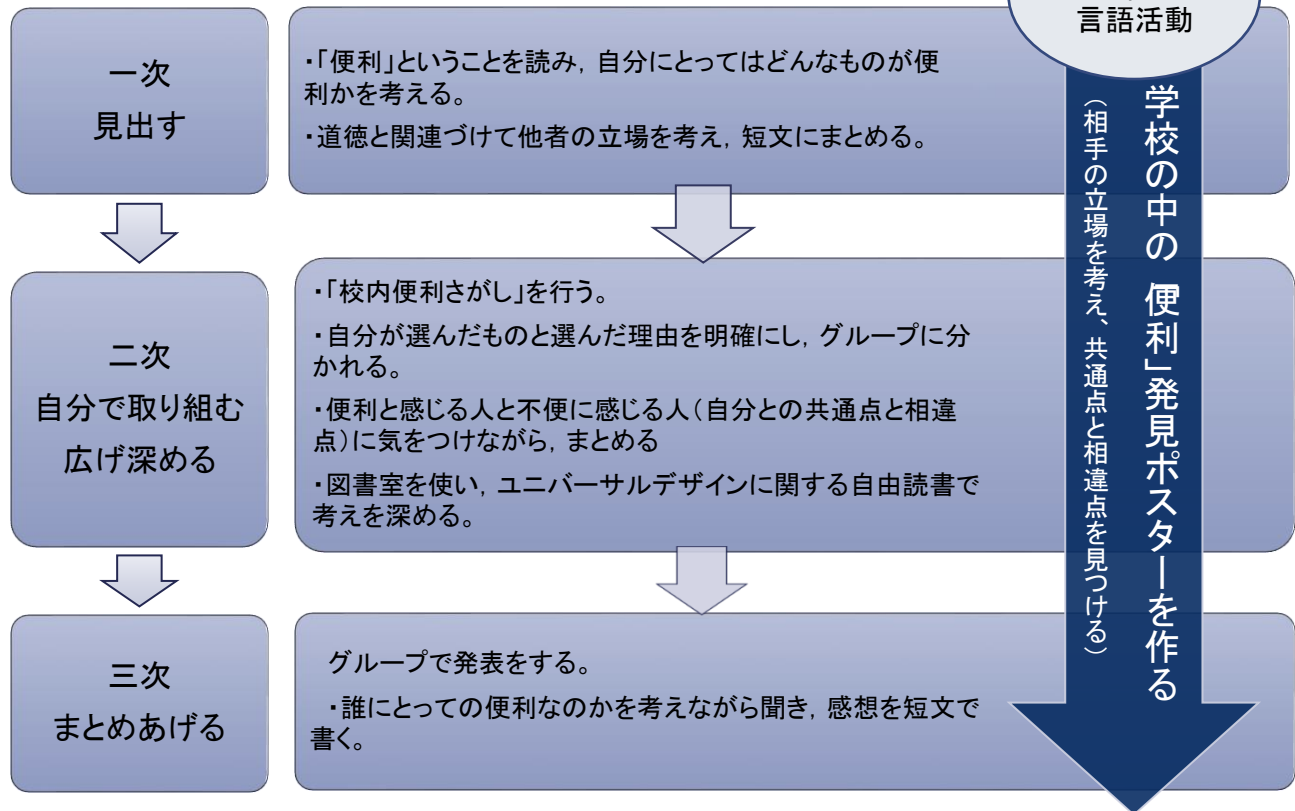
(2) つけたい力

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫すること  
 (B 書くこと(1)ーウ)

(3) つけたい力に合った言語活動



(4) 単元の構想(例)

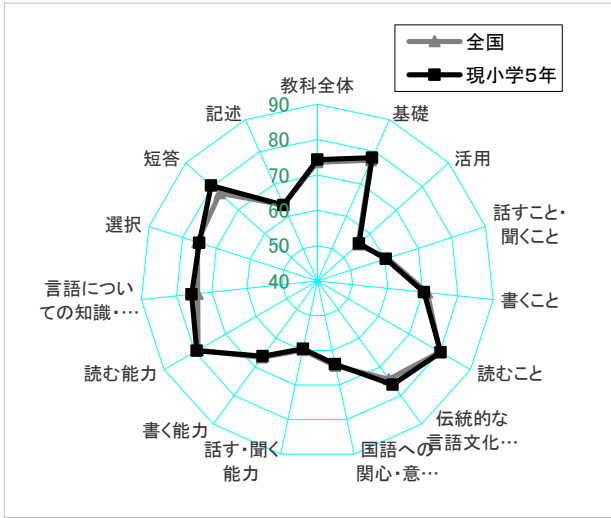


指導のポイント！

テーマとするものを「学校の中」に絞ることで, グループの活動(インタビュー等)が行いやすくなります。また, 「便利」について, 道徳の面からも関連づけて活動させることができます。「書くこと」の力をつけるため, 短文にまとめる活動をいれていますが, 書くことに苦手意識を持つ児童にとっては短文でよいという設定は意欲付けにもなります。家庭学習では家の中の便利について短文でまとめさせることもできます。

# 小学 5年 国語

## 1. 全体傾向

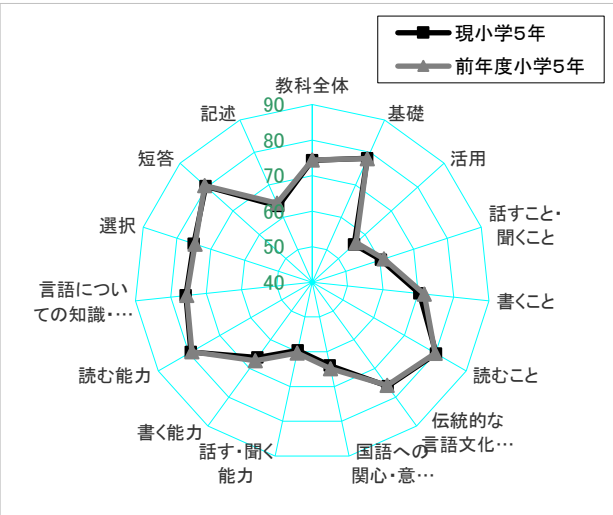
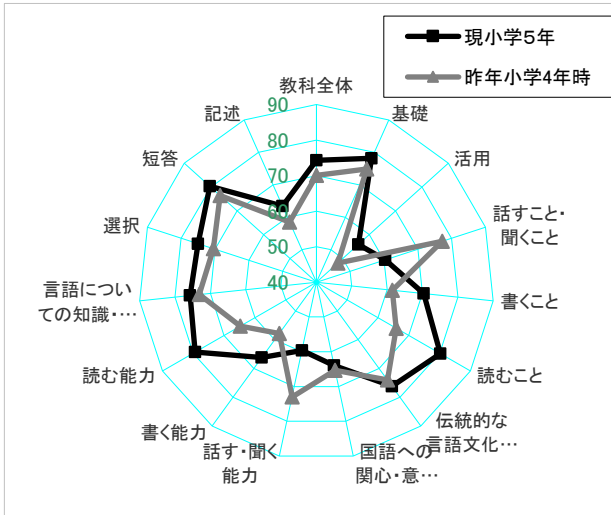


**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は、全国と同程度で良好である。

### <問題別>

・「漢字を読む・書く」の平均正答率は、全国と同程度あるいは上回っている。全国の正答率が約60%の問題では、約80%の正答率をあげている。  
 ・「資料と話し合いを関連付けて考えることができる」は、約半数の児童が正答できない状況である。  
 ・「話し手の意図を考えながら、メモをとる」の平均正答率は大変低く、聞き取ったメモを基に、話の内容を書くことができない児童が多い。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は4年生時より下回っている。  
 ・「読むこと」の領域は、4年生時より約14ポイント上回っている。  
 ・「話すこと・聞くこと」の領域では、4年生時より約17ポイント下回っている。

**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は、前年度の5年生と同程度である。  
 ・「述語についての理解」の平均正答率は、前年度と比較すると4ポイント上回っている。

## 3. 強みと弱み

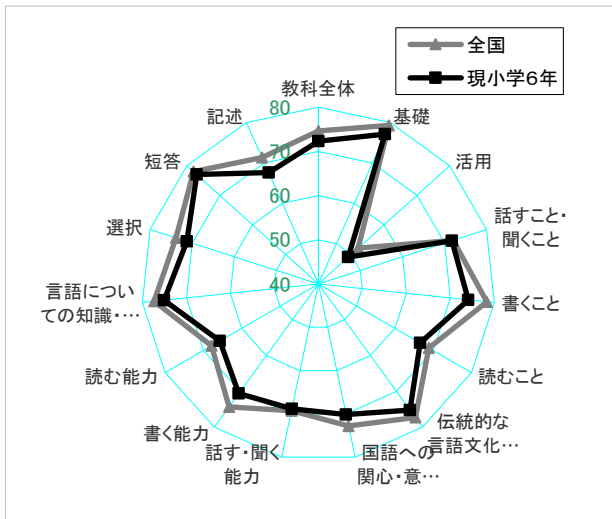
○「漢字を読む・書く」「物語の内容を読み取る」は、平均正答率が全国と同程度または上回っており、強みといえる。

●「書くこと」では、「自分の意見とその理由を区別して書くこと」ができるように指導する必要がある。そのためには、文章全体の構成を考える際に、それぞれの段落の内容としてどのようなことを書けばよいのかを考えさせる活動を取り入れる。

●「話すこと・聞くこと」では、インタビューを通して、「話し手の意図を捉えながら聞き、話し手の発言を受けて質問する力を高めていく。そのために、事前に想定問答メモを書き、インタビューしたいことを整理させたり、インタビューモデルで事前に練習させたりする活動を取り入れる。

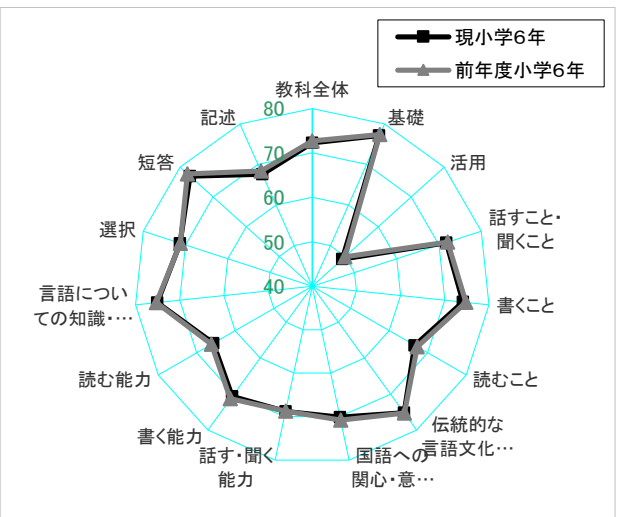
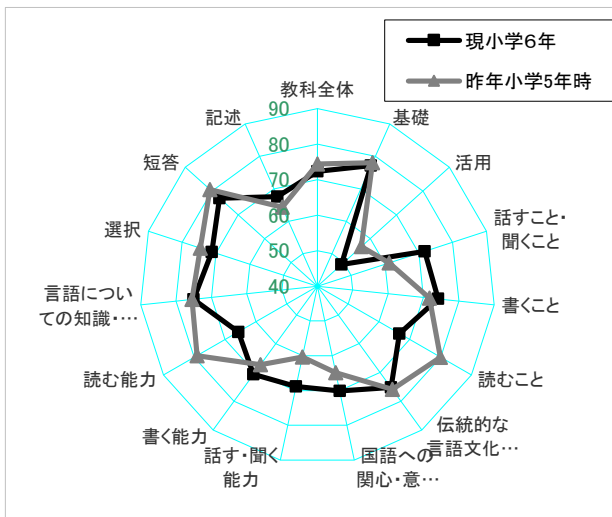
# 小学 6年 国語

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は全国と比較して下回っている。  
 <問題別>  
 ・「主語・述語の理解」の平均正答率は、全国と比較して約7～11ポイント下回っており、課題である。  
 ・「話し合いをもとに活動報告を書き直す」は、約半数の児童が正答できない状況である。  
 ・「自分の立場や意図をはっきりさせて、話し合う」は平均正答率が大変低く、話し合いの内容を基に、司会のよりよい進め方を考えることができない児童が多い。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は、5年生時と同程度である。  
 ・「読むこと」の領域では、5年生時より約13ポイント下回っている。

**コメント**  
 ・平均正答率は、前年度の6年生と同程度である。

## 3. 強みと弱み

○「自分の意見とその理由を区別して書く(作文)」「話の内容を聞く」は、平均正答率が約90%前後であり、強みといえる。

●「話すこと・聞くこと」では、話し合いの際に、司会や提案者など、児童一人一人にそれぞれの役割を果たす経験をさせていく。特に、司会の経験をどの児童にもさせ、時間内に計画的に話し合いが進むよう、グループ内の発言を整理したりまとめたりできる力を高めていく。

●「読むこと」では、文章を読んで理解したことについて自分の考えをまとめられるよう、説明文の要旨を把握する力をつけていく。文章だけでなく、グラフや絵、写真などからも情報を読み取る指導も取り入れていく。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

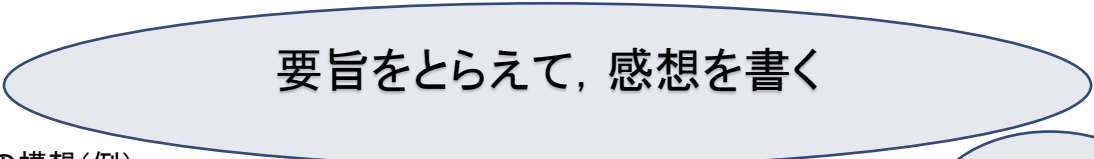
(1) 単元名

6年 筆者の考えを読み, 感想を書こう 『ぼくの世界, 君の世界』  
 —— 要旨をとらえて自分の考えをまとめよう ——

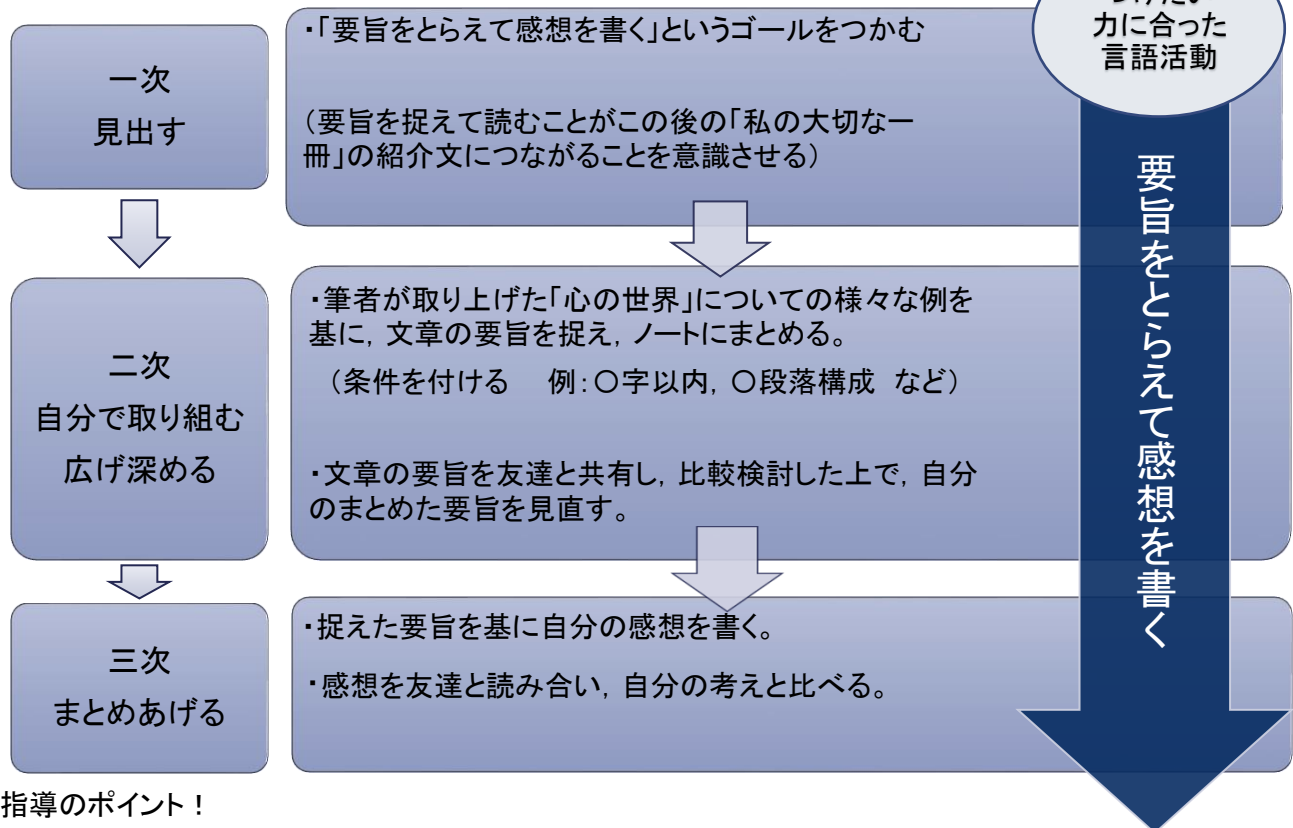
(2) つけたい力

事実と感想, 意見などとの関係を叙述を基に押さえ, 文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。(C 読むこと(1)ア)  
 文章を読んで理解したことに基づいて, 自分の考えをまとめること。(C 読むこと(1)オ)

(3) つけたい力に合った言語活動



(4) 単元の構想(例)



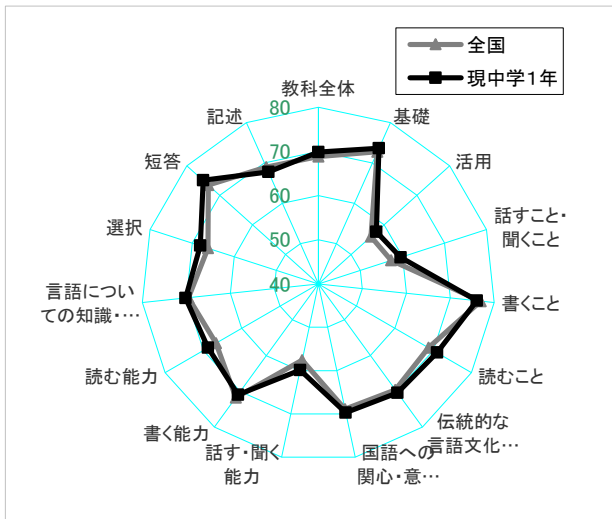
指導のポイント!

「哲学」は, 身近ではないからこそ新鮮な驚きを持って子ども自身が受けとめることのできる題材です。筆者の考えと自分の考えを比較するために, 「要旨を捉える」という学習が中心となります。様々な説明的文章の要旨を捉えて理解し, 自分の思考を深めることのできる力は今後大いに求められてきます。この単元と後で学習する「私の大切な一冊」との関連性を意識させることで, 要旨を捉えることの必然性を感じさせられるでしょう。



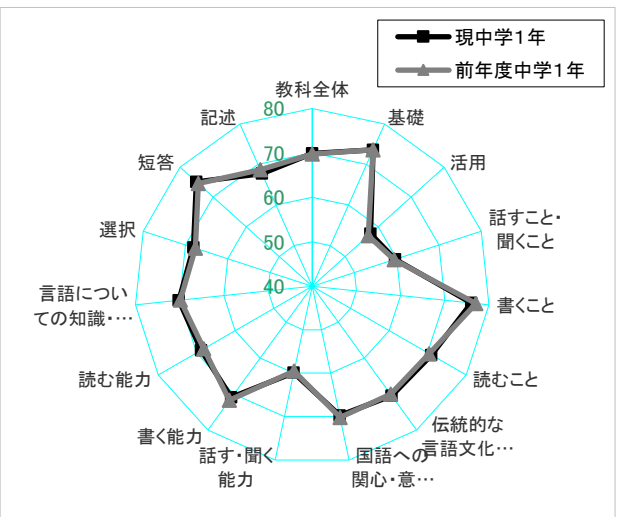
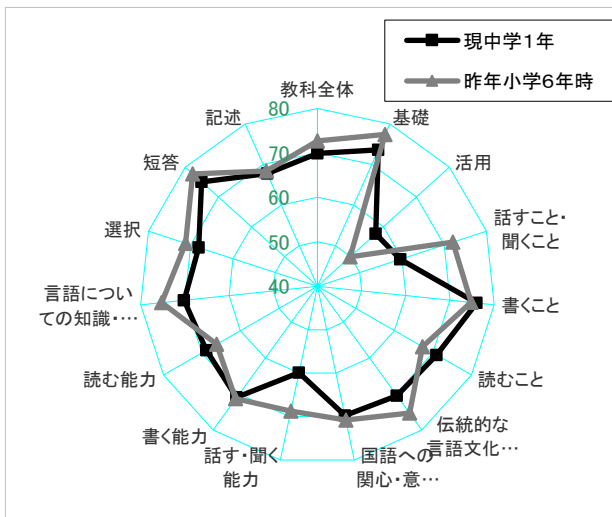
# 中学 1年 国語

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は全国を若干上回っている。  
 〈問題別〉  
 ・「漢字を読む」「漢字を書く」の正答率は、概ね全国を上回っており良好である。  
 ・「説明文の内容を読み取る」の正答率は、全国正答率を全ての設問において上回っており良好である。  
 ・「書くこと」の正答率は、全ての設問において全国正答率を下回っている。特に、段落構成で書く問題、まとめを書く問題が課題である。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は、小学6年時と比較すると、下回っている。  
 ・全国平均との標準スコアで小学6年時と比較すると、同程度である。

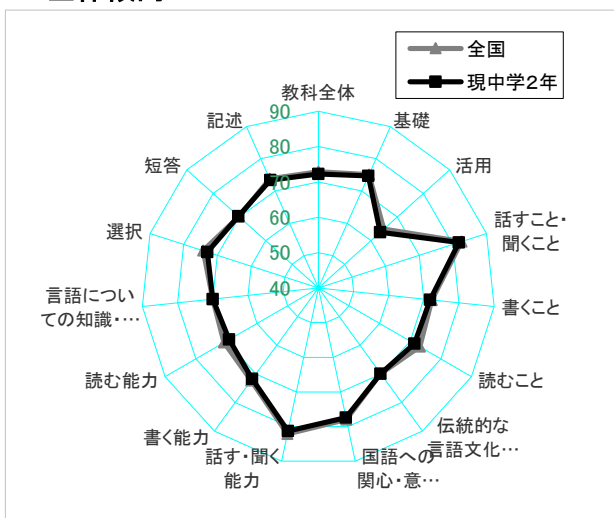
**コメント**  
 ・平均正答率は前年度の中学1年生と同程度である。

## 3. 強みと弱み

- 「漢字」「読むこと」(説明文の内容・文学作品の内容)は、平均正答率が全国を上回っており、強みといえる。
- 「書くこと」に関する正答率がどの項目も全国平均を下回っている。段落構成を考えて、「自分の立場」「理由」「まとめ」を盛り込んで書けるように指導する。また、授業の後半に200字程度のミニ作文(本時で学んだこと)を実施し、書く習慣をつけさせる活動もよい。

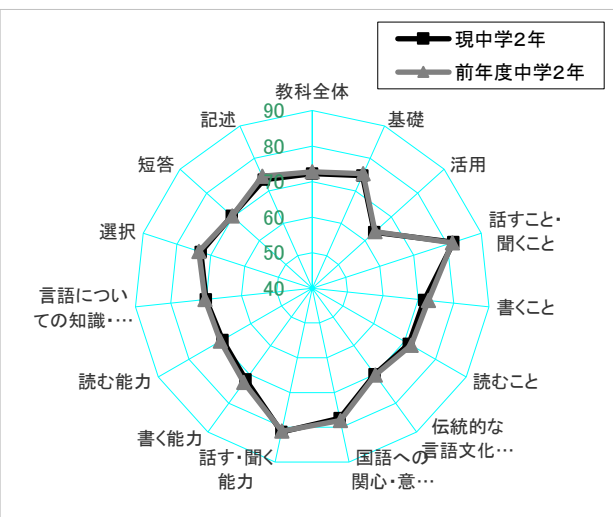
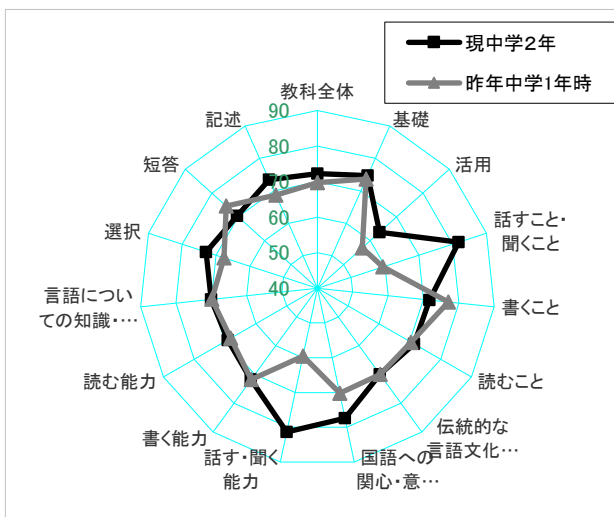
# 中学 2年 国語

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は全国とほぼ同程度である。  
 〈問題別〉  
 ・「読むこと」の設問において、説明文、文学作品ともに多くが、全国正答率を下回っている。  
 ・「書くこと」(新聞記事を書く)問題において、文章の内容を正確に捉え、伝えたい事柄を明確にして書くことに課題がある。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は、中学1年時と比較すると上回っている。  
 ・全国平均との標準スコアで、昨年中学1年時と比較するとほぼ同等である。

**コメント**  
 ・平均正答率は前年度の中学2年生と同程度である。

## 3. 強みと弱み

○「書くこと」の作文問題では、「指示された文字数で書くことができる・文章の内容に沿ったまとめを書くことができる」で全国正答率を上回った。200字程度の作文に対する意識は良好であるといえる。

●自由作文に関しては、概ね書くことができるが、「新聞記事を書く」問題のように、内容を正確に捉えて書くことに課題がある。条件作文や課題作文などを授業の中で多く取り入れるとよい。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

中2「四コマ漫画から意見文を書く」 P.188～193

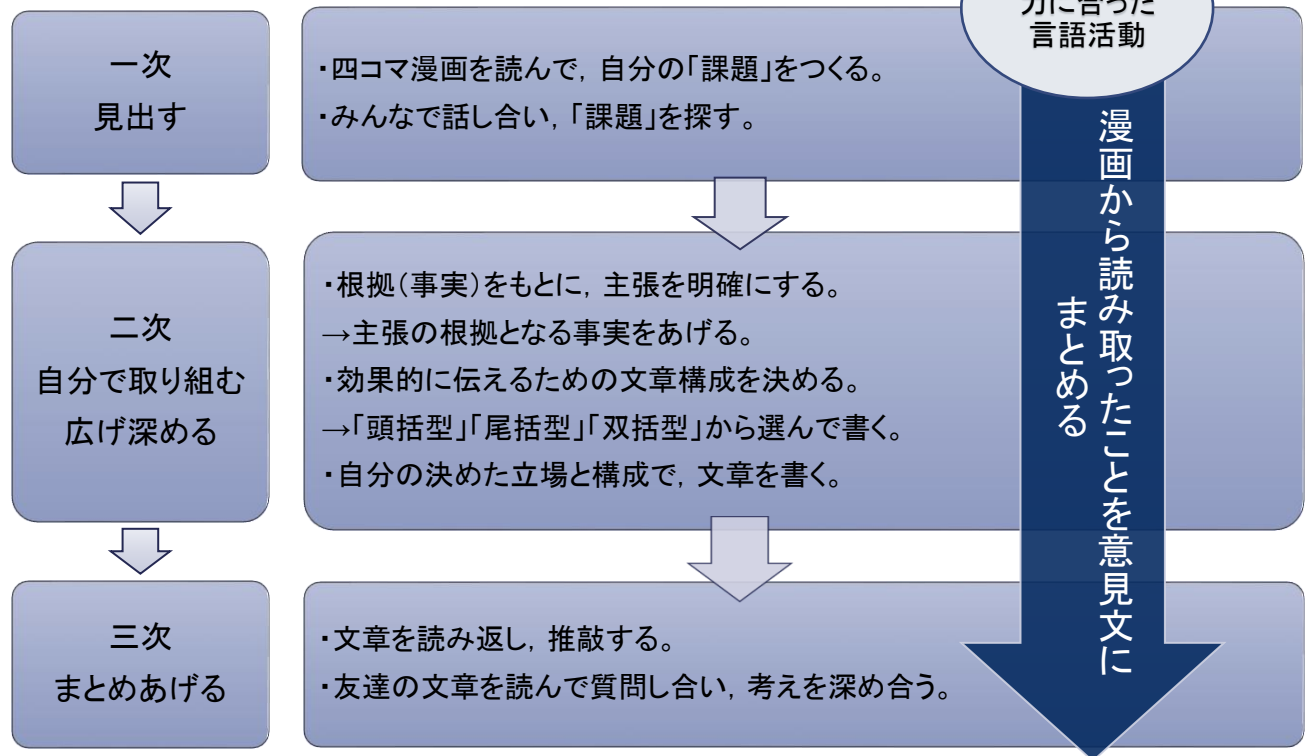
(2) つけたい力

・根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり, 表現の効果を考えて描写したりするなど, 自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること (B 書くこと(1)ウ)

(3) つけたい力に合った言語活動

漫画から読み取ったことを意見文にまとめる

(4) 単元の構想(例)

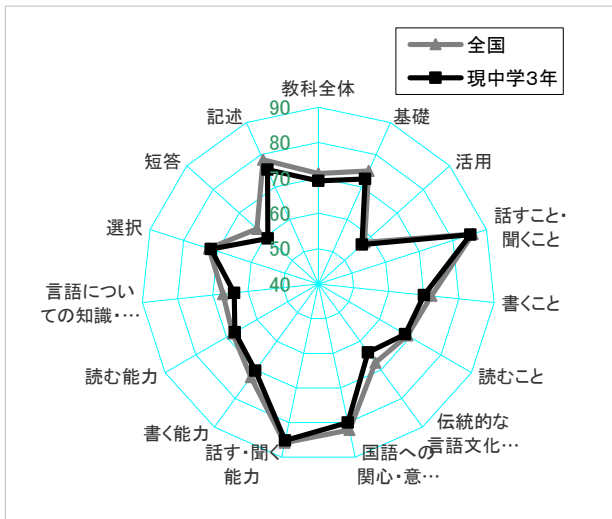


指導のポイント!

・どの学年においても「書くこと」の正答率が全国を下回っています。書く力をつけるためにはある程度の「型(モデル)」が必要です。本単元では自分の考えが伝わるようにいくつかの「型」をもとに文章を考え, 後半に推敲を行い更に考えを深める活動を行うとよいでしょう。

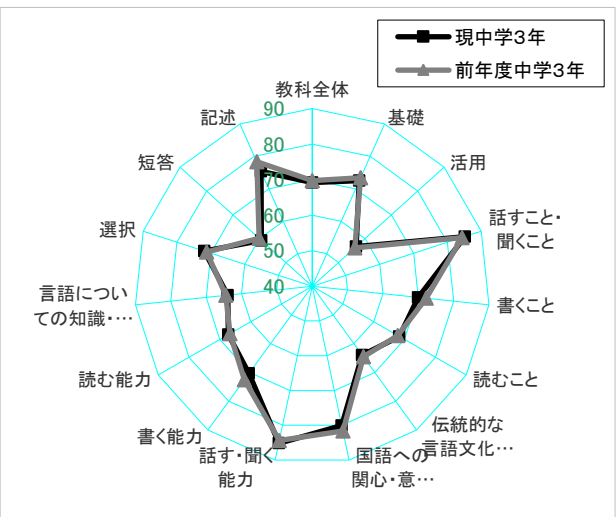
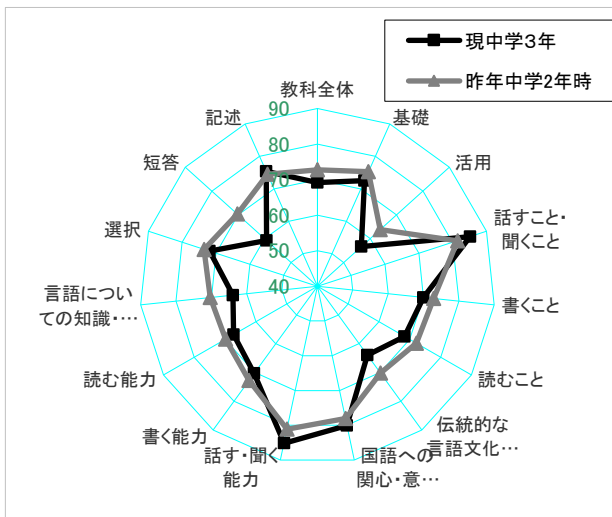
# 中学 3年 国語

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は全国正答率より2ポイント程下回っている。  
 〈問題別〉  
 ・「話すこと・聞くこと」の「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる」という項目において全国平均を2ポイントを上回り良好である。  
 ・「漢字・文法」問題は多くの問題で全国正答率を下回っており、基礎力の定着が必要である。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は、中学2年時と比較すると3.5ポイント下回っている。  
 ・全国平均との標準スコアで昨年中学2年時と比較するとほぼ同等である。

**コメント**  
 ・平均正答率は前年度との中学3年と同程度である。

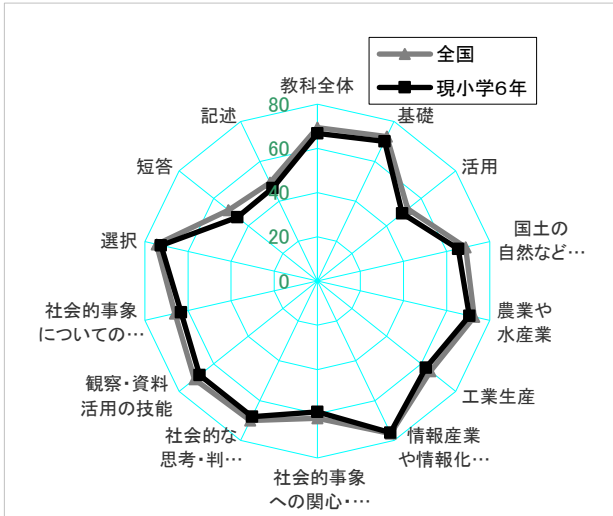
## 3. 強みと弱み

○「話の内容を正確に聞き取ることができる」「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる問題」については、全国と同等に高い正答率である。

- 「漢字を書く」問題は、全国を下回っている。小学校で学習した漢字も含まれており、改善が必要である。漢字の小テストを定期的に行うなど、繰り返し指導を行う必要がある。
- 「書くこと」が全国正答率を下回っている。特に「グラフから読み取った内容を書く」問題において、苦手意識があるので、データや表から読み取って作文を書くなどの活動を授業の中に取り入れていく。

# 小学 6年 社会

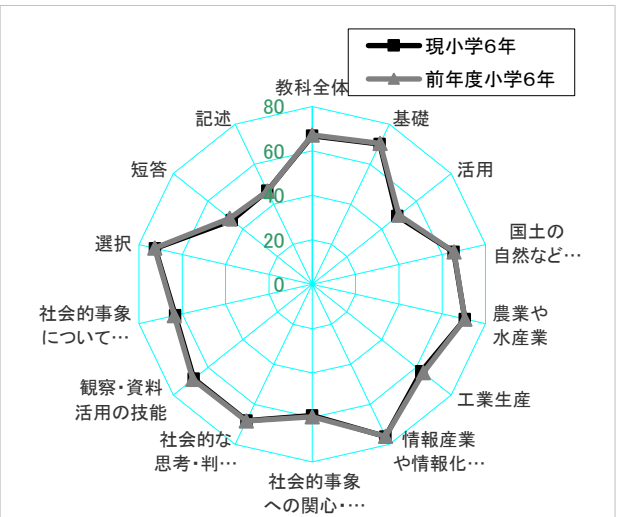
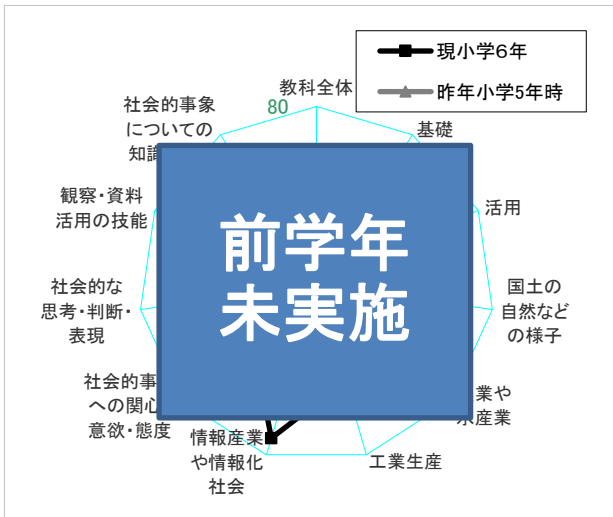
## 1. 全体傾向



**コメント**

- ・教科全体としては、目標値を上回っているものの、全国平均正答率との比較においては、基礎・活用ともに下回っている。
- ・観点別正答率について、「社会的事象への知識・理解」が目標値を上回り、それ以外の観点は下回っている。全国平均値との比較においては、すべての観点で課題が見られる。
- ・領域別正答率について、「工業生産」だけが目標値を下回り、それ以外の領域は上回っている。全国平均値との比較においては、「情報産業や情報化社会」はほぼ同程度であるが、それ以外の領域は下回っている。

## 2. 経年変化



**コメント**

※前学年未実施で比較するデータが無いため、コメントはありません。

**コメント**

- ・前年度とほぼ同等の数値となっている。領域では「工業生産」が前年度より若干下回っている。その他の領域はほぼ同等の値である。

## 3. 強みと弱み

- 教科全体として、全国平均正答率を下回っており、改善が必要な状況である。
- 日本の国土の地形の概要について理解している。
  - 食料自給率のグラフを読み取ることができる。
  - 地産地消の取り組みについて理解している。
  - 情報と産業の関わりについて考えることができる。
  - 年間を通した米づくりの様子について、農作業に使われる機械と共に把握することについて。
  - 日本の食糧輸入の問題点についての考察について。
  - 自動車の製作工程におけるプレスの理解について。
  - 太平洋ベルトや日本の貿易相手国の理解について。

#### 4. 授業改善の方向、効果的指導例

ICTを活用し、子どもたちの意欲を向上させ、自発的な学習を促す。

##### 【授業のねらい】

自動車工場の映像を見て、分かったことや写真・イラストなどから、自動車がつくられる工程について自発的に調べることができる。



##### 【授業の流れ】

事前に自動車をつくる工程を学習し、工場の人々の工夫を予想しておく。ホームページ「TOYOTAクルマこどもサイト」を活用して、バーチャル工場見学をする。見学して分かったことをメモする。分からなかったことを他のホームページで調べる。

- ・トヨタ自動車：「クルマはどうやって作るの？」
- ・本田技研工業：「クルマやバイクができるまで」
- ・日産自動車：「kids' NISSAN 日産探検隊工場見学」
- ・三菱自動車：「こどもクルマミュージアム パーチャル工場見学」
- ・富士重工業：「ファクトリーストーリー『クルマづくりのミッション体験』」等

##### 【ICT活用のねらいと授業での位置づけ】

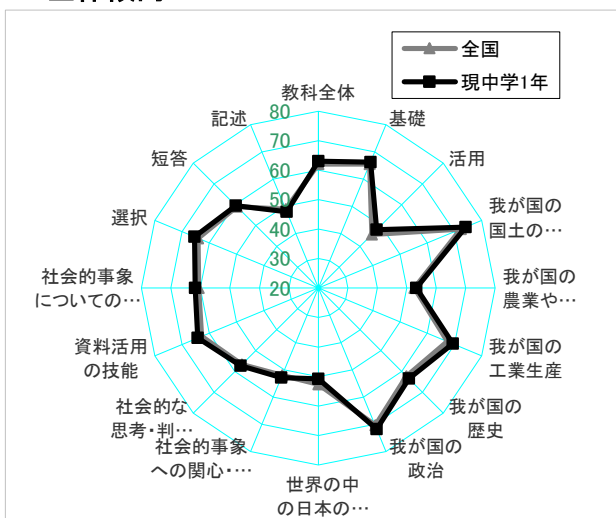
実際の工場見学が困難な場合、各自動車会社などの子ども向けのホームページを利用し、バーチャル工場見学をさせる。実際の見学では1度しか見ることはできないが、このホームページは調べたい箇所を何度でも見学し、まとめることができる。また、質問コーナーもあるので、全体で見た後、一人一人調べていくことができる。

##### 《引用・参考文献》

「TOYOTAクルマこどもサイト」 <https://www.toyota.co.jp/jp/kids/>

## 中学 1年 社会

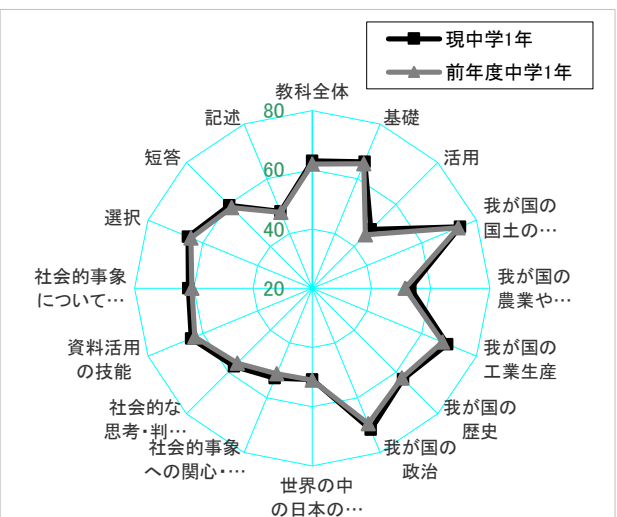
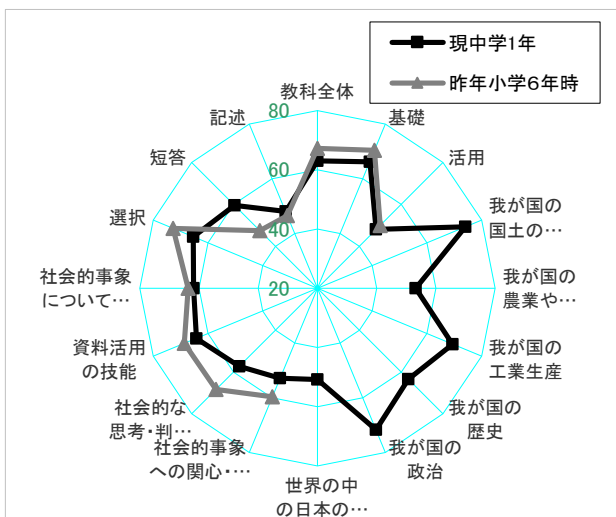
### 1. 全体傾向



#### コメント

・教科全体としては、全国平均正答率とほぼ同程度である。  
 ・正答率の高い単元と低い単元が、全国とほぼ相違ないことを考慮すると、理解しにくい単元や分野があることが推測できる。  
 ・「活用」については、全国平均正答率を上回っているが、総合的に見て正答率が高いとはいえない。このことから、知識を活用する力が必要であり、記述式解答の正答率を上げる手立てが必要である。

### 2. 経年変化



#### コメント

・社会的な事象への関心、社会的な思考・判断力が著しく低下している。中学校へ進学し意識が低下したのか、小学校段階で意識が低下していたのか、そこから苦手な単元や内容の理解について考察することはできない。来年度の結果から見る必要がある。

#### コメント

・前年度の中1と比較しても各単元や各分野ともに変動がない。概ね基礎的な知識は要しているが、それを活用する力が不足している。  
 ・既習事項を積み重ね、それを活用できる力を養うために、主体的で対話的な学習を積極的に取り入れ、知識の定着を図る必要がある。

### 3. 強みと弱み

全国より若干上回っており、良好な状況である。

○日本の工業について、資料を読み取ること。

○明治初期の改革について。

○日本国憲法の三大原則について。

○日本の周囲国についてと気候について。

●日本の工業生産について、「太平洋ベルト」について。

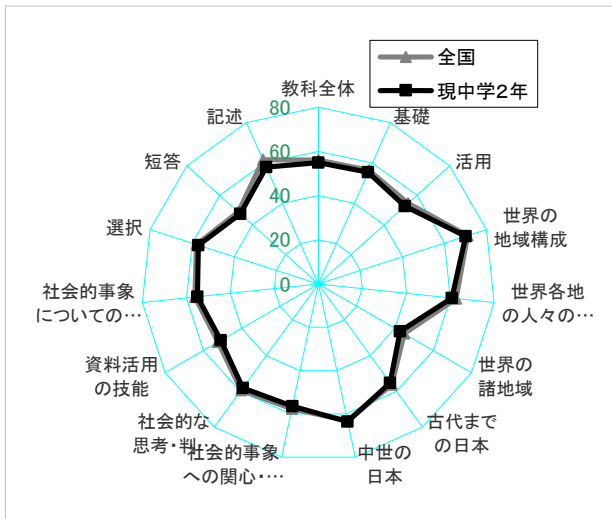
●江戸時代の武士の制度や、暮らしについて。

●国際連合について。

●日本の農業について、自然環境との関わりや複数の資料を活用することについて。

## 中学 2年 社会

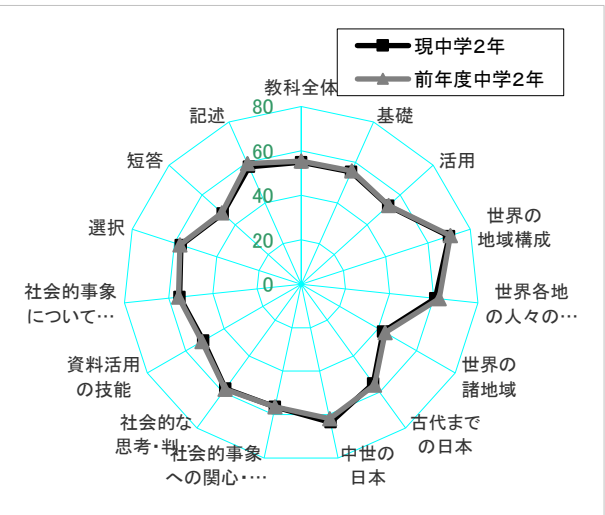
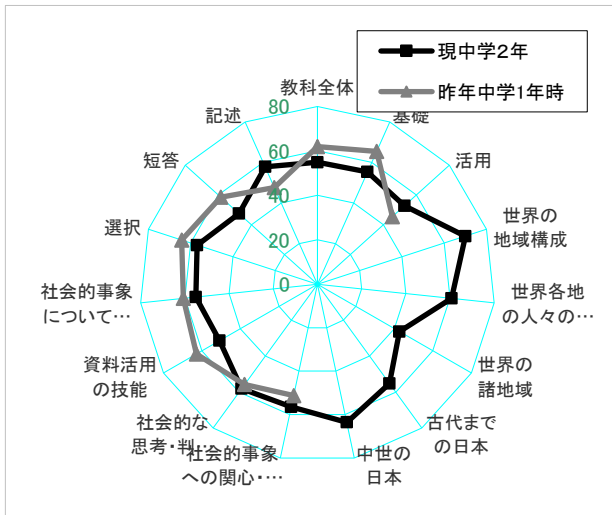
### 1. 全体傾向



#### コメント

・教科全体としては、全国平均正答率とほぼ同程度である。  
 ・正答率の高い単元と低い単元が、全国とほぼ相違ないことを考慮すると、理解しにくい単元があると考えられる。  
 ・「活用」についても、全国平均正答率とほぼ同等であるが、総合的に見て低い値となっている。このことから、知識を活用する力が必要である。

### 2. 経年変化



#### コメント

・昨年度と比較し、記述式の正答率が上昇している。知識の活用を意識した授業が構築されている結果であると推測される。  
 ・短答の正答率が下降したことについては、既習事項の定着がなされておらず、中1に学習したことを忘れてしまっていることも考えられる。

#### コメント

・前年度中学2年と、どの分野においても同等である。  
 ・前年度同様、中1に学習した地理分野の正答率が低く、復習を含めた改善の手立てが必要である。

### 3. 強みと弱み

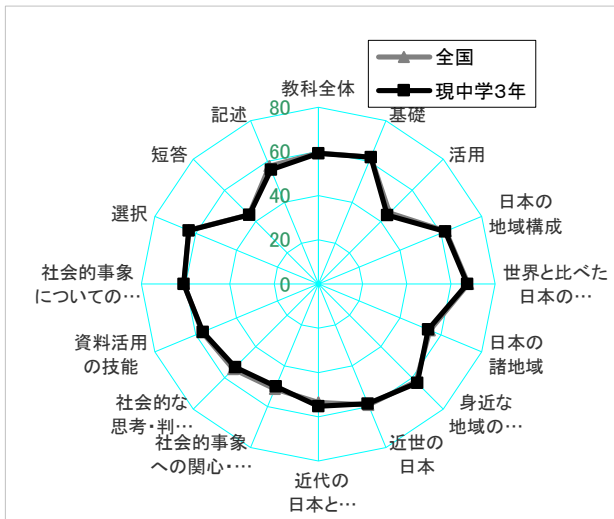
全国とほぼ同程度で、良好な状況である。

- 世界の地形について理解しており、地図の読み取りについて。
- 弥生時代、大和政権について。
- 鎌倉時代や室町時代の生活や、外国とのつながりについて。
- 世界の諸地域の、気候や産業について。
- 平安時代の政治について。



## 中学 3年 社会

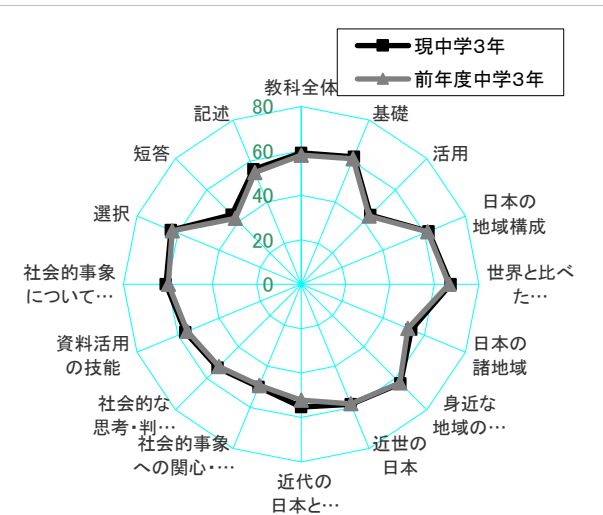
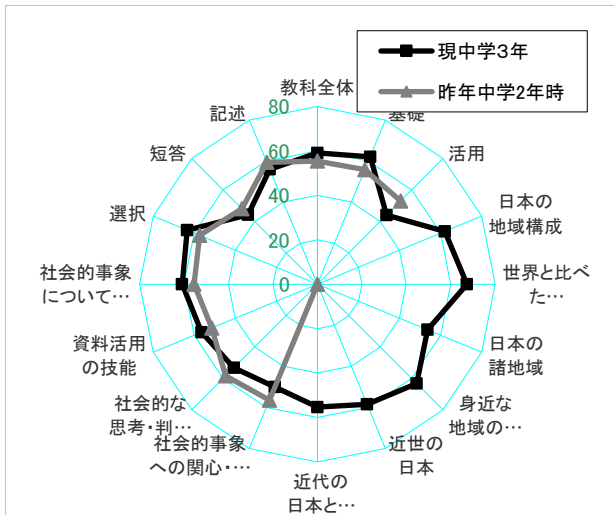
### 1. 全体傾向



#### コメント

・教科全体としては、全国平均正答率とほぼ同程度である。  
 ・「活用」についても、全国とほぼ同等であるが、総合的に見て高い値とはいえない。このことから、知識を活用する力が必要である。  
 ・短答の正答率が低いことから、確かな学力の定着が図れておらず、曖昧な知識が多くなっていることが推測される。

### 2. 経年変化



#### コメント

・昨年度と比較し、記述式や短答の正答率が下降している。  
 ・短答の正答率が下降したことについては、既習事項の定着がなされておらず、中1、2に学習したことを忘れてしまっていることが考えられる。

#### コメント

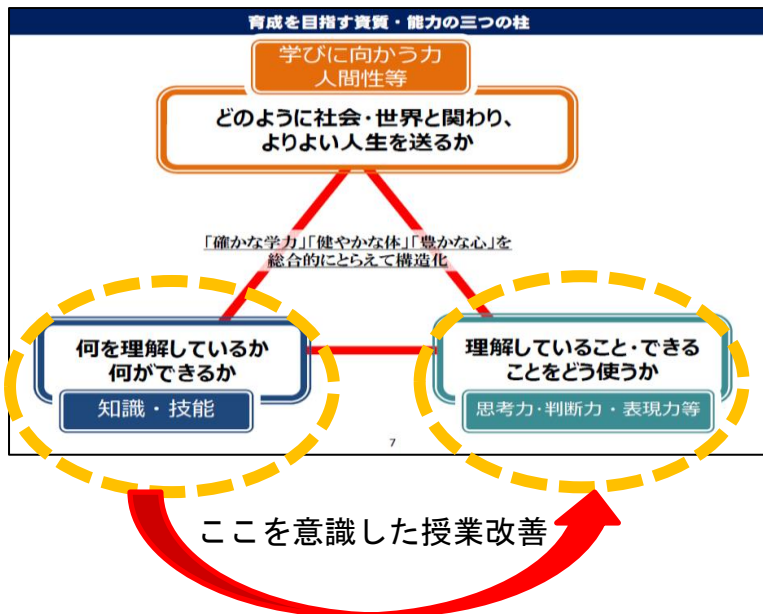
・前年度中学3年と、どの分野においても同等である。  
 ・中1に学習した地理分野の正答率が低いことを考慮すると、復習する場の設定が必要といえる。

### 3. 強みと弱み

全国とほぼ同程度で、良好な状況である。

- 日本の地域構成について。
- 室町時代や江戸時代の政治や産業について。
- 地理分野、歴史分野ともに記述式の解答について。
- 日本の産業についてのグラフの読み取りや理解について。
- 明治初期の政治と、国の動向について。

## 4. 授業改善の方向



### 次期学習指導要領

「育成を目指す資質・能力の三つの柱」

○学びに向かう力，人間性等

○知識・技能

○思考力・判断力・表現力

★キーワードは…

### アウトプットを意識したインプット

(課題解決型の学び)

- ・アウトプット (思考力・判断力・表現力) のために、インプット (知識・技能) する。
- ・アウトプットがインプットの目的になる。

- ・インプットが豊かになると、アウトプットの質が高まる。(相乗効果)
- ・社会科において、何を学び活かすかという視点を常に持ち、インプットからアウトプットまでを視野に入れた授業展開を行うことが必要である。

高等学校の選抜試験を見ると、依然として暗記した知識の取り出しが中心になっており、それによって知識を得ることは大事である。しかし、下記に紹介する例をはじめとして、2020年の大学入試改革と連動して、高等学校入試も「思考力・判断力・表現力」を問う問題が増えていくことが予想される。これは、次期学習指導要領がそのような学習の方向を示しているからである。「主体的・対話的で深い学び」と共に授業改善のキーワードにしたい。

### 【学習指導要領移行措置の内容】(平成31年～32年)

- ・平成31年度及び平成32年度の地理的分野及び歴史的分野の授業時数の配当について、新学習指導要領の規定により、授業時数を両分野に適切に配当する。
- ・平成31年度及び平成32年度の「世界の諸地域」(地理的分野)の指導に当たり、「世界の様々な地域の調査」を併せて指導する。
- ・平成31年度及び平成32年度の「世界の古代文明」,「ユーラシアの変化」,「ヨーロッパ人來航の背景」,「市民革命」(歴史的分野)の指導に当たっての内容の取扱いについて、新学習指導要領の規定による。
- ・平成30年度から平成32年度の「領域の範囲や変化とその特色」(地理的分野),「富国強兵・殖産興業政策」(歴史的分野),「世界平和と人類の福祉の増大」(公民的分野)の指導に当たっての内容の取扱いについて、新学習指導要領の規定による。

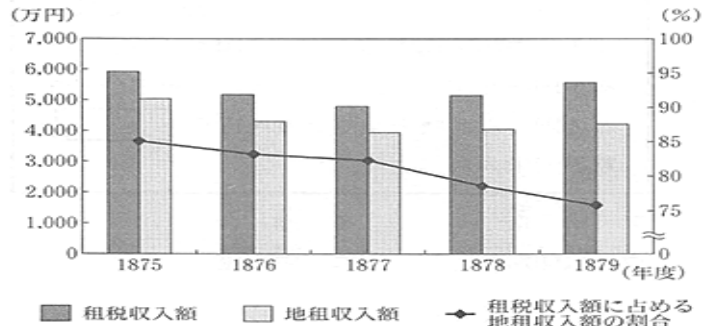
次期学習指導要領の歴史分野の目標から

○諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける

- (1) 次の文章は、略年表中の下線部 a ~ 下線部 b の時期に行われた「地租改正」について述べたものである。文章中の  にあてはまることばとして最も適当なものを、あとのア~エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

右のグラフからは、租税収入額に占める地租収入額の割合が減少していったことがわかる。  
 地租改正の政策は、国民にとって大きな負担であったため、各地で反対一揆が起こった。これに対応するため政府は、。

租税収入額、地租収入額及び租税収入額に占める地租収入額の割合の推移



(「本邦主要経済統計」より作成)

- ア 課税の基準を収穫高から地価に変更した      イ 旗本や御家人の借金を帳消しにした  
 ウ 年貢の率を四公六民に定めた                      エ 地租を地価の 2.5 % に引き下げた

- ◎ 「地租改正」語句を知っているだけではなく、その周りの事象や結果等を踏まえて解答する力を養う必要がある。→情報を基に思考させる授業を計画的に入れる。

次期学習指導要領の公民分野の目標から

○現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う

- (2) 下線部 b に関連して、次の文章は、株式会社のしくみの一部について述べたものである。文章中の  にあてはまる適当なことばを、「株主」「出資金」「責任」の三つの語を用いて 25 字以内(読点を含む。)で書きなさい。

株主は、株式を保有している株式会社において利潤(利益)が得られた場合、その利潤の一部を配当として受け取ることができる。一方、その株式会社が事業に失敗し、倒産した場合であっても、 ことはない。

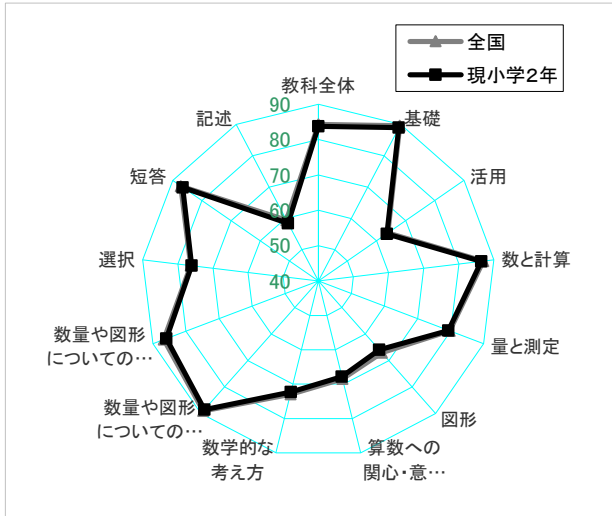
- (3) 下線部 c に関連して、次の文章は、社会科の授業で、ひろしさんたちの班が、右のページの資料を見ながら「これからの働き方」について話し合っている場面の一部である。文章中の  X ,  Y にあてはまる最も適当なものを、それぞれあとの選択肢ア~エのうちから一つずつ選び、その符号を書きなさい。

ひろしさん：かつての日本の社会では、正社員として就職して定年まで同じ企業に勤め続ける終身雇用が一般的だったけれども、現在は、契約社員など、正社員以外の就業形態が増えているみたいだね。  
 さくらさん：正社員以外の労働者が、現在の就業形態を選んでいる主な理由がわかる資料があるわよ。それぞれの理由について、男女別や就業形態別で何か違いはあるのかしら。  
 よしおさん：この資料からは、 X ことがわかるね。  
 たかこさん：正社員以外の就業形態の場合、失業した場合に一定期間、手当が給付される  Y 保険に加入していない場合もあるのよね。働き方が大きく変化する中、もっと社会全体でセーフティネットを整備していかなくちゃね。

- ◎ 「株式会社」について、キーワードを用いて自分の言葉で説明する力を養ったり、話し合い活動の中で必要な知識を得たりすることができるような力を養う必要がある。

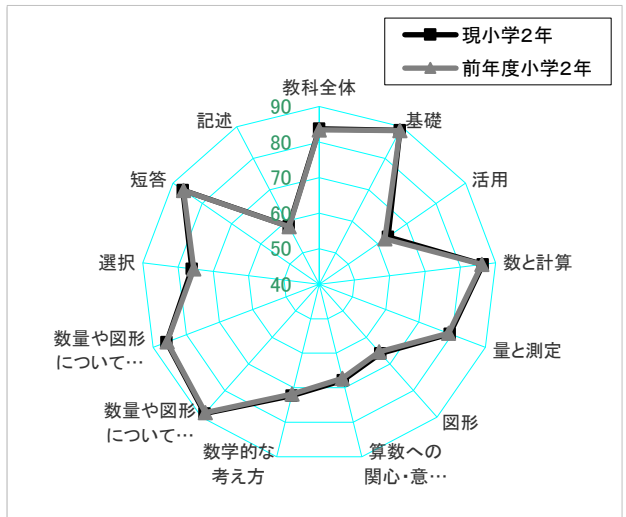
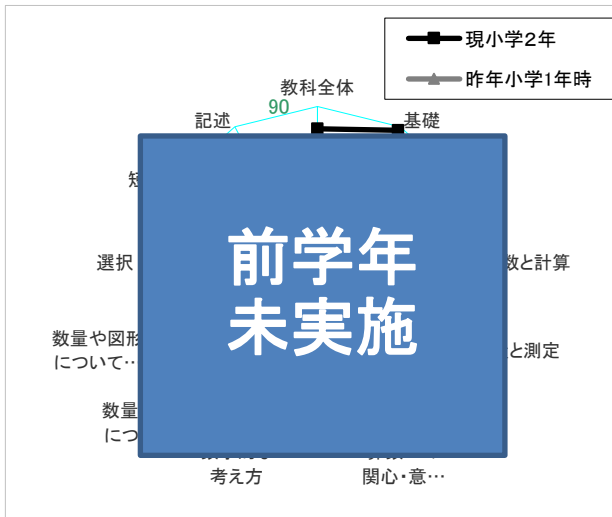
# 小学 2年 算数

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・教科全体としては、全国平均正答率とほぼ同等といえる。  
 ・「数と計算」領域においては、基本的な計算技能は概ね身に付いているが、文章題になるとやや正答率が下がる。  
 ・「量と測定」領域では、時計の読み取りに課題が見られる。  
 ・「図形」領域の問題は、特に「方向や位置に関する言葉の問題(なんばんめ)」に課題があり、無解答率も12.1ポイントと高い傾向にある。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ※前学年未実施で比較するデータが無いため、コメントはありません。

**コメント**  
 ・前年度の2年生と比較すると、教科全体、基礎、活用において若干上回っている。  
 ・「10の合成の理解」に関する問題は1.9ポイント上回っている。

## 3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

- 基本的な計算技能は身に付いている。
- 120までの数の系列、位取り記数法の理解度は高い。
- 「時計」は読み取ることはできるが、条件を満たす場面を考える問題に課題がある。
- 方向や位置に関する言葉の理解に課題がある。

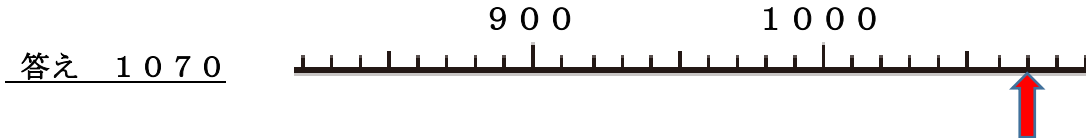
(1) 単元名「4けたのかず」

(2) 本単元をつまづき

◇出題のねらい『数直線上に示された数を読み取ることができる。』

◇問題例

下の数の線で、↑のメモリのあらかず数を答えましょう。



◇多い誤答例→ 1メモリを100と捉えてしまう。 (誤答1700)

◇つまづき仮説

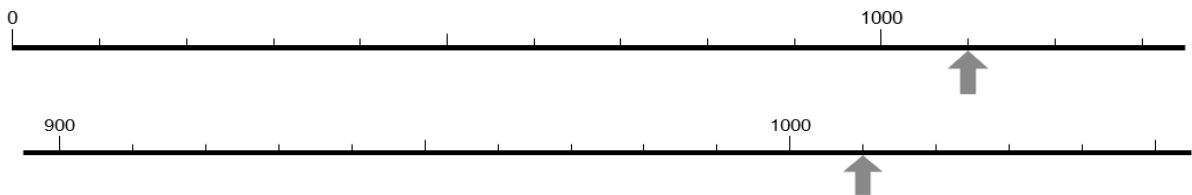
① 3位数から4位数(1000を超える)に数の範囲が広がることで、1メモリの捉えが10から100に変わってしまう。

② 「千七十」と認識しているが、表記を「1700」としてしまう。(空位をつまづき)



(3) つまづき解消に向けた指導例

①数の線をよむ時に、一番小さい1メモリがいくつかを主体的に考え、説明させる。



②空位のある数について、読み方を数字で表す問題により一層取り組む。(教科書下 P55)

3 数字で 書きましょう。

① 千三百八十三

② 六千

③ 七千八

ex 四千六十三

千が 四こ

十が 六こ

一が 三こ

百の位はないから0だね!

⇒ 4063

漢数字は単位の大きさを表す部分と個数を表す部分が明確なので、一つずつ確認しながら指導しましょう。

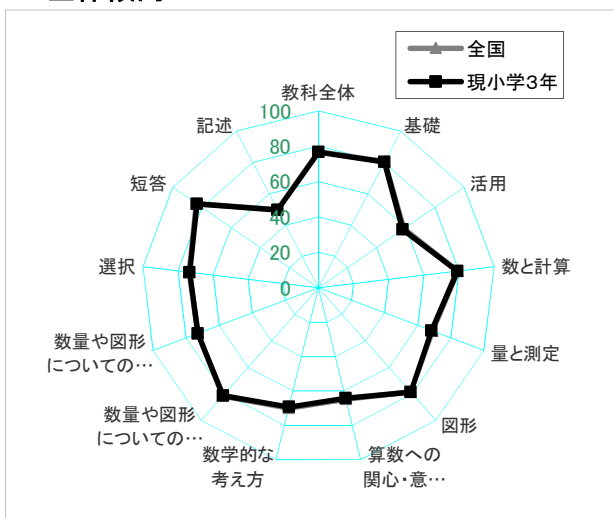


十進位取り記数法の指導について

例として、「328」は3, 2, 8それぞれの数字の位置がその大きさを表していて、1けた左へ進むと数字の示す大きさが10倍になっています。このような仕組みを理解させることに加えて、空位の0の必要性を理解させるように指導しましょう。

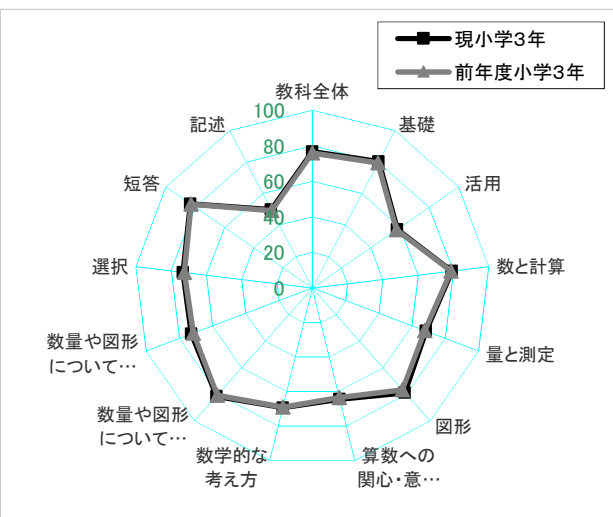
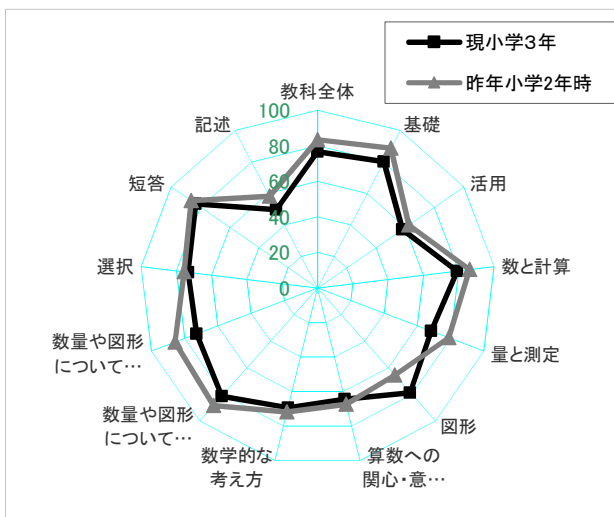
# 小学 3年 算数

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・教科全体としては、全国平均正答率とほぼ同等といえる。  
 ・「数と計算」領域では、基本的な計算技能は概ね身に付いている。  
 ・「量と測定」「図形」領域も、ほぼ全国平均と同等といえる。  
 ・「場面を理解し、条件を満たす場合を考え、その理由を説明する」問題は正答率が低く、無解答率も19ポイントと高い傾向にある。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ・昨年小学2年時と比較すると、「図形」領域が13.2ポイント上回っているのに対して、「数と計算」領域は7ポイント、「量と測定」領域は10.6ポイント下回っている。

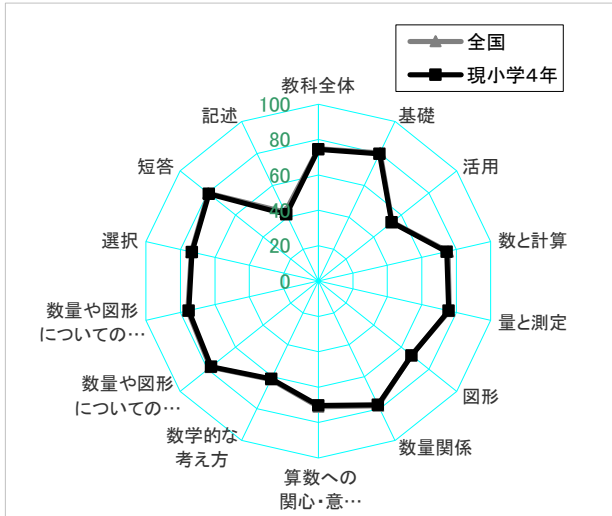
**コメント**  
 ・前年度の3年生と比較すると、ほぼ同程度であるが、「図形」領域においては、2.1ポイント上回っている。  
 ・また「量と測定」領域の「身近にあるもののかさを推察して、適切な単位を使う」問題では、4.2ポイントの向上が見られる。

## 3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

- 基本的な計算技能が概ね身に付いている。
  - 数の相対的な大きさについて理解している。
  - 文章問題(加法・減法)の場面を理解し、条件を満たす場合を考え、その理由を説明することについて課題がある。
  - 身近にあるもののかさを推察して、適切な単位を選択するための量感を身に付けることについて課題がある。
- ⇒昨年度より向上が見られるが、授業改善が必要とされる内容であるため、丁寧な指導が必要である。

# 小学 4年 算数

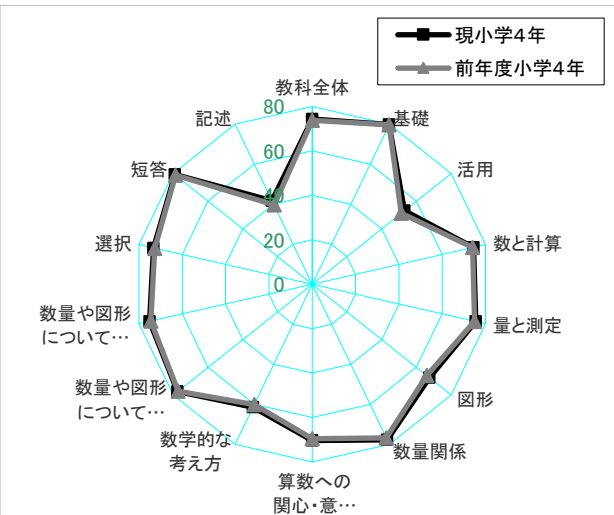
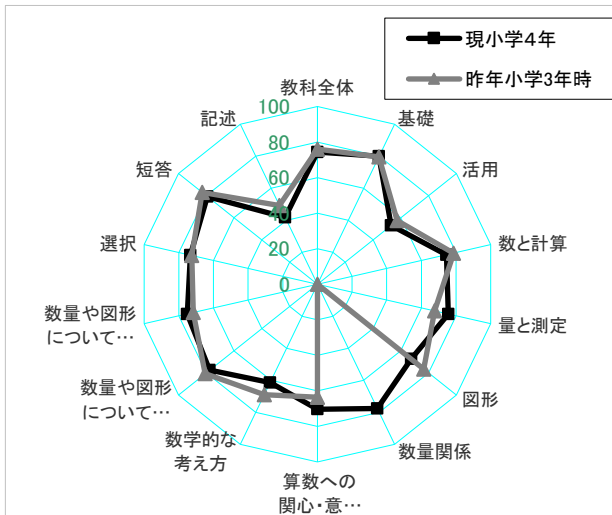
## 1. 全体傾向



### コメント

・教科全体としては、全国平均正答率より若干下回っているが、ほぼ同等といえる。  
 ・「数と計算」領域の基本的な問題については、概ね理解できているが、数学的な考え方を問う問題になると、全国平均より、2ポイント下回っている。  
 ・「量と測定」領域は、ほぼ全国平均と同等であるが、「身近にあるものの重さの推察」は、全国的な傾向でもあるが正答率が低く、全国平均より3ポイント下回っている。

## 2. 経年変化



### コメント

・小学3年時と比較すると、「量と測定」領域が7.9ポイント向上が見られる。一方で「数と計算」領域で4.1ポイント、「図形」領域で9ポイント下回っている。  
 ・観点別に見ると、「算数への関心・意欲・態度」で6.8ポイント、「知識・理解」で3.5ポイント向上している。

### コメント

・前年度の4年生と比較すると、教科全体と基礎で若干向上が見られ、活用は1.9ポイント上回っている。  
 ・全国的に正答率が低い「図形」領域の正三角形の性質を用いた適用問題は前年度より4.1ポイントの向上が見られる。

## 3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○基本的な計算技能が概ね身に付いている。

○道のりの意味を理解し、地図から道のりを読み取ることができる。

●身近にあるものの重さを推察する力が不足している。実際に測定活動を行い、量感を豊かにする活動を取り入れていく。

●2つの表で異なる数値に着目するなど工夫して、条件を満たす場合の考え方についての問題について課題がある。表の見方について、丁寧な指導が必要である。

(1) 単元名「小数のかけ算とわり算」

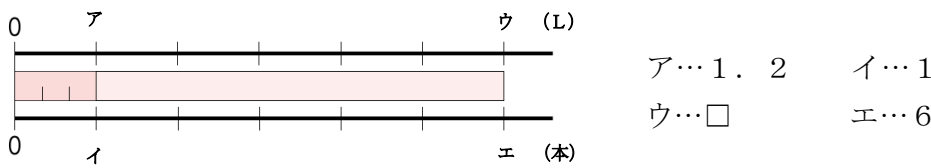
(2) 本単元をつまずき

◇出題のねらい『小数×整数の文章問題を表した図を理解している。』

◇問題例

1本1.2L入りのお茶があります。このお茶を6本買うと、お茶は全部で何Lになりますか。

上の問題について、お茶6本分のかさを□Lとして、下のような図に表して考えました。ア、イ、ウ、エにあてはまる□や数を答えましょう。



数直線図の見方や表し方が身についていない。

(3) つまずき解消に向けた指導例

○教科書(下) P132を参考に、問題場면을数直線図に表す手順について指導する時間を設ける。

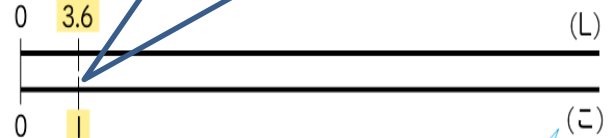
56ページ 2の問題の場面です。

1こで3.6L入るバケツがあります。  
分かっていること  
 このバケツ7こでは、水は全部で何L入りますか。  
求めること



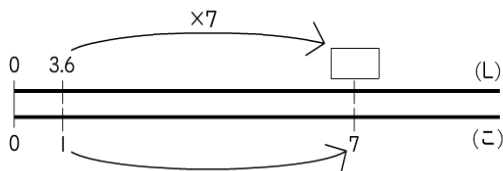
問題文から、問題を解くのに必要な数を取り出します。  
分かっていること、求めることをさがしてみましょう。

「バケツ1こに3.6L入る」という見方を丁寧に確認しましょう。機械的な指導にならないように！



1つ分の1を下の数直線に書くから、(こ)も下の数直線に書くんだね。

●下の数直線の図を見て、答えを求める式を立ててみましょう。



だから  $3.6 \times 7 = \square$  の式になります。

「バケツの数が7倍になると、水のかさも7倍になる」ことを、子どもたちが理解した上で、数直線の横の見方や立式に進みましょう。



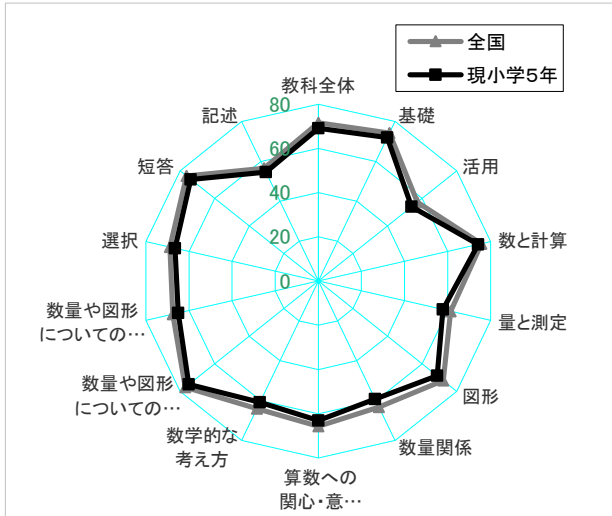
数直線を活用できるようにするには、乗数や除数が整数の段階から読み取り方を丁寧に指導し、そのはたらきを理解させていくことが大切です。

そのためにも、答えを出すだけでなく、計算の仕方をわかりやすく説明する活動を取り入れるなどして、数直線の有用性を十分に味わわせましょう。



# 小学 5年 算数

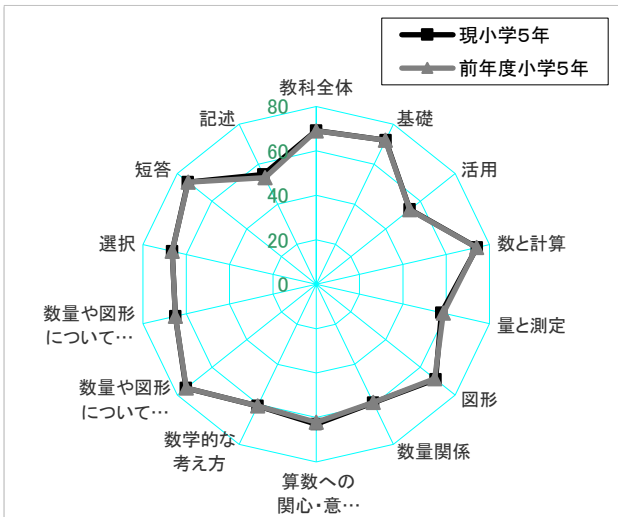
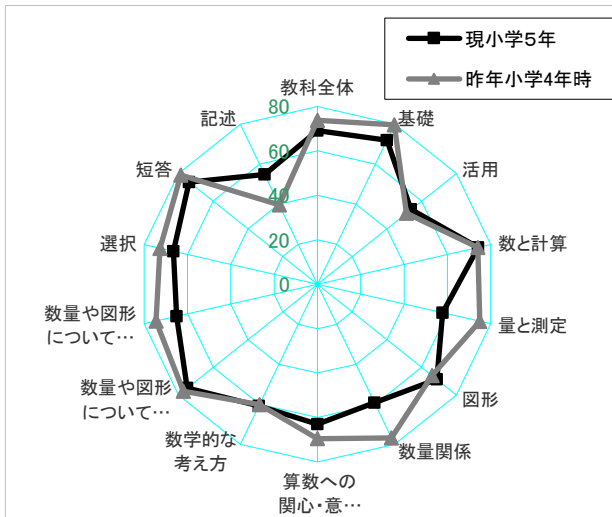
## 1. 全体傾向



### コメント

・教科全体としては、全国正答率より2.4ポイント下回っている。  
 ・「数と計算」領域では、帯分数+帯分数の計算について全国正答率より若干上回っているが、3けた÷2けたの計算については全国正答率より4.6ポイント下回っている。  
 ・「数量関係」領域は、全国正答率より下回っている。特に、「伴って変わる二つの数量の関係を表すこと」や「二次元表を利用し、問題を解くこと」については、6ポイント以上下回っており、課題といえる。また二次元表の読み方の理解について、無解答率が約2割と高くなっている。

## 2. 経年変化



### コメント

・小学4年時と比べると、活用問題については上回っているものの、基礎的な問題の正答率は下回っている。  
 ・領域別に見ると、「図形」で2.7ポイント上回っているものの、「量と測定」で17.2ポイント、「数量関係」で17.6ポイントと大きく下回っている。

### コメント

・前年度の小学5年と比べると、平均正答率は同等である。  
 ・解答形式では、記述が前年度より若干上回っている。

## 3. 強み(○)と弱み(●)

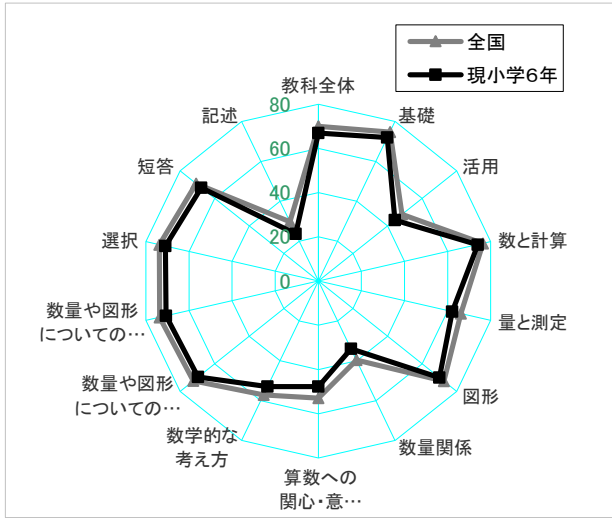
○分数の問題については、全国正答率と同等か上回っている問題がある。

●「図形」領域において、四角形の対角線の性質の理解やひし形の作図が全国正答率より大きく下回っている。対角線の性質についての理解や作図について、丁寧な指導が必要である。

●身近にあるものの面積を推察する問題では、前年度に続き正答率が大変低い。面積の量感(1cm<sup>2</sup>や1m<sup>2</sup>)をつかませることに加え、長方形や正方形の面積を計算で求めるには、となり合った2つの辺の長さをはかり、その数をかけるということをより意識して指導をしていくことが大切である。

# 小学 6年 算数

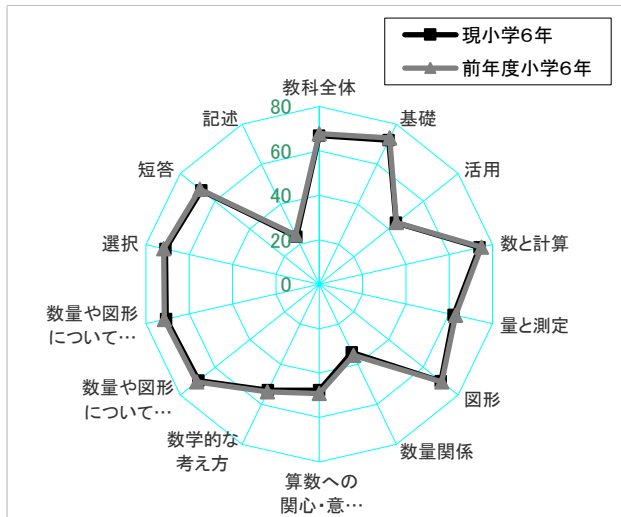
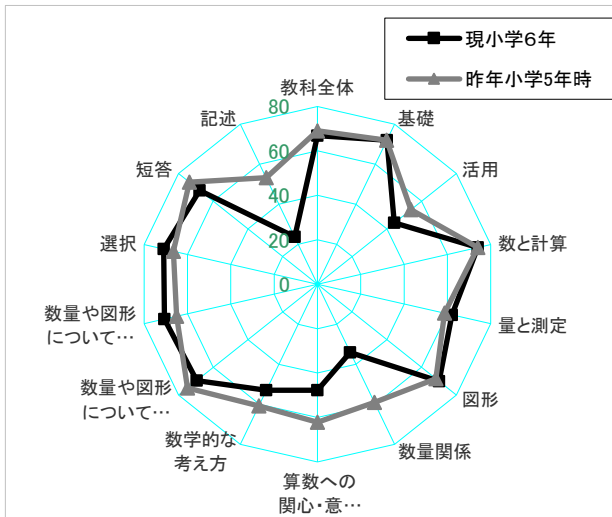
## 1. 全体傾向



### コメント

・教科全体として、全国正答率より3ポイント下回っている。  
 ・領域で見ると「量と測定」が4ポイント、「数量関係」が5.6ポイント全国正答率より下回っている。  
 ・解答形式で見ると、記述が6.1ポイント全国正答率より下回っている。問題内容「百分率とグラフ」や「面積と体積」についての無解答率が高く、課題といえる。

## 2. 経年変化



### コメント

・小学5年時に比べると、教科全体はほぼ同等であるが、活用については、9.5ポイント全国正答率より下回っている。  
 ・領域では、「量と測定」「図形」において小学5年時より向上が見られる。  
 ・解答形式で見ると、記述が大きく下回っており、課題といえる。

### コメント

・前年度6年生と比べると、すべての項目において、ほぼ同等の傾向が見られる。

## 3. 強みと弱み

○数量や図形についての技能に関する問題は全国正答率とほぼ同等である。

- 記述に関する解答の正答率が低く、無解答率が高い。このことから、自分の考えが持てるように手立てを講じ、かく活動や相手にわかりやすく説明する活動を多く取り入れるなど、授業改善が必要である。
- 単位量あたりの大きさの問題に関する正答率が低くなっている。問題場面を図や数直線を用いてイメージさせたり、自分が何を単位量あたりとして考えたのか、説明できるようにさせたりする活動を取り入れるとよい。

(1) 単元名「速さ」

(2) 本単元をつまづき

◇出題のねらい『速さ(秒速)を求めることができる』

◇問題例 ある犬が, 100mを8.56秒で走りました。秒速は何mですか。

◇多い誤答 → 8.56m・・・100m進む時間を秒速だと考えてしまう

◇つまづき仮説 ①「秒速」(速さ)とは, どのようなことを表しているのか, 理解できていない。  
 ②問題に小数が含まれているため, 立式段階で見通しが持てない。



(3) つまづき解消に向けた指導例

① 秒速とは「1秒間あたりに進む道のりで表した速さ」であることを, 具体例を交えながら, 実感を伴って理解できるようにする。その際, 速いほど数値が大きくなることにも気づかせる。

**秒速**・・・「1秒間あたりに進む道のりで表した速さ」

↓

移動する長さ  
移動にかかる時間

速さを表すには  
この2量が必要

**「1秒間に移動する長さ(距離)」**

速さには長さの単位が用いられる。(m, km・・・)

1秒間に1m移動した	→	秒速1m
2m	→	秒速2m
3m	→	秒速3m

数値が大きいかほど速い

② 問題に小数があるときは整数で考えさせたり, 数直線を使って道のりと時間の関係を視覚的に捉えさせたりする。

数直線で「道のり」「時間」の2量の関係を捉える。

**速さ=道のり÷時間** を暗記させるのではなく, なぜそうなるのか過程を大事にしたいです。

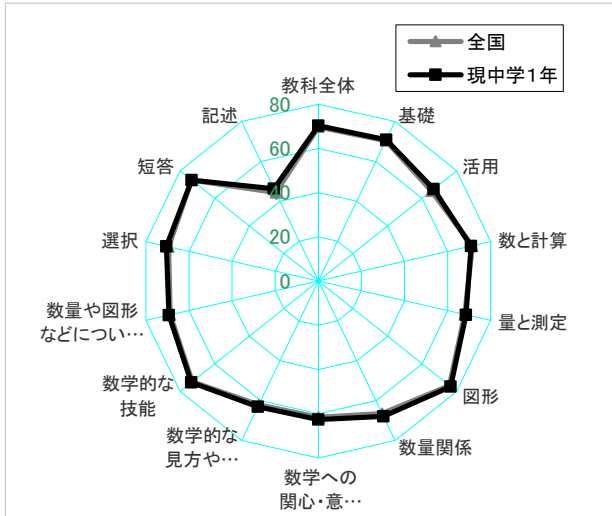


速さの指導にあたっては, 形式的に覚えさせるのではなく, 5年で学習する「混み具合」や「人口密度」からつながって, 日常生活の経験を基にして考え出したり, 説明したりできるようにするとよいです。

新学習指導要領では, 小学5年の内容になり, 混み具合と速さを1つの単元でまとめて扱うようになります。単位量あたりの大きさとして混み具合や速さを統合的に捉えることができます。

# 中学 1年 数学

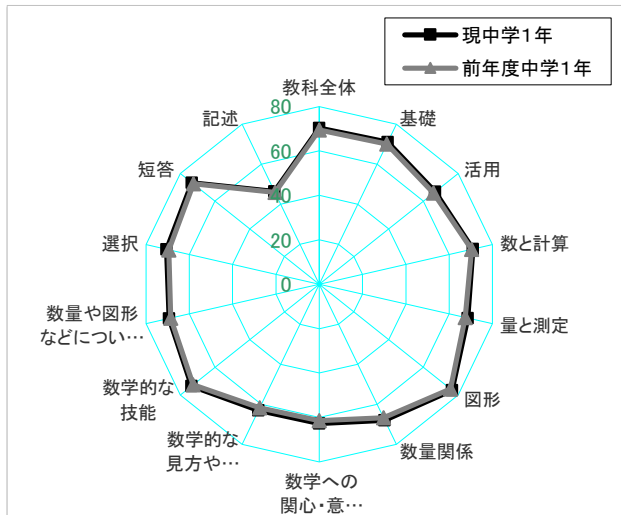
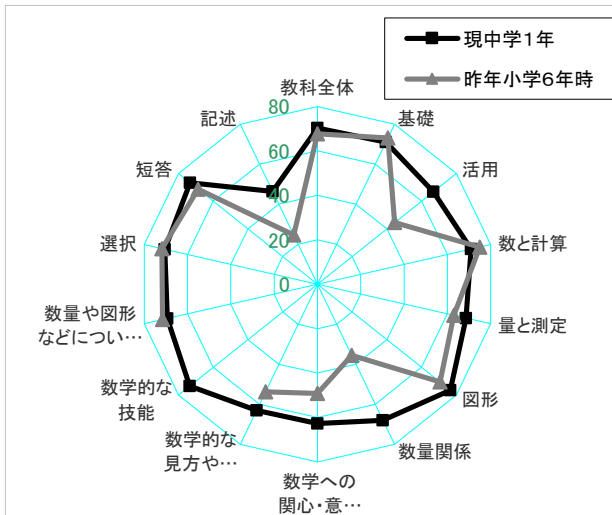
## 1. 全体傾向



### コメント

・教科全体としては、全国平均正答率とほぼ同等であり、良好な状況である。  
 ・領域別に見ても、全国とほぼ同等であり、「量と測定」「図形」「数量関係」については、全国平均を上回っている。特に「場合の数」についての問題は2問とも全国正答率より2ポイント以上高くなっている。  
 ・「数と計算」では、「小数第1位×小数第1位の計算ができる」が全国平均を2.2ポイント下回っている。  
 ・「分数の四則混合の計算」では、計算の順序を間違えている生徒が約2割いる。また昨年同様、「100m走のタイムからその速さ(秒速)を求める」問題では、100m進む時間を秒速だと誤答している生徒が約4割いる。

## 2. 経年変化



### コメント

・昨年6年時と比較すると、教科全体としては2.5ポイント上回っている。  
 ・「関心・意欲・態度」が13.5ポイント上昇している。また、基礎問題に関しては2ポイント減少したが、活用問題は22.2ポイント上昇している。特に「数量関係」の領域では32.4ポイントと大幅な向上が見られる。これにより「活用問題」と「関心・意欲・態度」には相関関係があると推測する。

### コメント

・前年度の中学1年と比較すると、すべての領域において0.5ポイント～1.5ポイント程度上昇している。

## 3. 強みと弱み

○無解答が「グラフの説明」以外は、6%以下と低い数値になっている。

○「関心・意欲・態度」が6年時よりも13.5ポイント上昇しているので、今後も意欲が継続するよう努める。

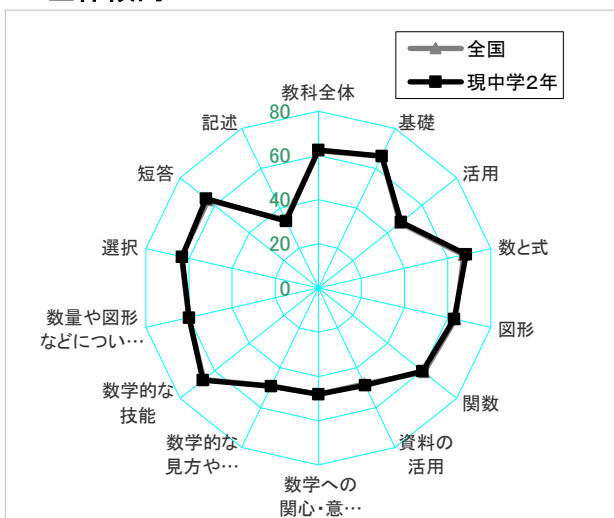
○「記述式」の問題では、前年度より21.8ポイントも上昇しており、授業で自分の考えや振り返りを継続して行う必要がある。

●「数と計算」では、小数どうしのかけ算や分数のわり算では、計算の仕方や反復練習を繰り返し行う必要がある。

●「量と測定」では、三角柱の体積の公式や合同な図形の意味等、確認を行うことが大切である。

## 中学 2年 数学

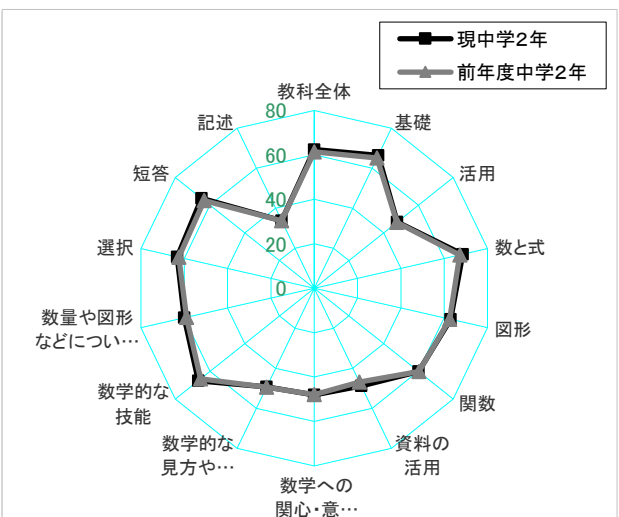
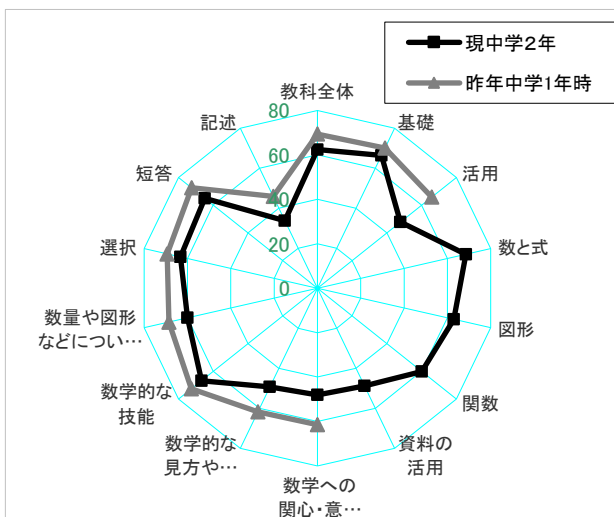
### 1. 全体傾向



#### コメント

・教科全体としては、全国平均正答率とほぼ同等であり、良好な状況である。  
 ・活用問題は、全国より若干上回っている。基礎的な問題も大きな差はないが、( )を含む1次方程式において、小さなつまづきがみられる。また、絶対値について理解が不十分な生徒が5割弱見られる。  
 ・「面と辺の位置関係」の問題や「有効数字の表し方」で、無解答が3割見られる。  
 ・全国的な傾向であるが、解答形式において、「選択」、「短答」の正答率に比べ、「記述」の正答率は大変低くなっている。

### 2. 経年変化



#### コメント

・昨年中学1年時と比較すると、教科全体としては7ポイント低下している。特に活用問題では18ポイント下回っている。  
 ・観点別に見ると、「数学的な見方・考え方」、解答形式の「記述」において、どちらも約12ポイント下がっている。

#### コメント

・前年度中学2年と比較すると、教科全体でわずかに上回っている。

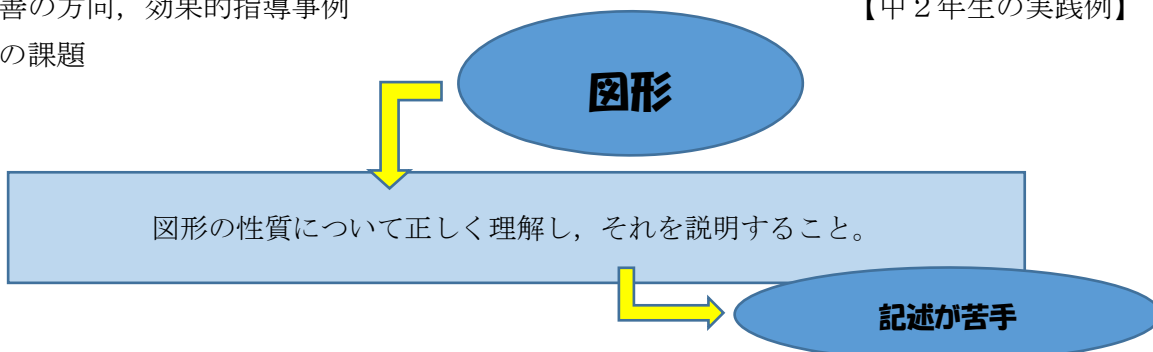
### 3. 強みと弱み

- 「数と式」の領域では、正負の計算や1次方程式については全国平均を上回ったものが多い。
- 「資料の散らばりと代表値」では、ヒストグラム等の読みとりが全国平均より高い。

- 「関数」では、全校平均よりも若干低い。「図形」の領域では、全国平均よりも若干低い。
- 「資料の散らばりと代表値」では、中央値、平均値等について正しく理解していない6割程度いる。今一度用語の確認などを行う必要がある。
- 「面と辺の位置関係」の問題や「有効数字の表し方」で、無解答が30%見られた。重点的に指導が必要である。

4. 授業改善の方向, 効果的指導事例  
 中学2年生の課題

【中2年生の実践例】



- (1) 単元名「図形の性質の調べ方」 図形の性質の確かめ方 p 1 2 6 ~ 1 3 0
- (2) つけたい力

**B 図形**

- ・ 図形の合同について, 数学的活動を通して証明の必要性と意味及びその方法について理解すること。(2) ア (イ)
- ・ 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり, 証明を読んで新たな性質を見出したりする。(2) イ (ア)



(3) 証明の手順 (例)

- ・ 証明はレベルごとに行う。

<証明の仕方>

**Level 1 穴埋め**

1. 右の図のように, 点Oで交わる2つの線分AB, CDがあります。このとき,  
 $AO=CO, DO=BO$  ならば,  $AD=CB$   
 であることを次のように証明しました。  
 [ ] にあてはまる言葉や記号式を入れて  
 証明を完成しなさい。

(仮定) [ ] , [ ]  
 (結論) [ ]  
 (証明)  $\triangle OAD$  と  $\triangle OCB$  において,  
 仮定より, [ ] ……①  
 [ ] ……②  
 [ ] は等しいから,  
 $\angle AOD = \angle COB$  ……③

◎レベル1では穴埋めにし, 書き方のパターンをつかませる。

**Level 2 Level 1 をまねて自分で証明してみる**

2. 右の図で,  $AD=CD, AB=CB$  ならば,  
 $\angle ABD = \angle CBD$   
 であることを証明しなさい。

◎レベル2ではレベル1を真似ながら証明を行う。  
 ➡自分で書くことで書くことへの抵抗が減少

**Level 3 図に必要なことを記入し, 証明してみる**

3. 右の図で,  $AD=AB, \angle DAC = \angle BAC$  ならば,  
 $\triangle ADC = \triangle ABC$  であることを証明しなさい。

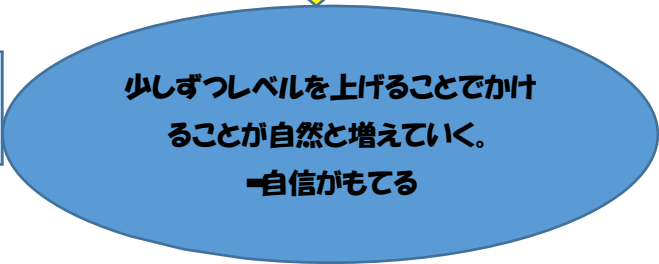
◎レベル3では, 自分で図形に仮定と結論を記入し, 証明を行う。

**Level 4 文から仮定, 結論を見つけ出し証明する**

4. 次の図で,  $l \parallel m$  で, 直線  $l, m$  上に  $AB=CD$  となるように点 A, B, C, D ととります。AD と BC の交点を O とするとき, 点 O が AD, BC のそれぞれの中点であることを, 次のように証明しました。  
 [ ] にあてはまる言葉や記号, 式を入れて証明を完成しなさい。

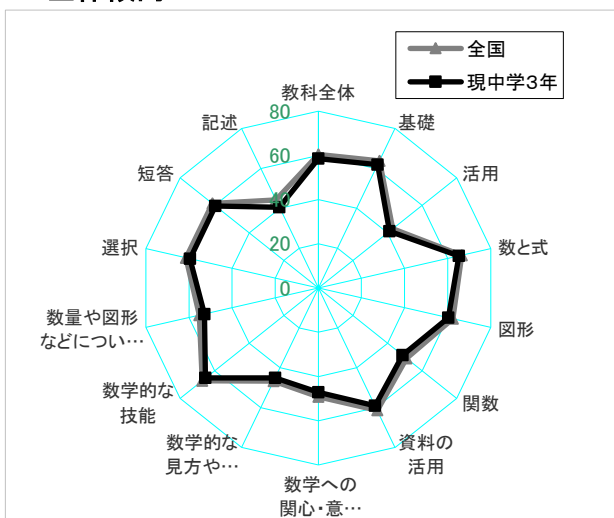
(仮定) [ ] , [ ]  
 (結論) [ ]  
 (証明)  $\triangle AOB$  と  $\triangle DOC$  において,  
 仮定より, [ ] ……①

◎レベル4では, 自分で仮定と結論を見つけ, 証明を行う。



## 中学 3年 数学

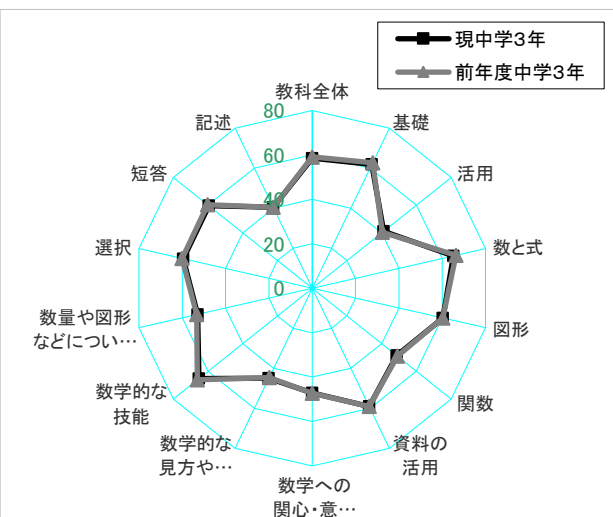
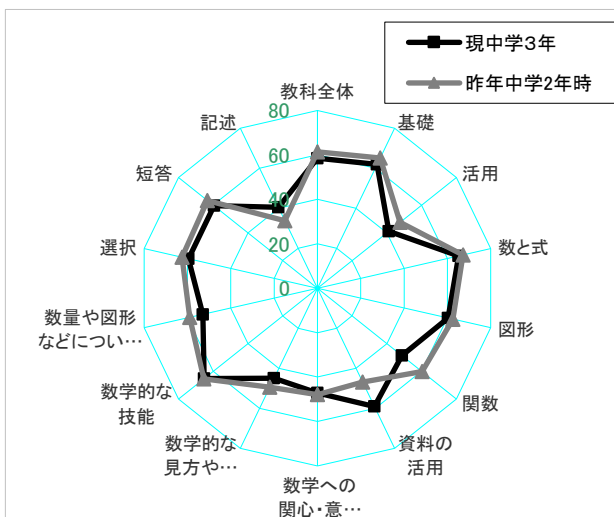
### 1. 全体傾向



#### コメント

・教科全体としては、全国平均正答率より若干下回っている。  
 ・解答形式では、「記述」で約4ポイント下回っている。  
 ・「関数」、「資料の活用」の領域では、各問題で大きな落ち込みはないものの、全国平均正答率より3～4ポイント下回っている。

### 2. 経年変化



#### コメント

・昨年中学2年時と比較すると、教科全体としては2.9ポイント低下している。  
 ・領域別に見ると、「資料の活用」で12.2ポイント上回り、反対に「関数」では、11.5ポイント下回っている。  
 ・解答形式の「記述」において、6.7ポイントの向上が見られる。

#### コメント

・前年度中学3年と比較すると、教科全体では若干下回っている。  
 ・領域や観点については、大きな差は見られない。

### 3. 強みと弱み

○「正負の計算」、「1次方程式」等の基本的な計算は、全国平均と同程度である。

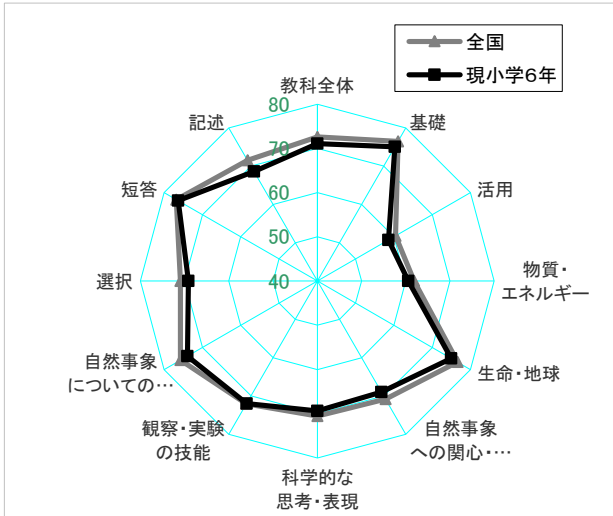
○「資料の活用」では、「確率」の部分が昨年度よりも上昇している。

○「記述」では、昨年度よりも上昇しているが、今後も授業で自分の考えや振り返りを継続して行う必要がある。

●「1次関数」では、グラフをかくことが全国平均より5ポイント低い。まずは、1次関数の意味、グラフの書き方を再確認し、生徒たちから苦手意識を取り除くことが必要である。

# 小学 6年 理科

## 1. 全体傾向

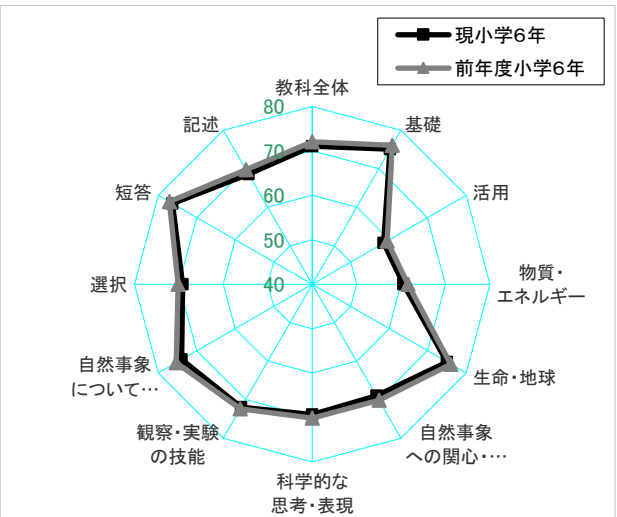
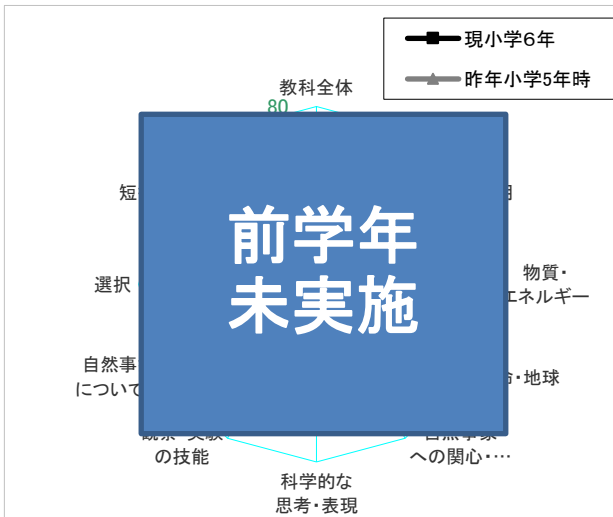


**コメント**  
 ・教科全体の平均正答率は全国と同程度である。

**〈問題別〉**  
 ・「天気の変化」の問題は、全ての問題で平均正答率が高く、良好である。  
 ・「植物の発芽と成長」「魚のたんじょう」に関する問題についても良好である。  
 ・「物のとけ方」「電流のはたらき」「流れる水のはたらき」については課題がある。

**〈解答形式〉**  
 ・記述の問題が全国より2.9ポイント下回っている。無解答率も高い傾向にある。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ※前学年未実施で比較するデータが無いため、コメントはありません。

**コメント**  
 ・前年度の小学6年と比較すると、教科全体では若干下回っている。  
 ・領域や観点については、前年度小学6年とほぼ同等である。

## 3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

- 気象衛星の雲の画像から、次の日の天気を予測することができる。
- 植物が発芽するために空気が必要かどうかを確かめるには、どの実験を比較すればよいか指摘でき
- メダカのとまごの発生の順序を理解している。
- 水の温度を下げた時、ミョウバンの溶解度が大きく下がり、溶け残りが生じることを推測することについて
- 電流の流れる向きから、方位磁針の間に電磁石を置いた時の方位磁針の針の向きを指摘することについて
- 川の写真から、川の流れている場所を指摘することについて



#### 4. 授業改善の方向，効果的指導例

- 実験により，視覚的に確認できるもの，体験できるものについてはよくできている。
- 自分の考えを説明することについて課題がある。
- 実験室の中で見えないもの（スケールの小さいもの，大きいもの）についてイメージができていない。

#### \* 記述式で「説明」して答えるような問題，無解答への対応

現象を見たり，実験したりすることで内容を知識として理解はできているが，なぜその現象が起きているのか説明できていない。

授業の中で意識的に自分自身の意見をアウトプット（発表）できる場面を作ることができれば，改善が期待できる。

例えば，実験グループを活用して全員が発表する機会を作る。小グループの仲間の意見をまとめて発表する。ワークシートのみならず，ノート作りを通して自分自身の意見をまとめる工夫するなど。

#### \* 目に見えない物を見える化することの重要性

実験・観察は，可能な限り理科室で行い，必要に応じて理科教育支援員に実験準備をしてもらう。現在，理科教育支援員の実験準備により，教科書にある実験・観察をほぼ実施できている。

しかし，実験で扱えないものに関しては，映像等を有効に活用したり，図などで視覚的にとらえられるような工夫をしたりして，児童の理解を促す必要がある。

#### \* 理科教育支援員との協力

実験・観察器具の基本操作を確実に身に付けさせる。そのために，実験器具の取り扱い説明時に，理科教育支援員に説明役をお願いするなど T2 として活用し，児童の実験技能向上につなげる。また，化学実験など，危険をとまなう実験については，T2 として協力を依頼し，安全に実験を行う。

#### 例題（あまりできていない問題）

図のような河原の石はどのあたりで見られるか。

①上流 ②中流 ③下流

また，その理由は？



「流れる水のはたらき」について

なぜ，石が右上の写真のような形になるのか。自然の中でどのような現象が起きているのか考えることが大切である。

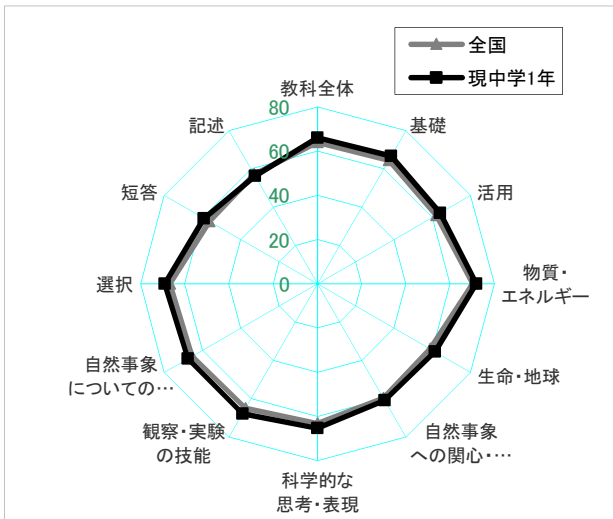
まず，石の形が右上の写真のようになることについて，映像教材を使い，学級全体で共有。次に，小グループごとにタブレット PC で映像教材を確認しながら自分の考えを発表し合い，より妥当な考えを導き出していく。それぞれの考えを共有することで，科学的思考がさらに向上していくと考えられる。

また，本単元で扱う言葉として，「しん食・運ぱん・たい積」がある。このような言葉を理解させ，流れる水のはたらきについて説明ができるような力をつけさせたい。

自然現象を学校の実験で再現することは困難であるので，映像教材等を有効に活用し，理解を深める学習活動を取り入れてほしい。

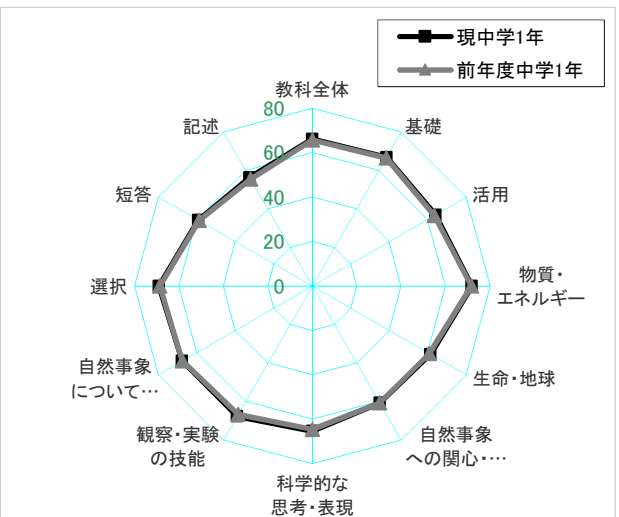
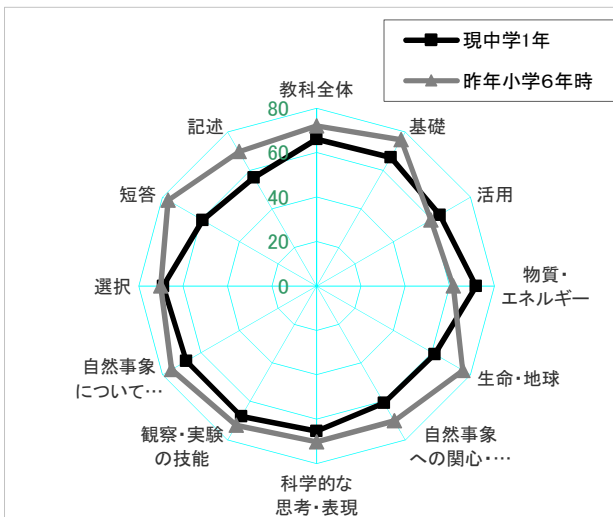
# 中学 1年 理科

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・全国と比較すると、教科全体・活用に 대해서는 ほとんど2.1ポイント、基礎については2.2ポイント上回っている。  
**<問題別>**  
 ・ほぼ全ての問題で全国平均正答率を上回っている。特に「植物の発芽と成長」の問題は、5.6ポイントと大きく上回っており良好である。  
 ・「生物とかんきょう」では、全国を下回る問題がある。  
**<解答形式>**  
 ・短答、記述問題において、全国より正答率が5ポイント以上下回る問題がある。無解答率も10%を超えており、授業改善が必要である。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ・昨年小学6年時と比較すると、教科全体、基礎は下回っているが、活用については上回っている。  
 ・観点で見ると、全ての項目で下回っているが、問題の難易度によるものと考えられる。

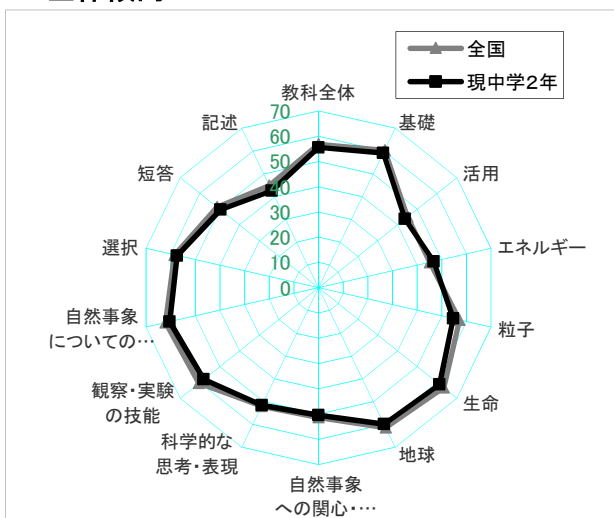
**コメント**  
 ・前年度との比較では、概ね同様か若干上回っている。領域・観点で見ても、全ての項目で上回っている。

## 3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

- 発芽に適切な温度が必要かどうかを調べる実験の条件を考えることができる。
- 液に物がとけているかどうかを調べる方法を考えることができる。
- 植物の光合成を調べる実験で、葉をアルミニウムはくでおおう理由を理解している。
- 月と太陽の特徴を理解している。
- 植物が葉から水蒸気を出すはたらきの理解について (正答→「蒸散」 誤答例→「蒸発」)
- 水溶液の性質から、その水溶液が何であることを特定することについて
- 消化された食べ物の養分がどこで吸収されるかについての理解 (正答→「小腸」 誤答例→「胃」「肝臓」)
- 植物がないと、動物が生きていけない理由を考察し、説明することについて

## 中学 2年 理科

### 1. 全体傾向



#### コメント

・全国と比較すると、教科全体・基礎・活用ともに1.2ポイント下回っている。

#### <問題別>

・「力と圧力」の問題は3.9ポイント上回っており、良好である。「植物の分類」「火山」「地層」に関しては、目標値を大きく下回る問題があり、授業改善が必要である。

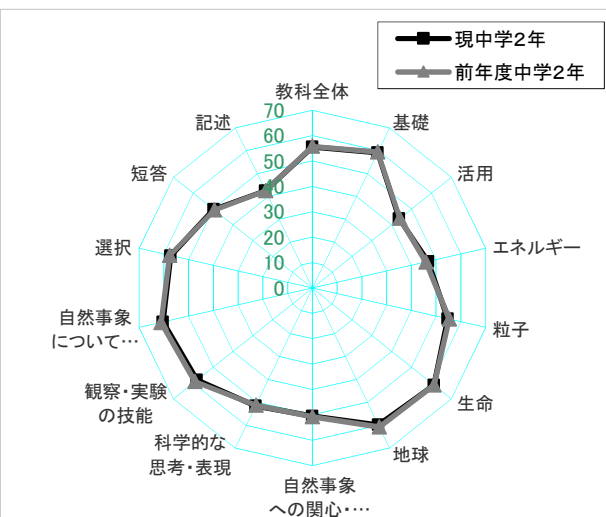
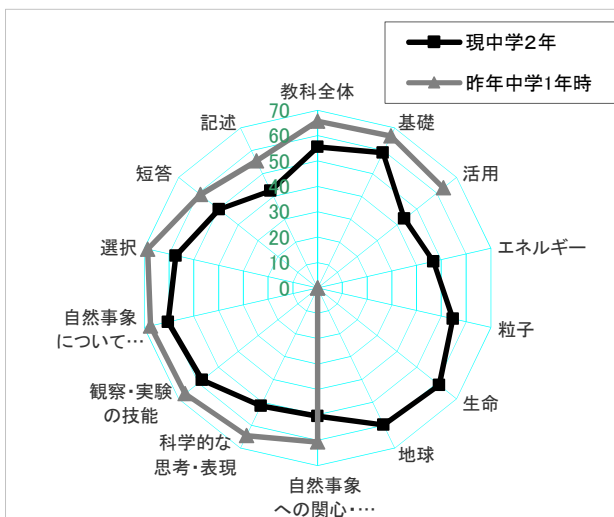
#### <領域別>

・「エネルギー」が若干上回っているが、その他の領域については同程度か若干下回っている。

#### <解答形式>

・記述に関しては、全国より2.3ポイント下回っている。

### 2. 経年変化



#### コメント

・経年変化(昨年度中学1年)と比較すると、教科全体、基礎、活用ともに下回っている。活用については19.5ポイント下回っている。(問題の難易度の違いによるものと考えられる。)

#### コメント

・前年度の中学2年と比較すると、概ね同様の結果である。

### 3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○ヨウ素デンプン反応の結果から、光合成を行いデンプンをつくった葉を判断できる。

○植物の葉が互いに重なり合わないようになっている理由を説明できる。

○氷を水とエタノールに入れたときの様子から、水とエタノールの密度を比べることができる。

○水中に完全に沈んだ物体をさらに深く沈めたときの、浮力の大きさについて考えることができる。

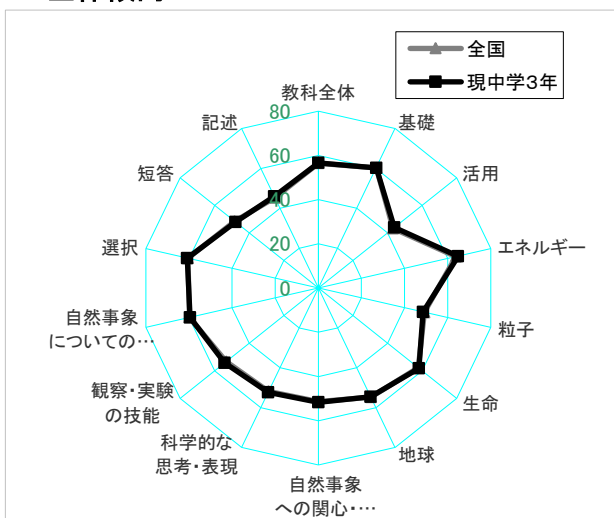
●シダ植物やコケ植物は孢子をつくって増えることについて

●深成岩のでき方とできた場所について

●示準化石に適した生物の特徴を説明することについて

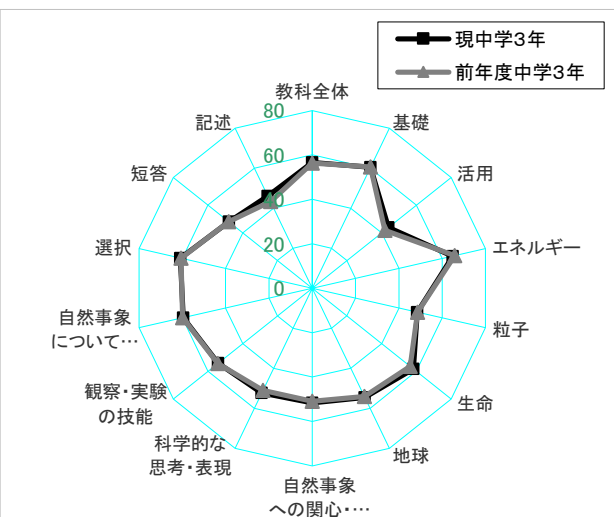
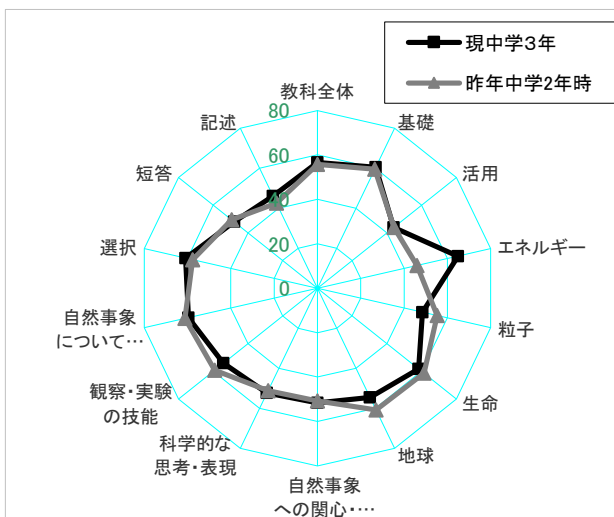
# 中学 3年 理科

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・全国と比較すると、教科全体と活用では若干上回っている。基礎については、全国と同程度の数値である。  
**<問題別>**  
 ・「電流と磁界」については、全国より3.2ポイント上回っているが、「化学変化」については全国より4ポイント下回っている。  
**<領域別>**  
 ・「エネルギー」については、全国より若干上回っているが、その他の領域については同程度か若干下回っている。  
**<観点別>**  
 ・「観察・実験の技能」について若干全国より上回っているが、その他の項目ではほぼ同程度の数値である。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ・経年変化(今年度と中学2年時)で比較すると、教科全体、基礎において若干上回っている。「エネルギー」の領域については、19ポイント上回っている。

**コメント**  
 ・前年度の中学3年と比較すると、活用において2.1ポイント上回っている。

## 3. 強みと弱み

- デンプンを消化する器官を理解している。
- 肝臓のはたらきを理解している。
- 誘導電流の向きと大きさを変えられることについて理解している。
- 「電磁誘導」について理解している。
- ガスバーナーの炎の正しい消し方について
- 細胞を観察するときを使う染色液の理解について
- 電流と電圧の測定の結果から、電熱線の抵抗を求めることについて

#### 4. 授業改善の方向，効果的指導例

- 実験により，視覚的に確認できるもの，体験できるものについてはよくできている。
- 自分の考えを説明することについて課題がある。
- 実験室の中で見えないもの（スケールの小さいもの，大きいもの）についてイメージができていない。

#### \*記述式で「考え方を説明」して答えるような問題，無解答への対応

現象を見たり，実験したりすることで内容を知識として理解はできているが，なぜその現象が起きているのかを説明できていない。

授業の中で意識的に自分自身の意見をアウトプット（発表）できる場面を作ることができれば，改善が期待できる。

例えば，実験グループを活用して全員が発表する機会を作る。小グループの仲間の意見をまとめて発表する。ワークシートのみならず，ノート作りを通して自分自身の意見をまとめる工夫をするなど。

#### \*目に見えない物を見える化することの重要性

電流や電圧，分子や原子など，中学校では目に見えないものを学ぶことが増える。また，教員はイメージできていても，生徒はイメージできていないことも多い。

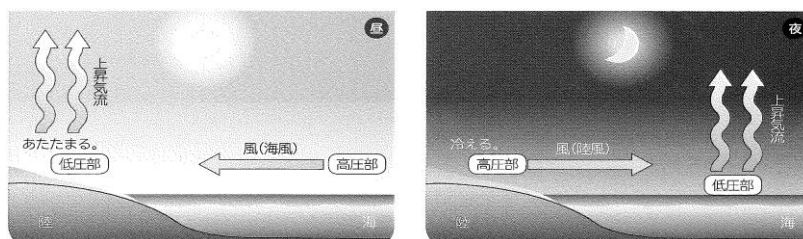
柏市では，ICT 機器が各教室に配置されているので，イメージを模式的に動画として見ることができる映像教材の活用は有効であると考えられる。

#### \*理科教育支援員との協力

実験・観察器具の基本操作を確実に身に付けさせる。そのために，実験器具の取り扱い説明時に，理科教育支援員に説明役をお願いするなど T2 として活用し，生徒の実験技能向上につなげる。また，化学実験など，危険をとまなう実験については，T2 として協力を依頼し，安全に実験を行う。

#### 例題

右の図は，海陸風についてモデルで表したものである。風がふく理由を簡単に説明しなさい。



#### 「気象のしくみと天気の変化」について

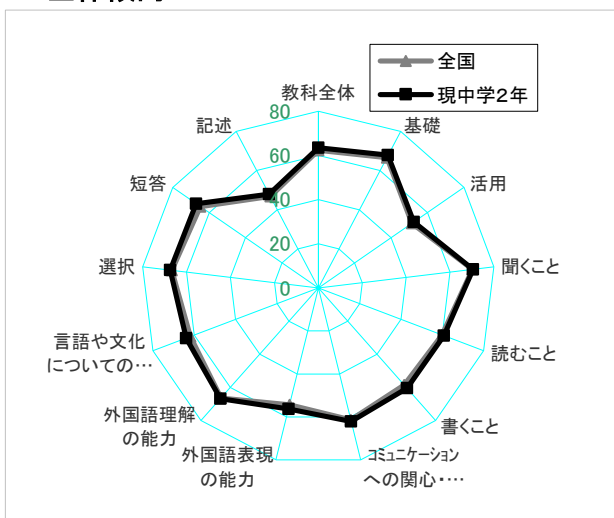
なぜ，海陸風が吹くのかということについて，まず，「陸と水のあたたまり方の違い」の理解が必要になる。そこで，海陸風が吹く様子について映像教材を使い，学級全体で共有する。そして，小グループごとにタブレット PC で映像教材を確認しながら自分の考えを発表し合い，より妥当な考えを導き出していく。それぞれの考えを共有することで，科学的思考がさらに向上していくと考えられる。

また，本単元で扱うものとして，「太陽放射のエネルギー」と「空気中の水蒸気」に関する内容がある。気象のしくみについて理解させていく過程で，これらを意識させ，生徒自ら説明できるような力をつけさせたい。

自然現象を学校の実験で再現することは困難であるので，映像教材等を有効に活用し，理解を深める学習活動を取り入れてほしい。

## 中学 2年 英語

### 1. 全体傾向



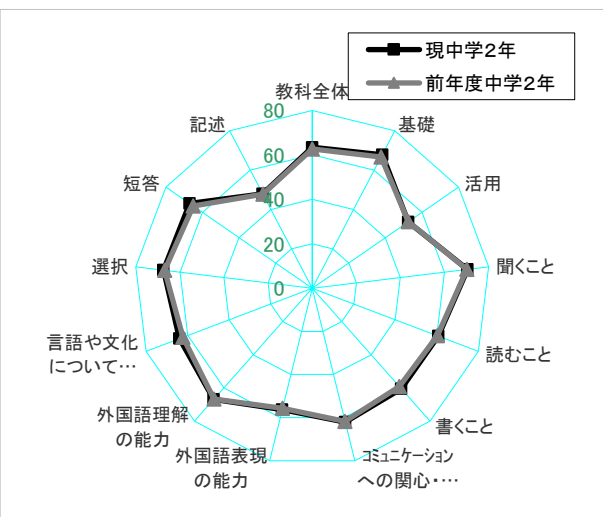
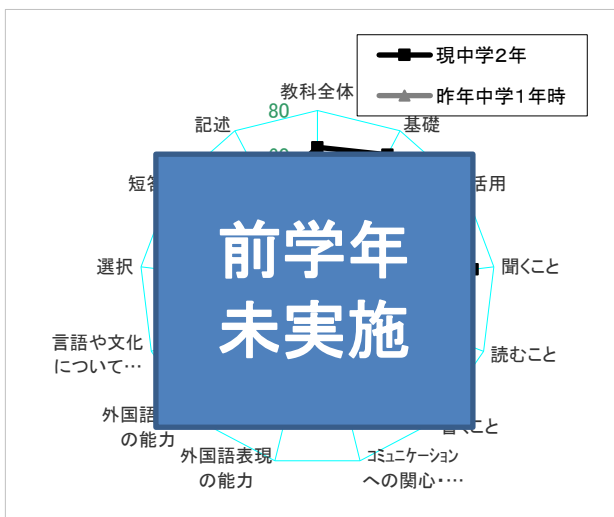
#### コメント

・全国の数値と比べると、すべての項目において同等かそれ以上の結果となっている。

#### <項目別>

・基礎的な知識を身に付けることができているが、それらを「活用」することにまだ課題がある。  
 ・昨年度の2学年の数値と比較すると、「外国語表現の能力」に上昇が見られる。  
 ・形式別で見ると、選択問題や短文問題に比べ、「記述」問題に課題のある生徒が多い。

### 2. 経年変化



#### コメント

※前学年未実施で比較するデータが無いため、コメントはありません。

#### コメント

・前年度の2年生と比較すると、わずかではあるが、「言語や文化についての知識・理解」の項目が上回っている。また、形式としては、「短文」の問題について上昇している。一方、引き続き「活用」や「外国語表現の能力」に課題が見られる。

### 3. 強みと弱み(強み○, 弱み●)

- リスニング問題での英文の要点の聞き取りは全国を大きく上回っている。
- 正しい語順に並べ替えて書く問題では、全国を上回っている。
- 記述式で書くことについては、聞き慣れている表現に関する問題は正答率が高い。
- リスニングにおける内容理解については、全国をやや下回っている。
- 記述式で書くことについて、やや課題が見られる。

### 小学校からの円滑な接続

今年度は小学校における次期学習指導要領への移行期間の最終年度となっている。

○各小学校で3年生から外国語活動が行われている。

3・4年生：年間35時間（週1時間程度）

5・6年生：年間70時間（週2時間程度）

○小学校で使用されているデジタル教科書は、

「職員室WEB」⇒「英語」⇒「オンライン学習（ネットドリル）」⇒「Let's Try!/ We Can!」  
で閲覧が可能

○小学校：「聞く」、「話す」の言語活動を中心とした学び

↓

中学校：様々な場面で、文字や文法に自然につなげていくことが必要  
※文法など学習内容の高度化への配慮

### 今回の調査結果及びその対策として

○リスニングにおける内容理解で、全国平均を下回る数値があった。

⇒概要は聞き取れているものの、正しく内容を掴むためのキーワードなどを聞き取り、内容を捉える機会の充実を図る。

デジタル教科書の積極的な活用によるネイティブの音声を聞く機会の充実に加え、ICTを活用した教科書以外の動画や音声などを聞き、正しく聞き取れるようになるまでの場面設定

○全体的な課題として、「活用」の分野があげられる。基礎の定着については、結果として一定の数値が出ているものの、生徒が英語を使う機会を効果的に設ける必要がある。

⇒技能統合型の言語活動の充実

・スピーチの発表の後で感想を生徒同士で述べ合う。

【話すこと〔発表〕→話すこと〔やり取り〕】

・プレゼンテーションの後で、分かったことや感想を書く。

【話すこと〔発表〕→書くこと】

・ディスカッションで話し合ったことについて、自分の感想や意見を書く。

【話すこと〔やり取り〕→書くこと】

・友達の夏休みの日記を読み、事実と感想を他の人に伝える。

【読むこと→話すこと〔発表〕】

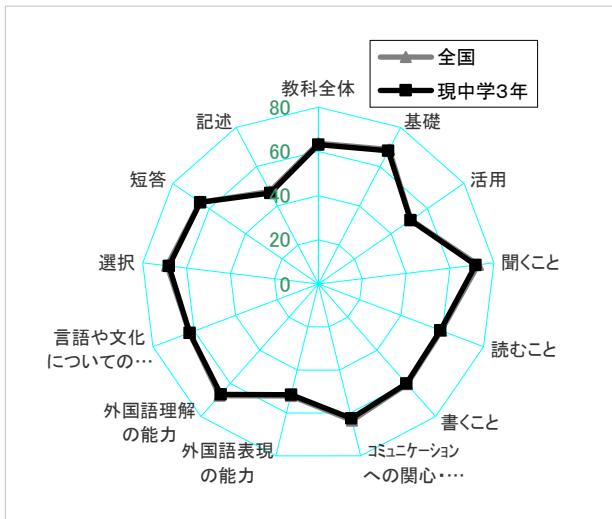
・教科書で読んだことについて、自分の意見や感想を書く。

【読むこと→書くこと】

「つきたい力」を明確にした言語活動による指導の充実を！

# 中学 3年 英語

## 1. 全体傾向



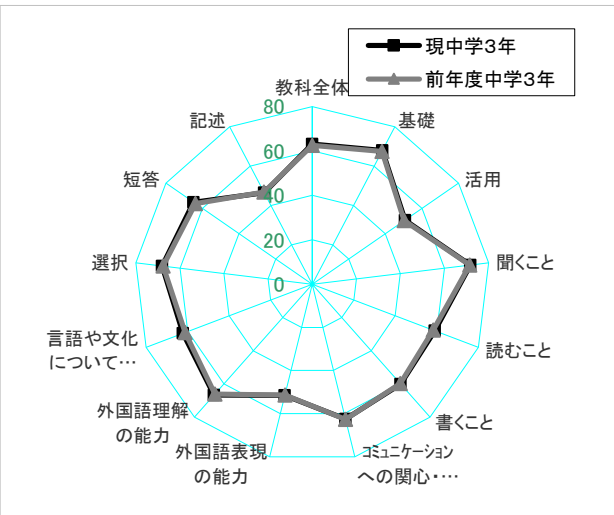
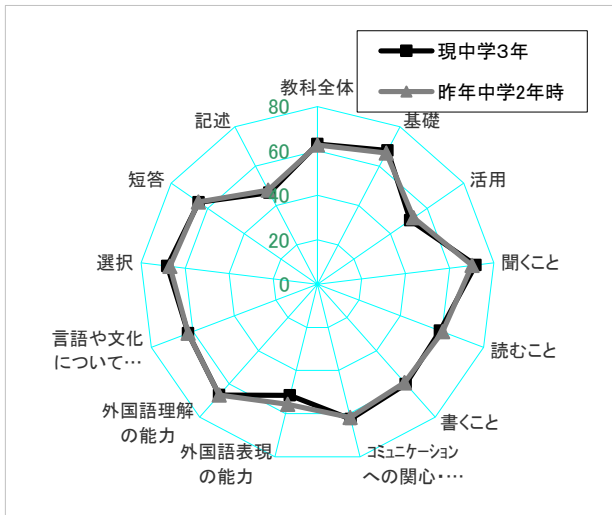
### コメント

・全国の数値と比べると、概ね同等である。

### <項目別>

・基礎的な知識を身に付けているが、それらを「活用」することに課題がある。  
 ・「外国語表現の能力」について、他の項目に比べると低い数値となっている。  
 ・形式別で見ると、選択問題や短文問題に比べ、「記述」問題に課題のある生徒が多い。

## 2. 経年変化



### コメント

・昨年度2年時の数値と大幅な変容はないが、「外国語表現の能力」の項目で低下が見られる。これは、学年が上がるにつれ、扱う文法や表現の難易度が上がったことによると考えられる。

### コメント

・前年度の3年生と比較しても大きな違いは見受けられない。引き続き「活用」や「外国語表現の能力」に課題が見られる。

## 3. 強みと弱み

- 場面に応じて書く英作文については、全国を上回っている。
- 正しい語順に並べ替えて書く問題では、前年度の数値を上回っている。
- リスニングにおける内容理解については、英文の要点を聞き取る問題で全国を下回っている。
- 記述式で3文以上の英作文を書くことについて、課題が見られる。



## 背景として

中学校2年間の学習を経て、得意な技能・領域の力は維持できているが、そうでない技能・領域について数値の低下が多く生徒の中で進む傾向にあり、二極化が広がっている。

## 今回の調査結果及びその対策として

☆場面に応じて英作文を書く問題では、概ね良好な結果が出ている。

⇒今後求められている力の一つであり、状況に応じた自然なやり取りを意識した授業の成果だと考えられる。引き続き、必然性のある場面設定の中で行われる言語活動の充実により、向上を図っていく必要がある。

○リスニングにおける内容理解で、全国平均を下回る数値があった。

⇒概要は聞き取れているものの、正しく内容を掴むためのキーワードなどを聞き取り、内容を捉える機会の充実を図る。

デジタル教科書の積極的な活用によるネイティブの音声を聞く機会の充実に加え、ICTを活用した教科書以外の動画や音声などを聞き、正しく聞き取れるようになるまでの場面設定

○全体的な課題として、「活用」の分野があげられる。基礎の定着については、結果として一定の数値は出ているものの、生徒が英語を使う機会を効果的に設ける必要がある。

⇒技能統合型の言語活動の充実

- ・スピーチの発表の後で感想を生徒同士で述べ合う。

【話すこと〔発表〕→話すこと〔やり取り〕】

- ・プレゼンテーションの後で、分かったことや感想を書く。

【話すこと〔発表〕→書くこと】

- ・ディスカッションで話し合ったことについて、自分の感想や意見を書く。

【話すこと〔やり取り〕→書くこと】

- ・友達の夏休みの日記を読み、事実と感想を他の人に伝える。

【読むこと→話すこと〔発表〕】

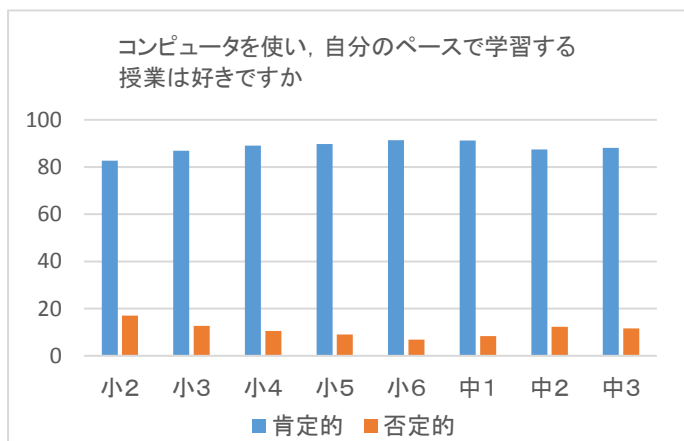
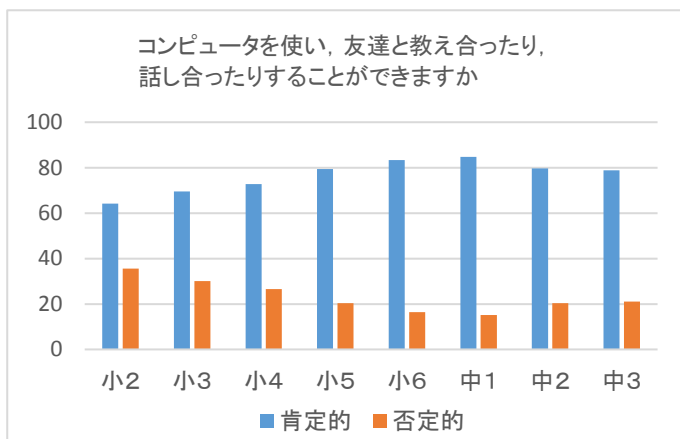
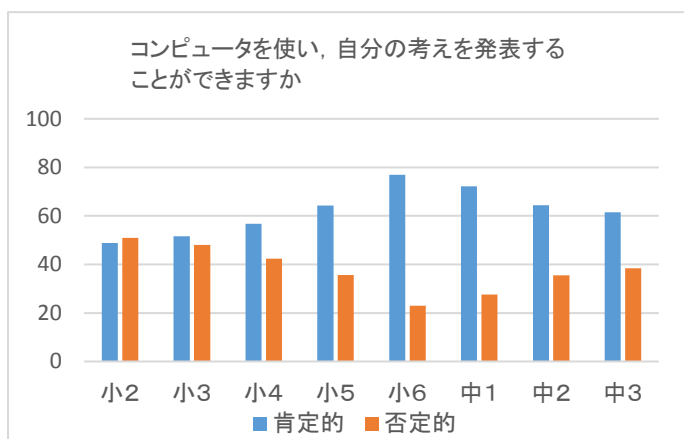
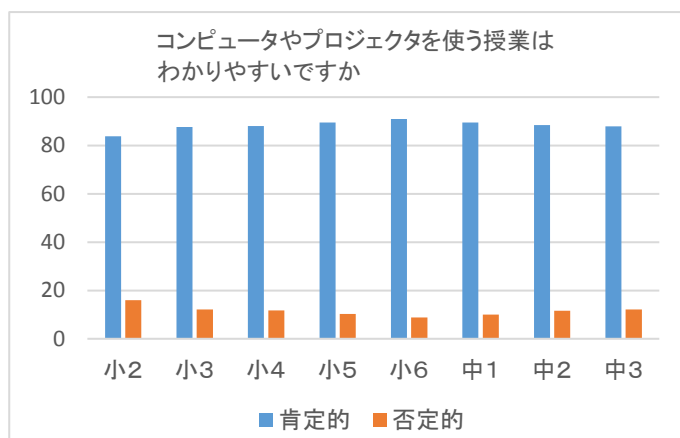
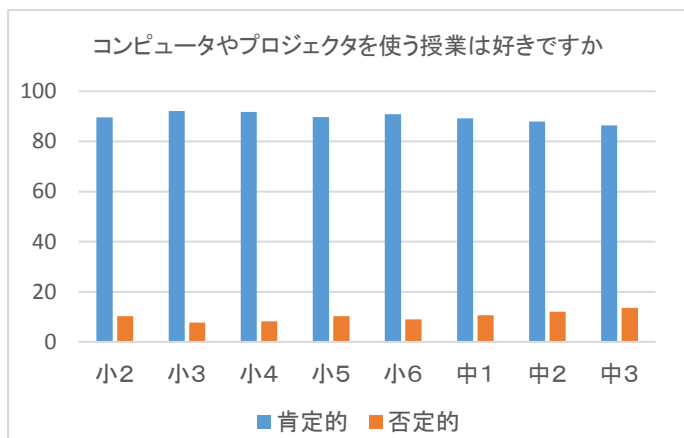
- ・教科書で読んだことについて、自分の意見や感想を書く。

【読むこと→書くこと】

※特に「書くこと」については無解答の生徒が一定の割合を占める問題があり、改善が必要

「つきたい力」を明確にした言語活動による指導の充実を！

## ◆ICT 活用に関する生活・学習意識調査結果及び学力との関連について



今年度の ICT 活用に関する生活・学習意識調査結果では、どの学年においても授業での ICT 活用を求めていることがわかります。特に、「コンピュータやプロジェクタを使う授業は好きですか」「コンピュータを使い、自分のペースで学習する授業は好きですか」という項目に関しては、どの学年も肯定的な回答が9割近いです。それだけコンピュータが子ども達にとって身近であるとともに、興味・関心が高いことが伺えます。また、それに加えて、「コンピュータやプロジェクタを使う授業はわかりやすいですか」という項目においても同じような結果でした。課題を提示し、わかりやすく説明する上で、コンピュータが必須になってきています。しかし、「コンピュータを使い、自分の考えを発表することができますか」の項目においては、否定的な回答が4割を超える学年が増えます。特に小学2年生は肯定的よりも

否定的な回答が上回ります。コンピュータを使うことは好きだが、コンピュータを使って自分の意見を伝えることに関しては、苦手意識が高くなっています。ただ小学校においては、学年が上がるにつれ、肯定的な回答が増えることから、コンピュータでの発表機会や協働学習での利用率をあげることで、コンピュータに慣れ、苦手意識を軽減させることが期待されます。

新学習指導要領では、「情報活用能力」を言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けています。情報活用能力を育成するためには、教師だけでなく、児童生徒のICT活用が必要不可欠であり、積極的に学習活動に取り入れていく必要があります。

## 「情報活用能力」育成に向けた ICT を活用した授業展開例

### 【ポイント】

- \* 情報を収集・整理し、比較分析を行い、それを表現し他者へ伝達する学習活動
- \* これまでの指導過程への位置付け

学習活動	学習場面	具体的な ICT 活用
課題把握	一斉	電子黒板やデジタル教科書, 実物投影機等で拡大して映す
自力解決	個別	タブレット PC でデジタル教材等を活用しながら自分の考えを整理する
比較検討	ペア・グループ・一斉	授業支援ソフトや協働学習ソフトを活用して他者の考えを共有したり, 自分の考えの再構成したりする
習熟	個別	

### ○協働学習でコラボノートを活用 (JR 四国コミュニケーションウェア HP より)

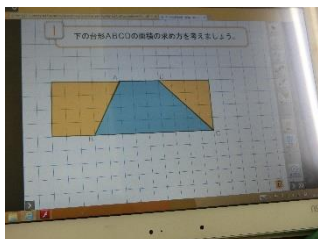


【みんなで寄せ書き】



【グループで新聞作成】

### ○デジタル教科書, タブレット PC, 電子黒板の活用



## 1 調査結果からみえる課題の改善には、学校図書館の活用が不可欠です。

### ①学校図書館で「読書習慣」

語彙力や漢字を読む力を育成するには、たくさんの生きた言葉に出会うことが必要です。学校図書館を活用して、語彙を増やしましょう。

### ②学校図書館で「目的に応じた様々な読み」

日常生活では、時と場に応じて、様々な読み方が必要とされます。例えば、「全体を速く読む」「比べて読む」「必要な箇所を素早く見付けて読む」などです。学校図書館を活用して、様々な方法で読む力を鍛えましょう。

### ③学校図書館で「調べ学習」

学校図書館を活用して、全ての教科領域で、主体的・対話的な調べ活動を行い、学びを深めましょう。

## 2 学校図書館を「読書センター」から「学習センター」「情報センター」へ

### ★学び、深まる、図書館から！！

学校図書館を活用した授業を行っている教員の割合は右記のとおりとなっていて、小学校では、100%に近い数、中学校では60%近くの教員が活用をしています。

しかし、活用できる教科が、限定的になっていることはないでしょうか。

そのようなときには、ぜひ「学校図書館運営マニュアル」「学校図書館を活用した単元例」を参考にしましょう。学校図書館の活用方法、学校図書館を活用できる教科ごとの単元例が記載されています。授業づくりの幅がぐっと広がります。

詳しくは

⇒ 学校図書館ONLINE

で 検索！！

学校図書館を活用した授業を

行っている教員の割合

【H30年度】

小:98.0%

中:63.8%

小中:86.5%



## ★調べ学習を楽しくて力がつく授業にしよう！！

柏市には、学校図書館指導員がおり、時季によって展示本が変わるなど、環境が整っています。学校図書館は、「好きな本を読む場～読書センター～」にとどまらず、「各教科領域の学習における情報収集・活用～学習センター・情報センター～」の機能も兼ね備えています。つまり、子供達にとっては、「第2の教室」です。

下記の例を参考に、学校図書館を活用した調べ学習を展開してみましょう。

### (1) 調べ学習とは

「調べ学習」とは、情報リテラシー教育のことです。ひとつの課題に対して、さまざまな情報・資料を集め、必要な情報を選び出し、自分なりに理解・分析し、わかりやすくまとめ発表する。この一連の流れを、「調べ学習」と考えます。

この「調べ学習」を通して、信用できる情報の選択、著作権の問題など、現代社会を生き抜くために必要な情報モラルも学ばせます。

### (2) 調べ学習5つのステップ

<b>1. テーマの設定&amp;資料の確保</b>
<b>2. 動機付け</b>
<b>3. 各自の課題設定</b>
<b>4. 多メディアを活用して調べる</b>
<b>5. 発表(プレゼン・新聞・作文…)</b>

《魔法のこぼれ》

**の、なに？**

(例) スポーツの歴史、始まり、日光の歴史、修学旅行のお土産

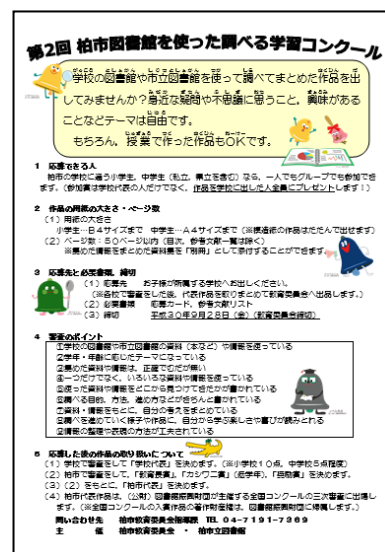
「の、なに？」まで考えていくことで、焦点を絞って調べることができます。

### (3) 調べ学習の発表の場

「調べ学習」を効果的に進めるには、学習のゴールである「発表の場」が重要です。子どもたちにとって、学んだことが何かの役に立ったり、誰かのためになったり、多くの人の目に触れたりする、「社会に開かれた教育課程」を意識した「調べ学習」にしていきます。

具体的には、地域をテーマとした「調べ学習」の発表を地域の人々へ発信したり、商店街をテーマとした「調べ学習」を踏まえて、実際に商店街の活性化の提案をしたりするような活動です。

また、公益財団法人図書館振興財団が主催する「図書館を使った調べる学習コンクール」の地域コンクールである、「柏市図書館を使った調べる学習コンクール」に出品し、「調べ学習」の成果を進んで発表するよう子どもたちに働きかけることも効果的です。



**第2回 柏市図書館を使った調べる学習コンクール**

学校の図書館や市立図書館を使って調べたまとめた作品を出してみませんか？ 話題な疑問や不思議に答えること、興味があることなどテーマは自由です。もちろん、授業で作った作品もOKです。

- 応募できる人**  
柏市の学校に通う小学生、中学生（私立、専ら児童）なる、一人でもグループでも応募できます。(参加費は学校代表の人だけがなく、生徒は学校に申し込んでも構いません！)
- 作品の構成の大きさ**・ページ数  
(1) 構成の大きさ  
小学生：自由サイズまで 中学生・高1サイズまで (図表添付の作品もだんて出せます)  
(2) ページ数：50ページ以内 (図表、参考資料一冊は除く)  
※表紙は制作費をまかなった資料集として提出することができます。
- 応募先と必要書類、締切**  
(1) 応募先 柏市立図書館(柏市立図書館)へお持ちください。  
(2) 必要書類 応募カード、応募資料リスト  
(3) 締切 応募日の翌日(日)まで(郵送品は除く)。
- 賞状のポイント**  
市立図書館や市立図書館の資料(本など)や書籍を返している図書カードや図書券は、正確でいいが面白い  
一つだけではない、いろいろな資料や書籍を使っている  
調べた疑問や疑問を必死に調べて答えている  
調べた目的、方法、進め方がちゃんと書かれている  
資料・書籍を自分で、自分の考えをまとめている  
調べた疑問について自分なりに、自分なりの答えを出している  
調べた疑問や疑問の答えが工夫されている
- 応募した後の作品の取り扱いについて**  
(1) 学校で審査をして「学校代表」に決定します。(小学生10名、中学生5名程度)  
(2) 柏市で審査をして、「読書賞」、「カブト賞」、「読書賞」、「読書賞」に決定します。  
(3) (2) 賞も、「読書賞」に決定します。  
(4) 柏市代表作品は、「公財」図書館振興財団が主催する全国コンクールの二次審査に出展します。(全国コンクールの入賞は別枠で発表、図書館振興財団に帰属します。)  
問い合わせ先 柏市立図書館(柏市) 電話 0477-111-7300  
〒145-8501 柏市立図書館

# レーダーチャート分析シート利用方法

このシートは、当該学年の結果を柏市全体や同一集団の前年度、昨年度の同学年の結果と比較するためのものです。

- ① ファイル名  
 小学校用 「2019 小学校用レーダーチャート分析シート」  
 中学校用 「2019 中学校用レーダーチャート分析シート」
- ② シートは学年ごと、教科ごとに用意してあります。
- ③ 柏市平均正答率は既に入力してあります。
- ④ 入力データは、各年度の次のファイルを開いてコピーして貼り付けてください。  
 「柏市立〇〇〇学校 ①学力 (00) C1.xlsx」

★集計結果	目標値	平均正答率	甲斐値	満点率
市内	70.0	81.1	87.0	76.9
市町村		80.1	82.6	74.7
全国		81.2	84.8	76.7

項目名	目標値	市内	平均正答率	全国
語彙	78.0	81.1	80.1	81.2
読解	80.0	86.1	85.6	86.6
作文	65.0	67.3	64.4	65.0
総合	75.0	80.2	86.1	80.8
語彙	76.0	76.5	75.9	77.8
読解	78.0	76.0	73.8	76.3
作文	63.5	63.1	62.7	63.1
総合	73.0	73.8	72.9	74.0
語彙	68.2	66.1	66.0	66.0
読解	71.3	70.9	72.6	72.6
作文	70.6	67.5	69.7	69.7
総合	69.5	69.8	69.9	69.9
語彙	78.4	76.3	70.0	70.0
読解	80.0	90.5	90.8	90.9
作文	68.0	68.9	67.9	69.5

このデータを  
貼り付ける

学年の数字を入力(赤矢印)すると、表に学年が入ります。校種をまたぐ場合は手入力してください

学年	科目	結果	前年度
高次	教科全体	80.1	81.1
	基礎	55.6	56.0
	応用	54.4	54.7
中級	語彙	86.1	86.2
	読解	75.9	75.5
	作文	75.5	76.3
初級	基礎的知識力と基礎的読解に関する事項	83.1	83.5
	言語への関心・意欲・態度	72.9	73.8
	読解・読解力	88.1	88.2
	作文・作文力	70.9	71.3
	読解力	82.5	75.8
言語についての知識・読解・読解	90.5	90.5	

項目名とそれぞれの平均正答率を入力します。エクセルシートから**ただコピー**すると便利です。

### 小学 2年 国語

#### 1. 全体傾向

コメント

表の目盛りを変更したい場合は、グラフを選択し「1」のツールバーで「数値軸」-「軸の書式設定」をクリック後、任意の目盛りを振ります

グラフ  
数値軸

軸の書式設定  
目盛  
最小値: 50  
最大値: 100  
目盛間隔: 10

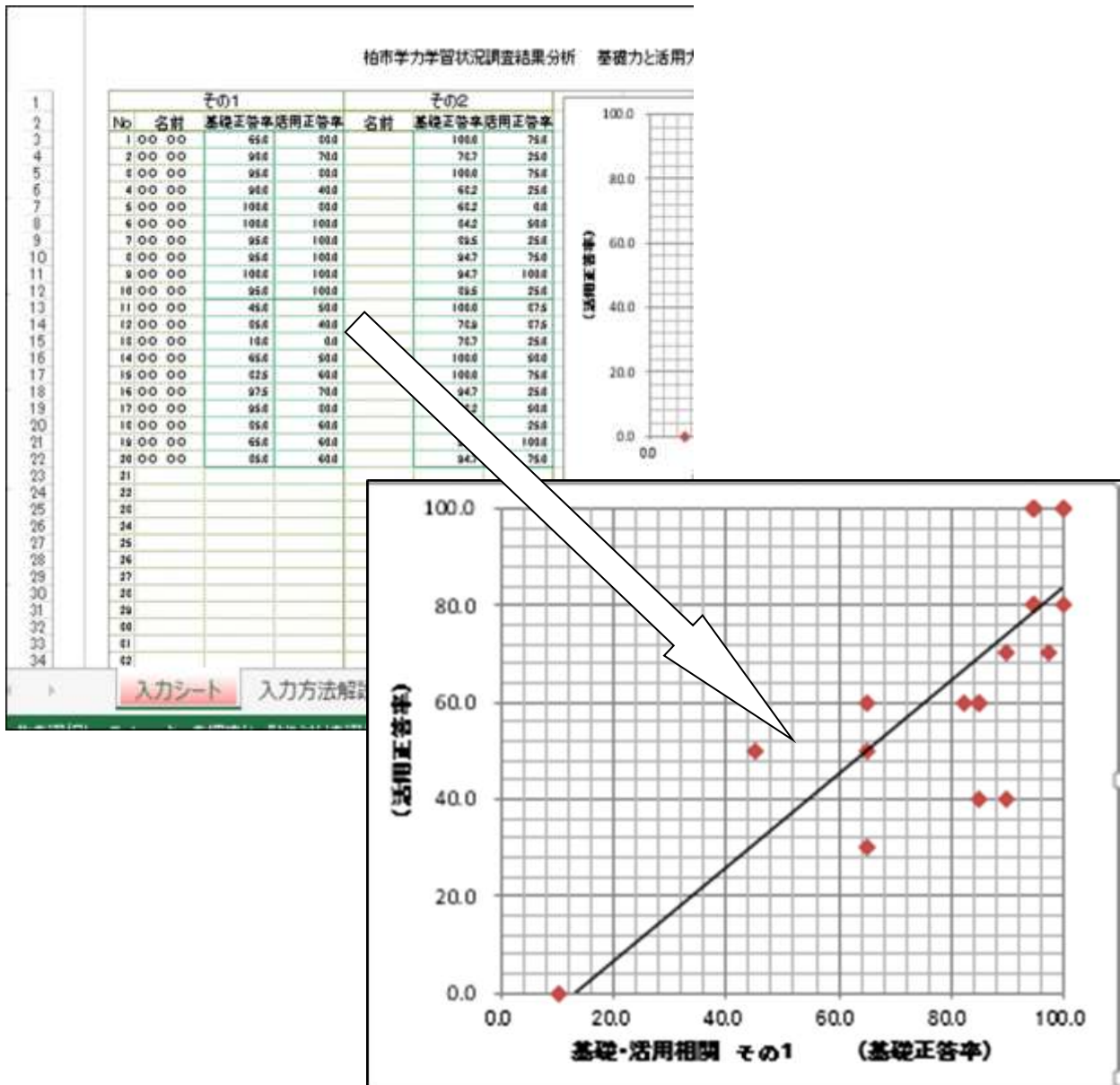
【国語】小2年 【国語】小3年 【国語】小4年 【国語】小5年 【国語】小6年 【算数】小2年

## 基礎と活用相関関係分析シート利用方法

このシートは、学級ごとに、基礎的な力と活用の力について、学級や一人一人の状況を分析するためのものです。

- ① ファイル名  
「基礎と活用相関関係分析シート」
- ② シートは必要数をコピーしてください。
- ③ 各学校に配付された「柏市立〇〇〇学校〇学年①学力 (\*\*) C1.xlsx」より、学級ごとのデータをコピーして貼り付けてください。
- ④ その1, その2の欄は、国語と算数, 昨年度と今年度など, 比較したいデータを組み替えて利用してください。

※ 子供の名前を転記する際には、取り扱いに十分注意をしてください。



令和元年度 柏市学力・学習状況調査

**結果報告及び改善案**  
**「学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む」**

編集 柏市教育委員会 柏市立教育研究所  
指導課  
児童生徒課

発行 2019年8月1日